

アンケート調査の結果

1 アンケート調査の概要

計画策定にあたり、高齢者の心身の状況やその置かれている環境、高齢者を支える人材の実態を把握するため、4種類のアンケート調査を実施しました。

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査目的	介護状態になる前の高齢者について、日頃の生活の状況やサービスの利用意向などを調査するもので、今後の高齢者福祉サービスや健康づくりの方策の検討
調査期間	令和元年12月6日から12月20日まで
対象者	本市の65歳以上の高齢者のうち要介護1～5以外の者 3,200人 ※令和元年11月27日現在の住民基本台帳より無作為抽出
調査方法	郵送により調査票を発送・回収
回収状況	有効回答数2,051件（有効回答率 64.1%）

(2) 在宅介護実態調査

調査目的	「高齢者の在宅生活の継続」と「介護者の就労継続」に向けた介護サービスの在り方を検討
調査期間	平成30年10月1日から令和元年9月30日まで
対象者	在宅で生活をしている要支援、要介護認定を受けている方のうち、調査期間内に更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受けた方
調査数	645人
調査方法	認定調査員が、調査対象者の認定調査の際に、本人及び主たる介護者と対面して当該調査について聞き取りを実施

(3) 介護サービス事業所実態調査

調査目的	介護人材の確保・育成、定着支援に関する取組を検討
調査期間	令和元年12月6日から12月20日まで
対象者	令和元年10月1日現在、徳島市内でサービスを提供している事業所540事業所
調査方法	郵送配布、郵送・FAX及びメールによる回収
回収状況	有効回答数 436件（有効回答率 80.7%）

(4) 居所変更実態調査報告書

調査目的	住み慣れた住まい等で暮らし続けるために必要な機能等を検討
調査期間	令和2年1月6日から1月20日まで
対象者	令和元年12月1日現在、徳島市内にある施設・居住系サービス事業所164事業所
調査方法	郵送配布、郵送・FAX及びメールによる回収
回収状況	有効回答数127件（有効回答率77.4%）

2 アンケート調査の結果

【1】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1. 回答者の属性

(1) 圏域、年齢、性別

単位（上段）：人、単位（下段）：%

		母数 (n)	圏域			
			北部地域	西部地域	南西部地域	南東部地域
全 体		2,051	648	524	471	408
		100.0	31.6	25.5	23.0	19.9
性別	男性	887	281	223	198	185
		100.0	31.7	25.1	22.3	20.9
	女性	1,164	367	301	273	223
		100.0	31.5	25.9	23.5	19.2
年齢	65～69歳	533	166	138	121	108
		100.0	31.1	25.9	22.7	20.3
	70～74歳	559	185	139	120	115
		100.0	33.1	24.9	21.5	20.6
	75～79歳	430	141	99	105	85
		100.0	32.8	23.0	24.4	19.8
	80～84歳	292	91	83	66	52
		100.0	31.2	28.4	22.6	17.8
	85歳以上	237	65	65	59	48
		100.0	27.4	27.4	24.9	20.3
性・年齢	男性 前期高齢者	491	158	118	109	106
		100.0	32.2	24.0	22.2	21.6
	後期高齢者	396	123	105	89	79
		100.0	31.1	26.5	22.5	19.9
	女性 前期高齢者	601	193	159	132	117
		100.0	32.1	26.5	22.0	19.5
	後期高齢者	563	174	142	141	106
		100.0	30.9	25.2	25.0	18.8

2. 各種リスク判定結果

(1) 運動器の機能低下リスク

● リスク判定方法

以下の設問に対して5問中3問以上該当する場合は、運動器機能の低下している高齢者となります。

設問	選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない
15分位続けて歩いていますか	できない
過去1年間に転んだことはありますか	何度もある／1度ある
転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である／やや不安である

【全体】

「該当」が22.5%、「非該当」が77.5%となっています。

【認定該当状況】

「該当」について、一般高齢者では16.4%であるのに対し、総合事業対象者が52.9%、要支援1・2が74.1%と多くなっています。

【性・年齢（一般高齢者）】

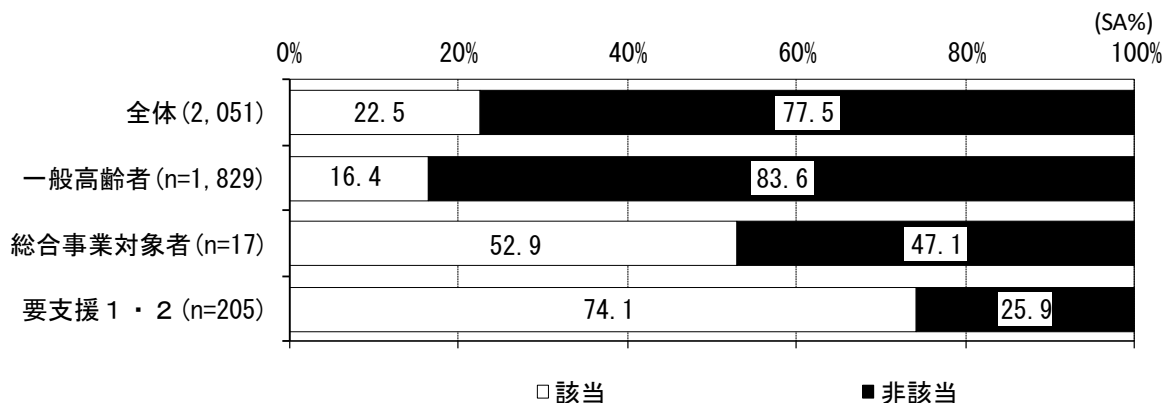
「該当」について、女性の後期高齢者が30.9%と最も多く、次いで男性の後期高齢者が21.6%となっています。男女ともに、後期高齢者の該当者は、前期高齢者の約3倍となっています。

【圏域（一般高齢者）】

「該当」について、最も多い南西部（18.2%）と最も少ない「南東部（14.0%）」との差は4.2ポイントとなっています。

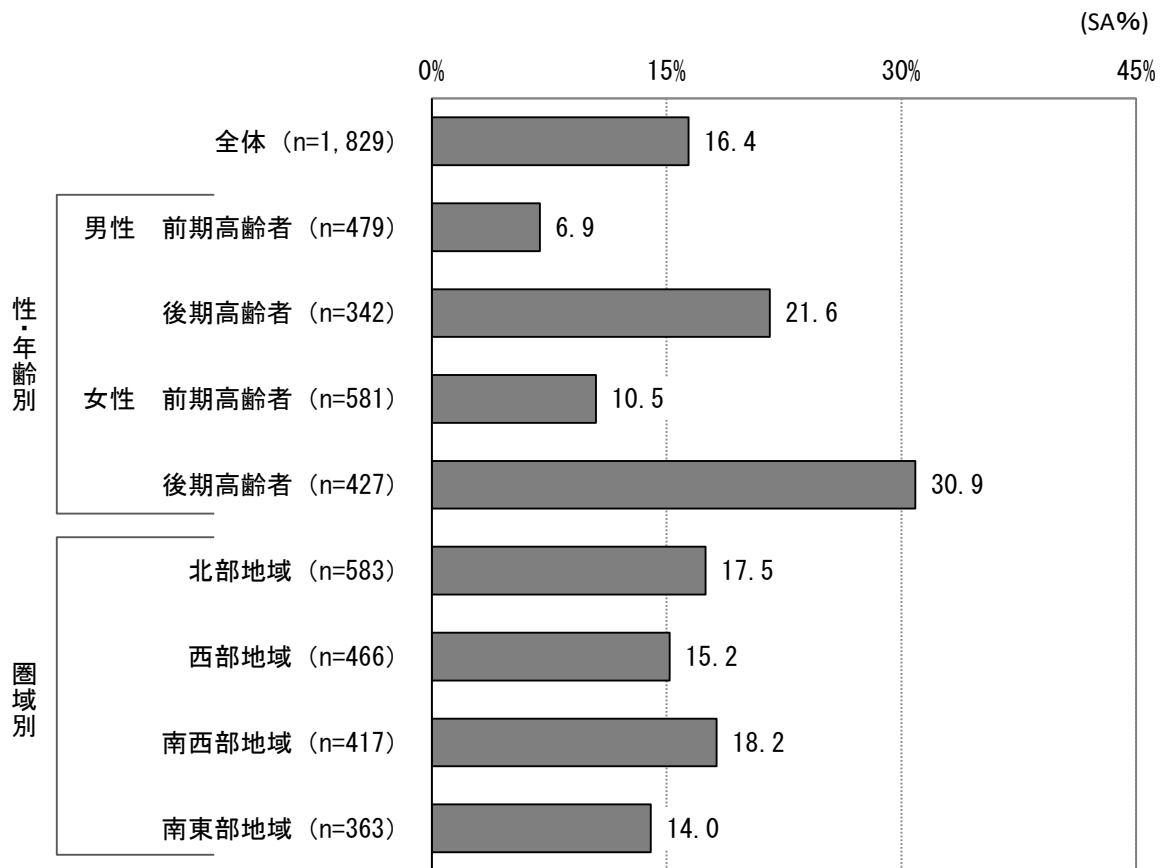
【全体：運動器の機能低下リスク該当者の割合】

（全体、認定該当状況別）



【一般高齢者：運動器の機能低下リスク該当者の割合】

(一般高齢者全体、性・年齢別、圏域別)



【第7期との比較】

	第8期	第7期	増減
リスク該当者の割合	22.5	20.4	2.1

(2) 転倒リスク

● リスク判定方法

以下の設問に対して該当する場合は、転倒リスクのある高齢者となります。

設問	選択肢
過去1年間に転んだことはありますか	何度もある／1度ある

【全体】

「該当」が36.9%、「非該当」が63.1%となっています。

【認定該当状況】

「該当」について、一般高齢者では33.5%だったのに対し、総合事業対象者が70.6%、要支援1・2が64.9%と約2倍の確率となっています。

【性・年齢（一般高齢者）】

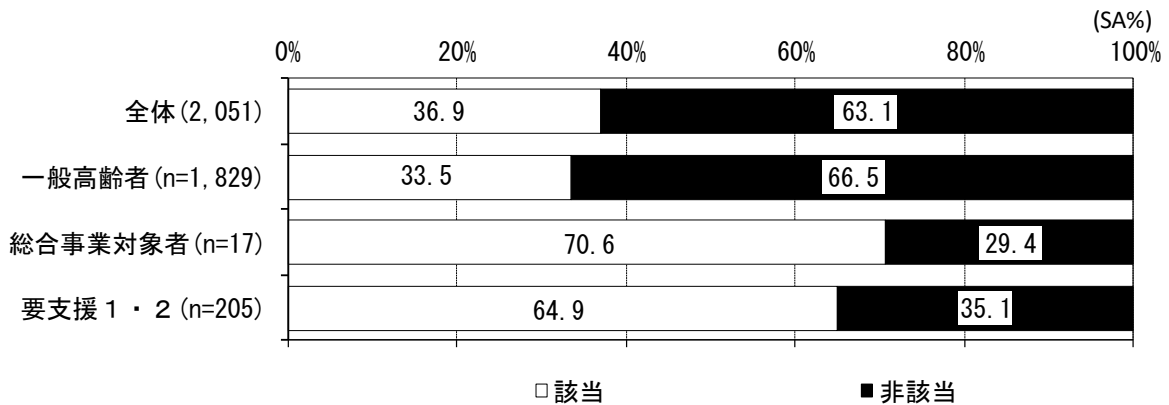
「該当」について、女性の後期高齢者が43.6%と最も多く、次いで男性の後期高齢者が39.8%となっています。

【圏域（一般高齢者）】

「該当」について、南東部が30.6%とやや低くなっています（他圏域は34%台）。

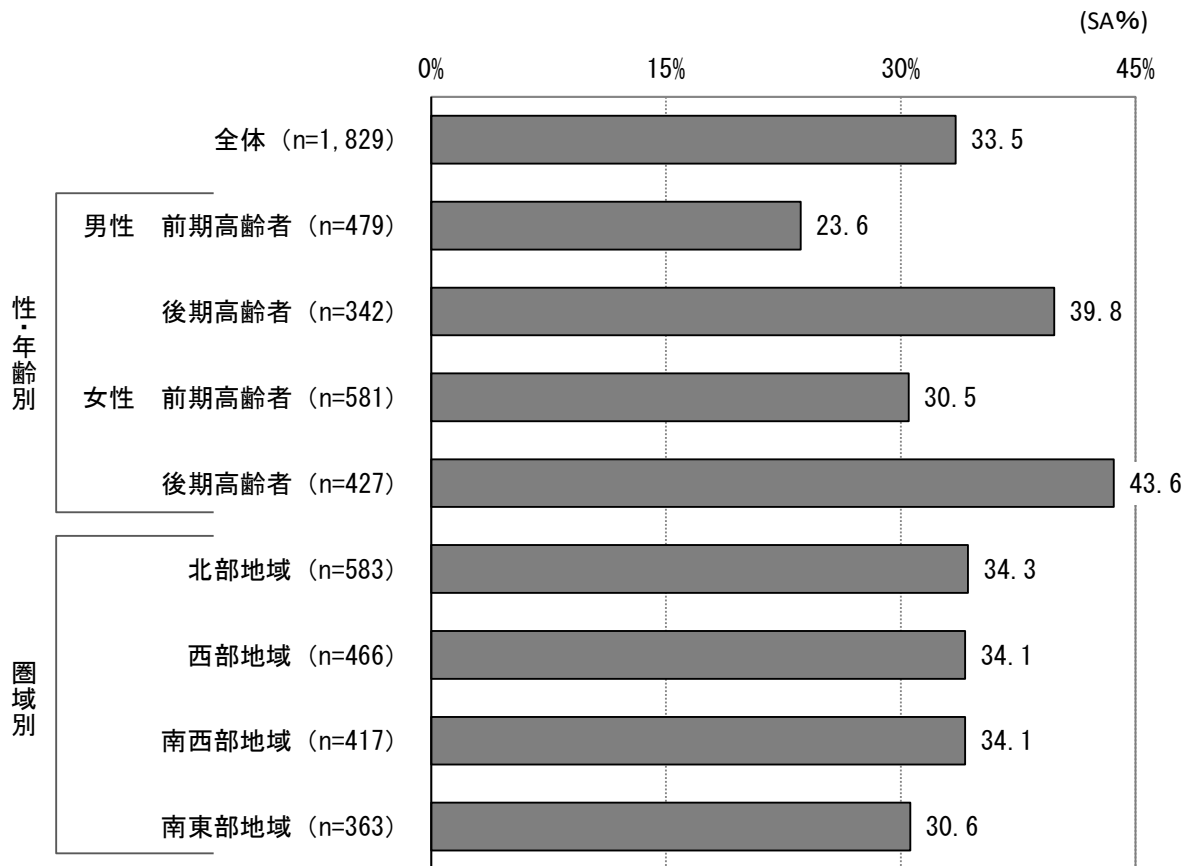
【全体：転倒リスク該当者の割合】

（全体、認定該当状況別）



【一般高齢者：転倒リスク該当者の割合】

(一般高齢者全体、性・年齢別、圏域別)



【第7期との比較】

	第8期	第7期	増減
リスク該当者の割合	36.9	35.0	1.9

(3) 閉じこもりのリスク

● リスク判定方法

以下の設問に対して該当する場合は、閉じこもり傾向のある高齢者となります。

設問	選択肢
週に1回以上は外出していますか	ほとんど外出しない／週1回

【全体】

「該当」が17.8%、「非該当」が82.2%となっています。

【認定該当状況】

「該当」について、一般高齢者の14.4%であったの対し、総合事業対象者が41.2%、要支援1・2が45.9%と、約3倍の該当率になっています。

【性・年齢（一般高齢者）】

「該当」について、女性の後期高齢者が22.0%と最も多く、次いで男性の後期高齢者の21.9%となっています。女性の前期高齢者が最も低く、7.6%となっています。

【圏域（一般高齢者）】

「該当」について、最も多い「南東部（16.3%）」と最も少ない「南西部（13.2%）」の差は3.1ポイントとなっています。

【家族構成（一般高齢者）】

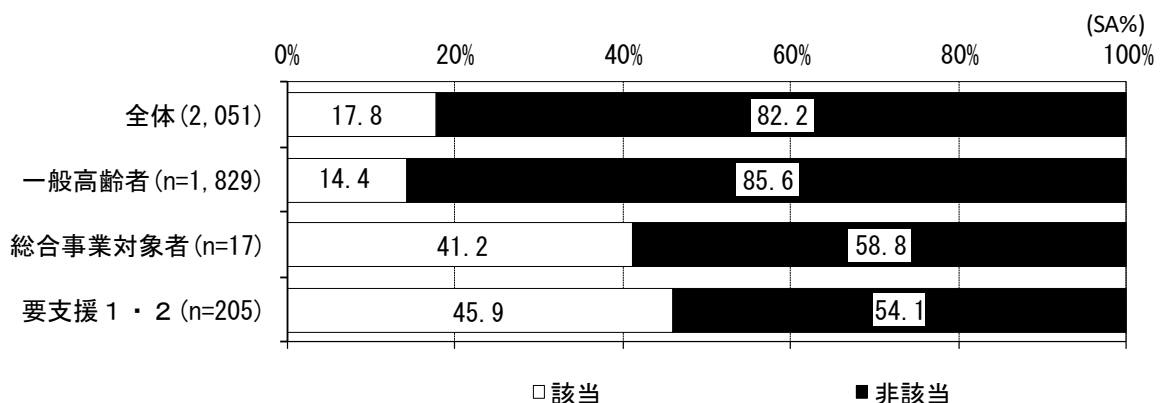
「該当」について、息子・娘との2世帯が20.6%と最も多く、最も低かった夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）（12.4%）と比較すると、8.2ポイント多くなっています。

【外出を控えている理由（リスク該当者）】

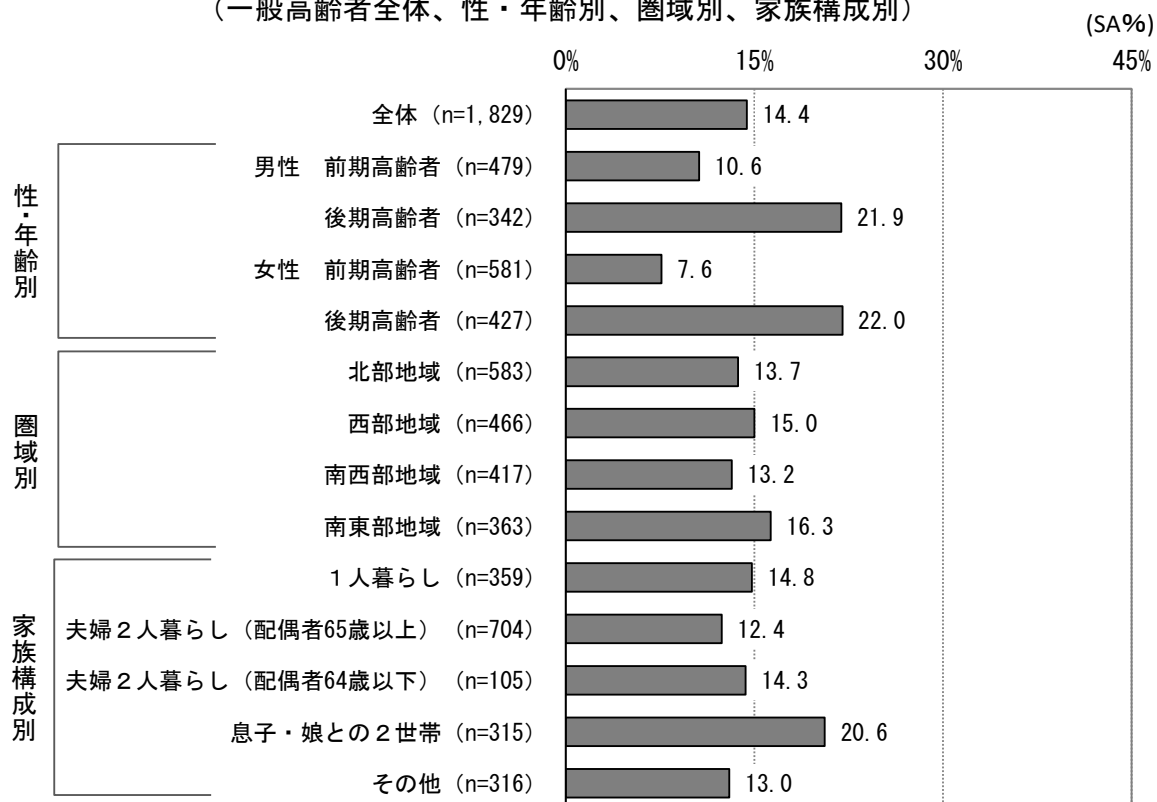
男女ともに「足腰の痛み」が最も多く、次いで「病気」（女性は同率で「尿失禁の心配」）となっています。男性は、3番目に「外での楽しみがない」が多くなっています。

【全体：閉じこもりリスク該当者の割合】

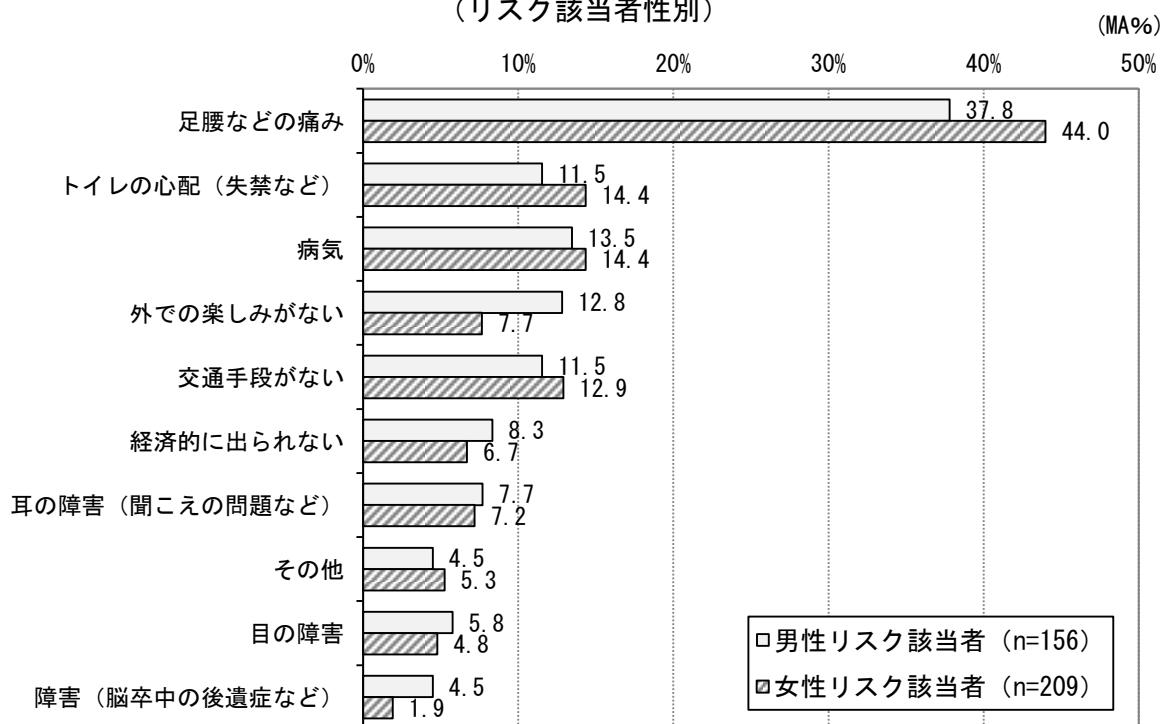
（全体、認定該当状況別）



【一般高齢者：閉じこもりリスク該当者の割合】
 (一般高齢者全体、性・年齢別、圏域別、家族構成別)



【閉じこもりリスク該当者：外出を控えている理由】
 (リスク該当者性別)



【第7期との比較】

	第8期	第7期	増減
リスク該当者の割合	17.8	18.0	△0.2

(4) 口腔機能の低下リスク

● リスク判定方法

以下の設問に対して3問中2問該当する場合は、口腔機能の低下している高齢者となります。

設問	選択肢
【咀嚼機能低下】半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい
【嚥下機能低下】お茶や汁物等でむせることがありますか	はい
【肺炎発症リスク】口の渇きが気になりますか	はい

【全体】

「該当」が29.3%、「非該当」が70.7%となっています。

【認定該当状況】

「該当」について、一般高齢者では26.6%であったのに対し、最も多い要支援1・2が52.7%と約2倍となっています。

【性・年齢（一般高齢者）】

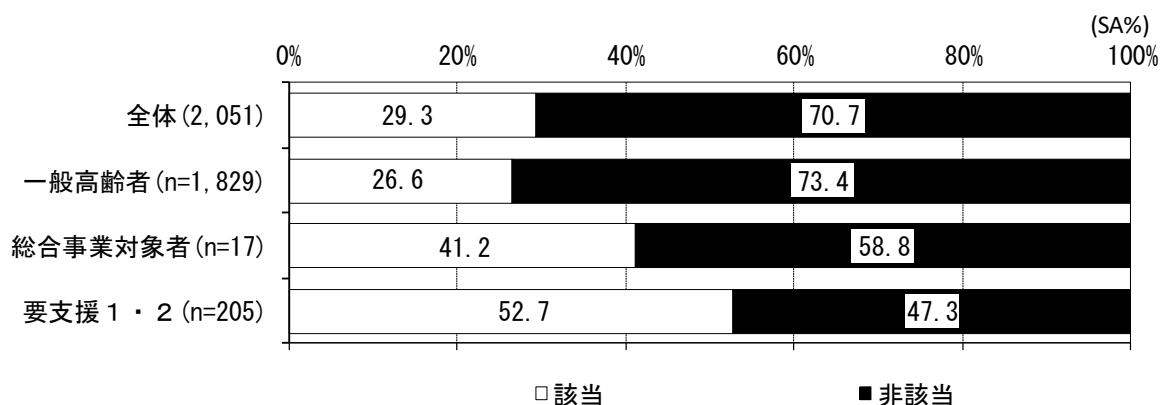
「該当」について、女性の後期高齢者が34.0%と最も多く、次いで男性の後期高齢者が33.9%となっています。男女ともに後期高齢者で多く、前期高齢者の約1.6倍となっています。

【圏域（一般高齢者）】

「該当」について、最も多い「南西部地域（30.5%）」と最も少ない「西部地域（24.2%）」との差は6.3ポイントとなっています。

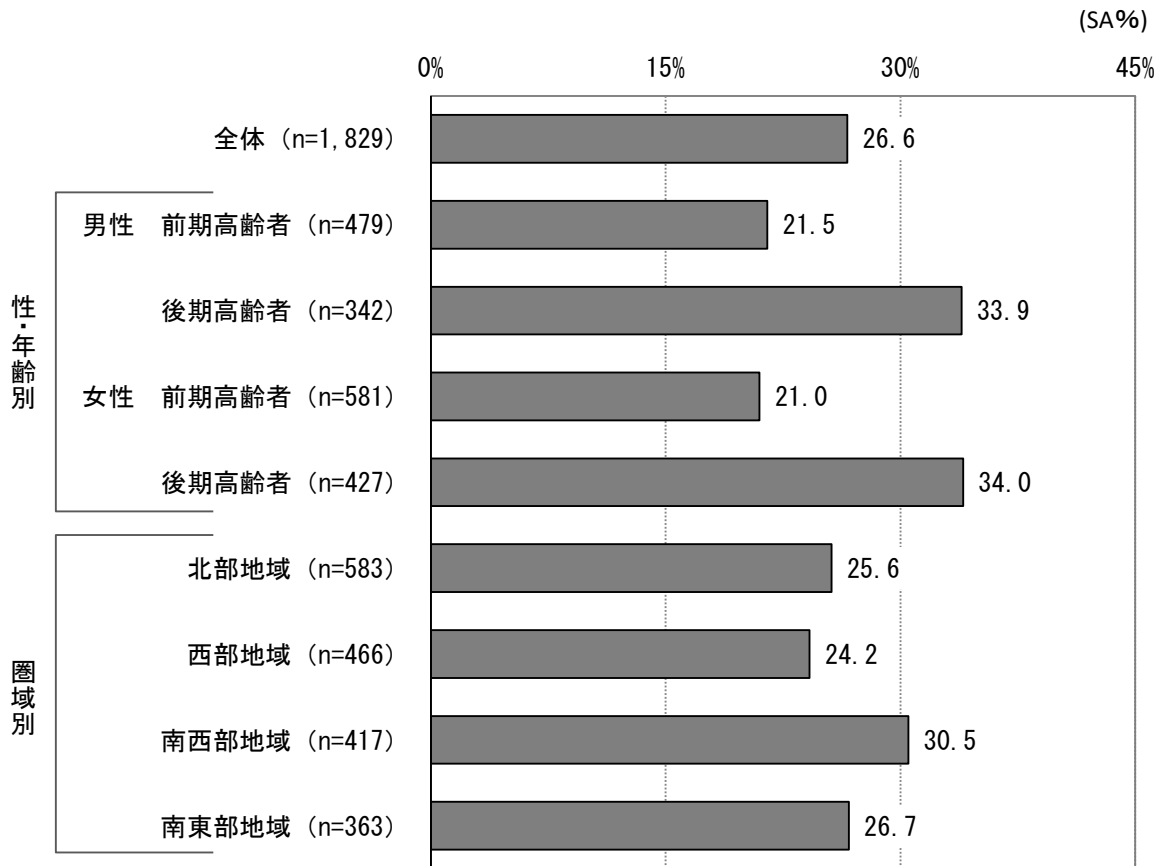
【全体：口腔機能低下リスク該当者の割合】

(全体、認定該当状況別)



【一般高齢者：口腔機能低下リスク該当者の割合】

(一般高齢者全体、性・年齢別、圏域別)



【第7期との比較】

	第8期	第7期	増減
リスク該当者の割合	29.3	33.3	△4.0

(5) 栄養改善のリスク

● リスク判定方法

以下の設問に該当する場合は栄養改善リスクのある高齢者となります。

設問	選択肢
身長・体重から算出される BMI (体重 (kg) ÷ 身長 (m) ²)	18.5 未満

【全体】

「該当」が 8.1%、「非該当」が 91.9%となっています。

【認定該当状況】

「該当」について、一般高齢者では「該当」が 7.6%に対し、総合事業対象者が 11.8% (+4.2)、要支援 1・2 が 12.7% (+5.1%) となっています。

【性・年齢】

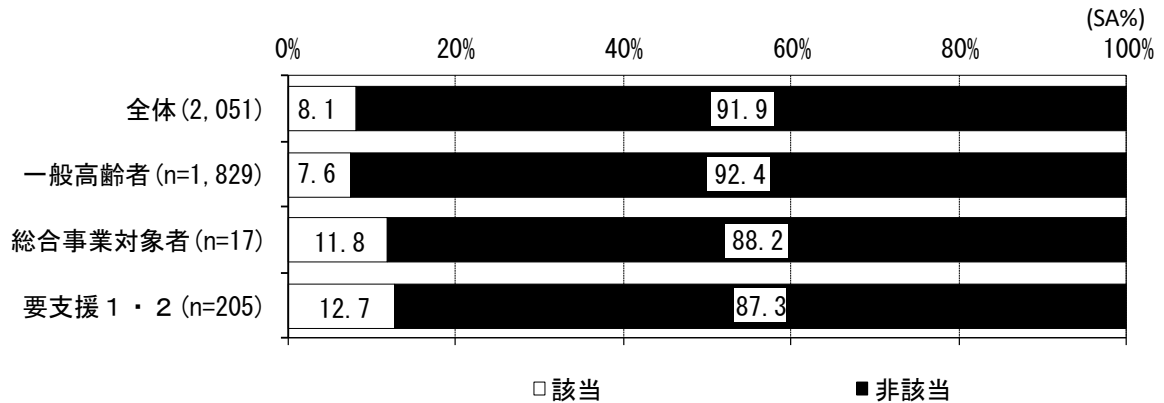
「該当」について、前期高齢者・後期高齢者ともに男性よりも女性が多くなっています。

【圏域】

「該当」について、最も多い「南東部 (9.8%)」と最も少ない「西部地区 (7.3%)」の差は 2.5 ポイント、平均の 8.1%から ±1.7 ポイント以内に分布しています。

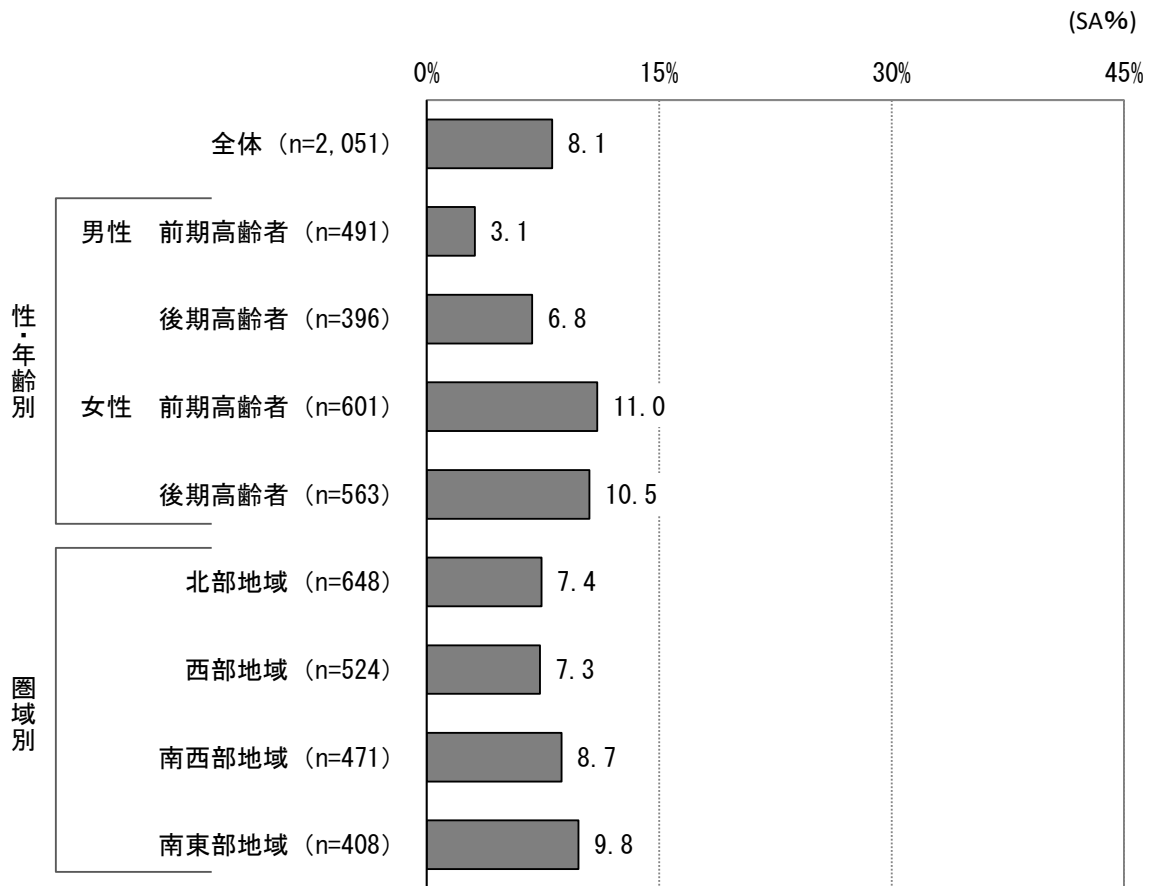
【全体：栄養改善リスク該当者の割合】

(全体、認定該当状況別)



【全体：栄養改善リスク該当者の割合】

(全体、性・年齢別、圏域別)



【第7期との比較】

	第8期	第7期	増減
リスク該当者の割合	8.1	7.3	0.8

(6) 低栄養のリスク

● リスク判定方法

以下の設問に対して2問中2問該当する場合は、低栄養状態にある高齢者となります。

設問	選択肢
身長・体重から算出されるBMI (体重 (kg) ÷身長 (m) ²)	18.5未満
6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	はい

【全体】

「該当」が1.5%、「非該当」が98.5%となっています。

【認定該当状況】

「該当」について、一般高齢者の0.9%に対して、総合事業対象者と要支援1・2がそれぞれ5.9%と5ポイント高くなっています。

【性・年齢（一般高齢者）】

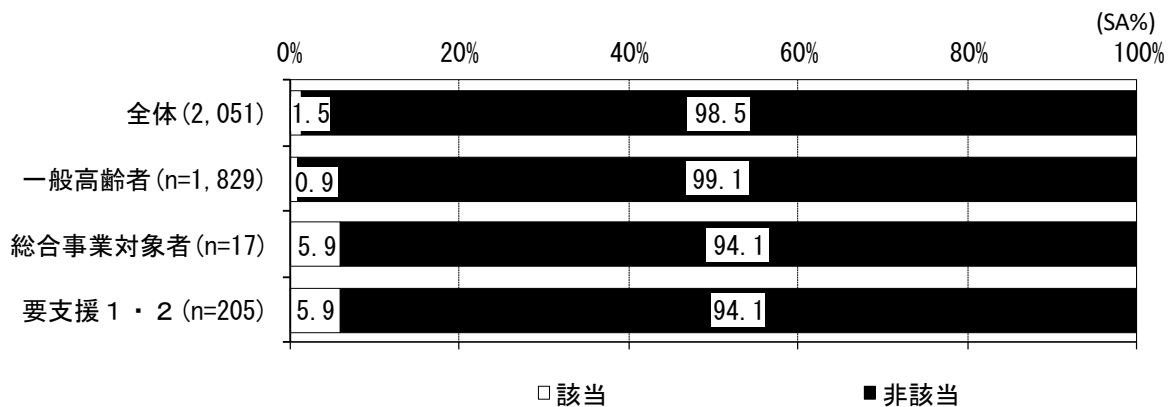
「該当」について、男性の前期高齢者が0.8%、男性の後期高齢者が0.9%、女性の前期高齢者が1.0%、女性の後期高齢者が0.9%となっており、ほとんど差は見られませんでした。

【圏域（一般高齢者）】

「該当」について、西部が0.4%とやや低くなっています。

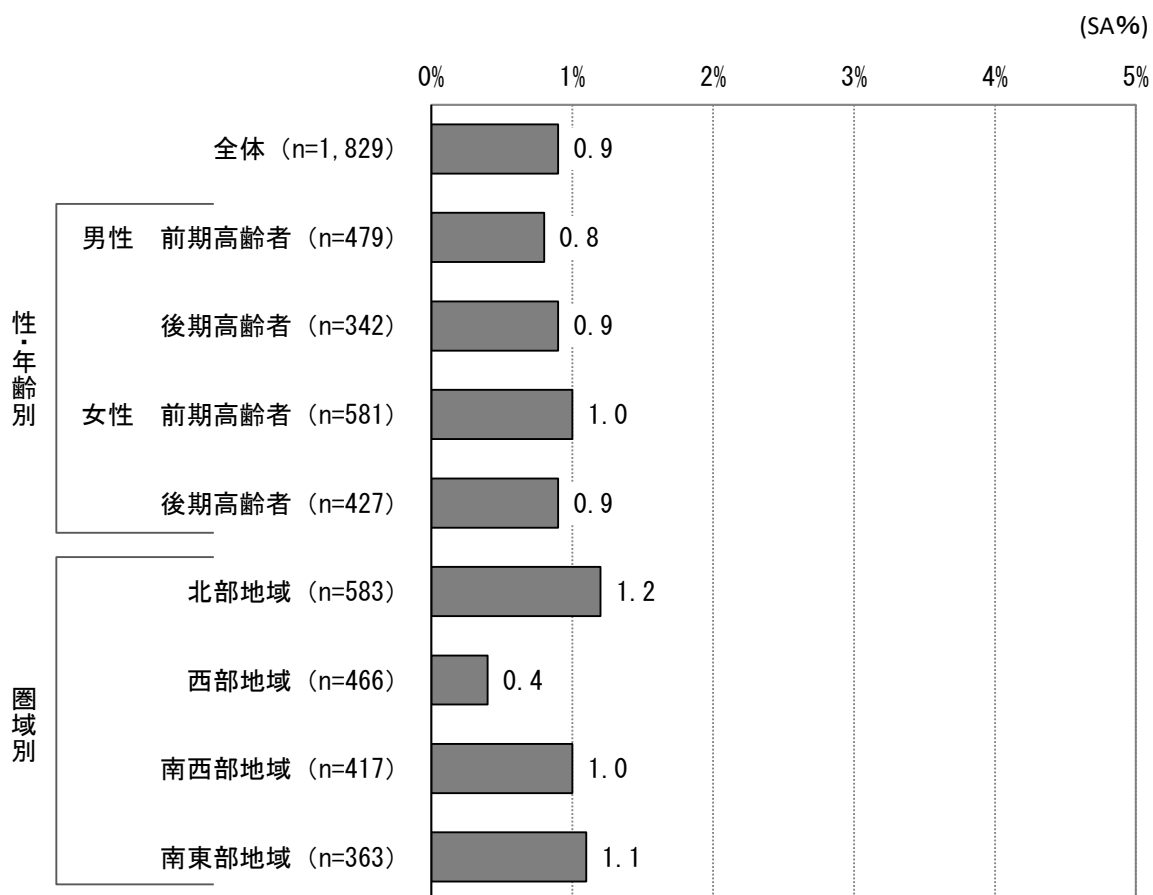
【全体：低栄養リスク該当者の割合】

(全体、認定該当状況別)



【一般高齢者：低栄養リスク該当者の割合】

(一般高齢者全体、性・年齢別、圏域別)



(7) 認知機能の低下リスク

● リスク判定方法

以下の設問に対して該当する場合は、認知機能の低下がみられる高齢者となります。

設問	選択肢
物忘れが多いと感じますか	はい

【全体】

「該当」が 51.4%、「非該当」が 48.6%となっています。

【認定該当状況】

「該当」について、一般高齢者では 48.4%であったのに対し、総合事業対象者が 70.6%、要支援 1・2 が 76.6%と多くなっています。

【性・年齢（一般高齢者）】

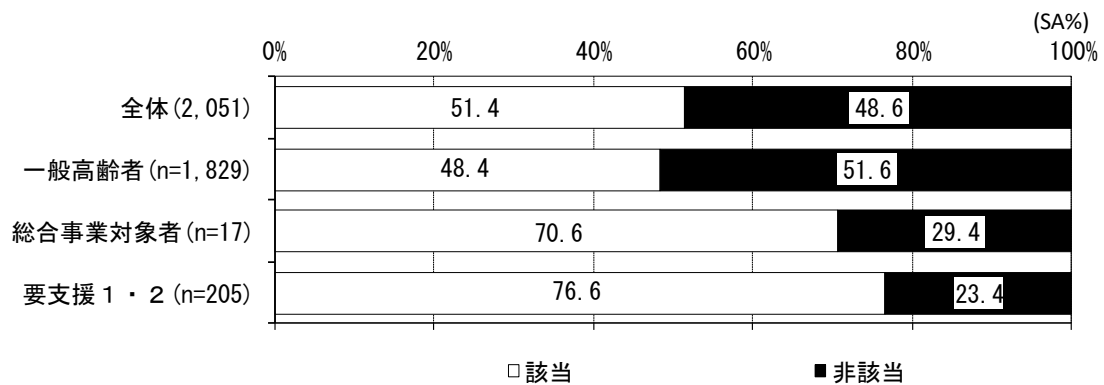
「該当」について、男女ともに後期高齢者が前期高齢者に比べて多くなっています。

【圏域（一般高齢者）】

最も多い「南西部（50.6%）」と最も少ない「西部（46.8%）」との差は 3.8 ポイントとなっています。

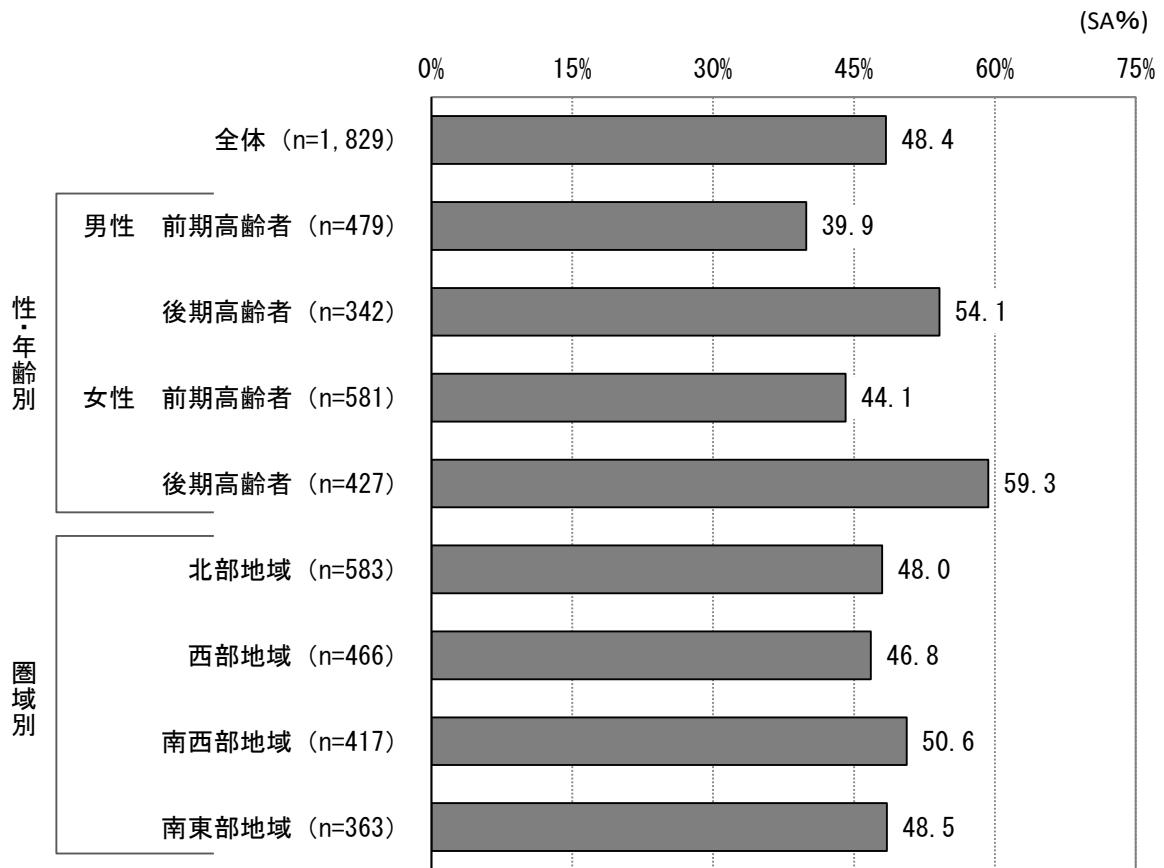
【全体：認知機能低下リスク該当者の割合】

（全体、認定該当状況別）



【一般高齢者：認知機能低下リスク該当者の割合】

(一般高齢者全体、性・年齢別、圏域別)



【第7期との比較】

	第8期	第7期	増減
リスク該当者の割合	51.4	50.8	0.6

(8) IADLの判定

●IADL の判定方法

以下の設問に「できるし、している」「できないけどしていない」と回答した場合を1点として5点満点で判定し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価。

設問	選択肢	配点
バスや電車で一人で外出していますか（自家用車でも可）	できるし、している／ できるけどしていない	1点
自分で食品・日用品の買物をしていますか	できるし、している／ できるけどしていない	1点
自分で食事の用意をしていますか	できるし、している／ できるけどしていない	1点
自分で請求書の支払いをしていますか	できるし、している／ できるけどしていない	1点
自分で預貯金の出し入れをしていますか	できるし、している／ できるけどしていない	1点

※手段的自立度（IADL）とは、『手段的日常生活動作』と訳され、日常生活を送る上で必要な動作のうち、買い物や洗濯、掃除等の家事全般や、金銭管理や服薬管理、外出して乗り物に乗ることなどを指します。

【全体】

「5点（高い）」が82.4%で最も多く、次いで「4点（やや低い）」が8.4%、「3点以下（低い）」が6.5%となっています。

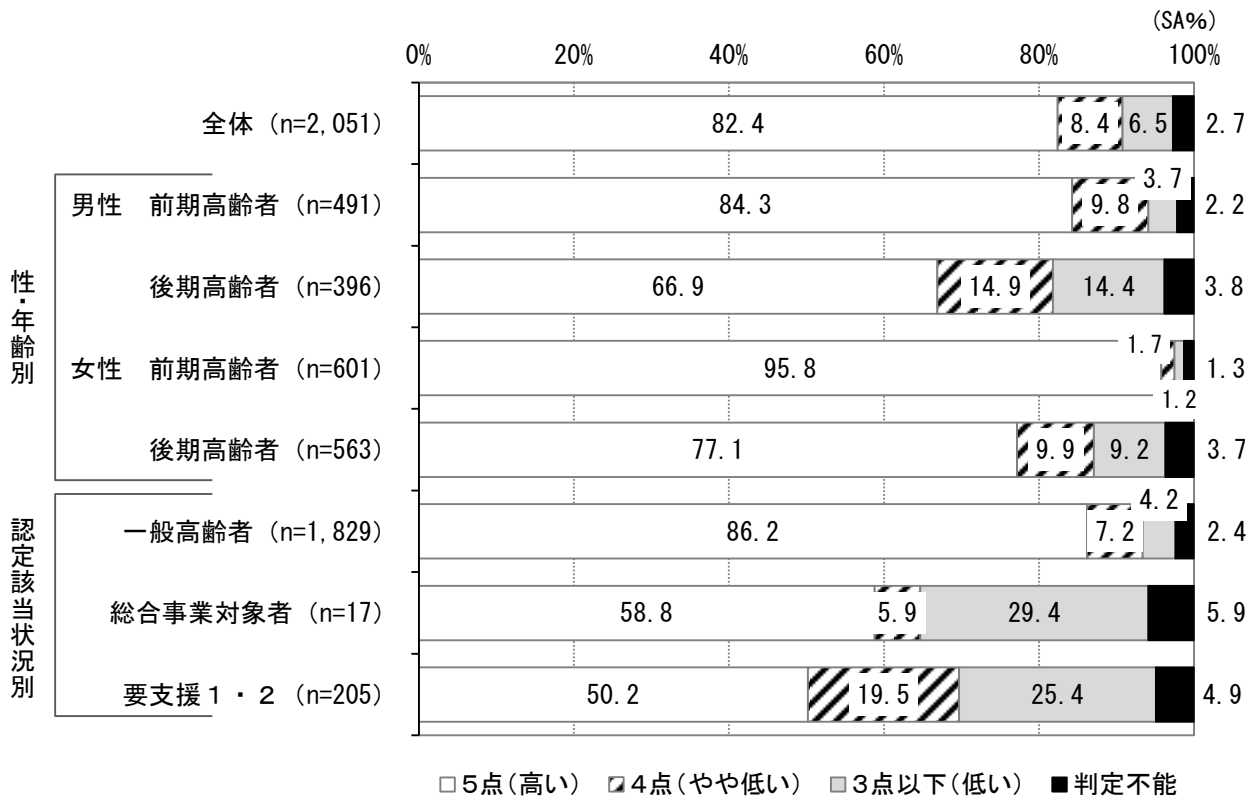
【性・年齢】

「3点以下（低い）」は、男性の後期高齢者が14.4%と最も多くなっています。

【認定該当状況】

「3点以下（低い）」は、一般高齢者が4.2%と低いのに対して、総合事業対象者は29.4%（一般高齢者の7倍）、要支援1・2は25.4%（一般高齢者の6倍）とそれぞれ多くなっています。

【全体：IADL の判定結果】
 (全体、性・年齢別、認定該当状況別)



【第7期との比較】

	第8期	第7期	増減
リスク該当者 (3点以下) の割合	6.5	8.1	△1.6

(9) 知的能動性

●知的能動性の判定方法

以下の設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価。

設問	選択肢	配点
年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	はい	1点
新聞を読んでいますか	はい	1点
本や雑誌を読んでいますか	はい	1点
健康についての記事や番組に関心がありますか	はい	1点

【全体】

「4点（高い）」が58.7%で最も多く、次いで「3点（やや低い）」が24.5%、「2点以下（低い）」が14.0%となっています。

【認定該当状況】

- 「4点（高い）」は、一般高齢者の60.8%が最も多く、総合事業対象者では47.1%、要支援1・2は40.5%と少なくなっています。
- 「2点以下（低い）」は、一般高齢者では12.1%であったのに対して、総合事業対象者では23.5%、要支援1・2は29.8%となっています。

【性・年齢（一般高齢者）】

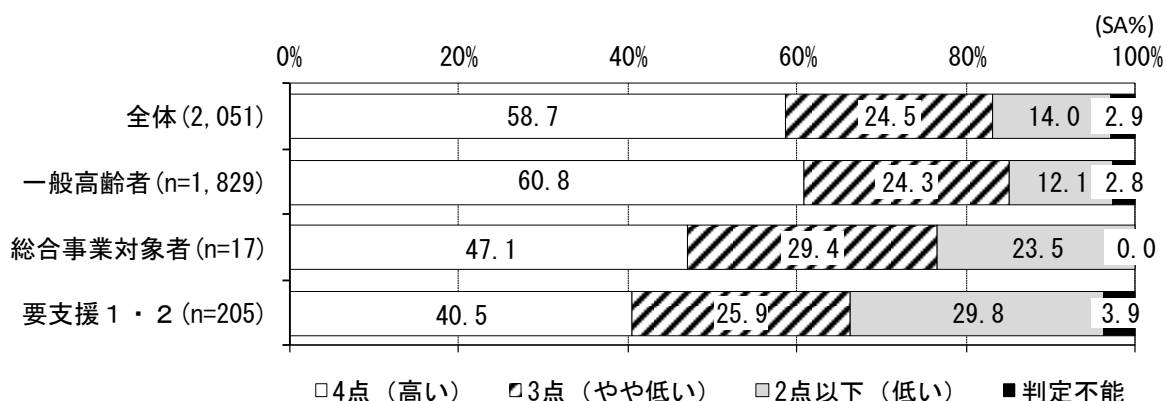
「4点（高い）」は、前期高齢者・後期高齢者ともに女性が男性よりも多くなっています。

【各設問の回答状況】

- 「年金などの書類がかけますか」「本や雑誌を読んでいますか」では年齢差が見られました。
- 「新聞を読んでいますか」は、性別差や年齢差はほとんど見られませんでした。
- 「健康についての記事や番組に関心がありますか」では「はい」と答えた人は90.1%で、女性が男性よりやや関心が高い傾向が見られましたが、年齢差は見られませんでした。

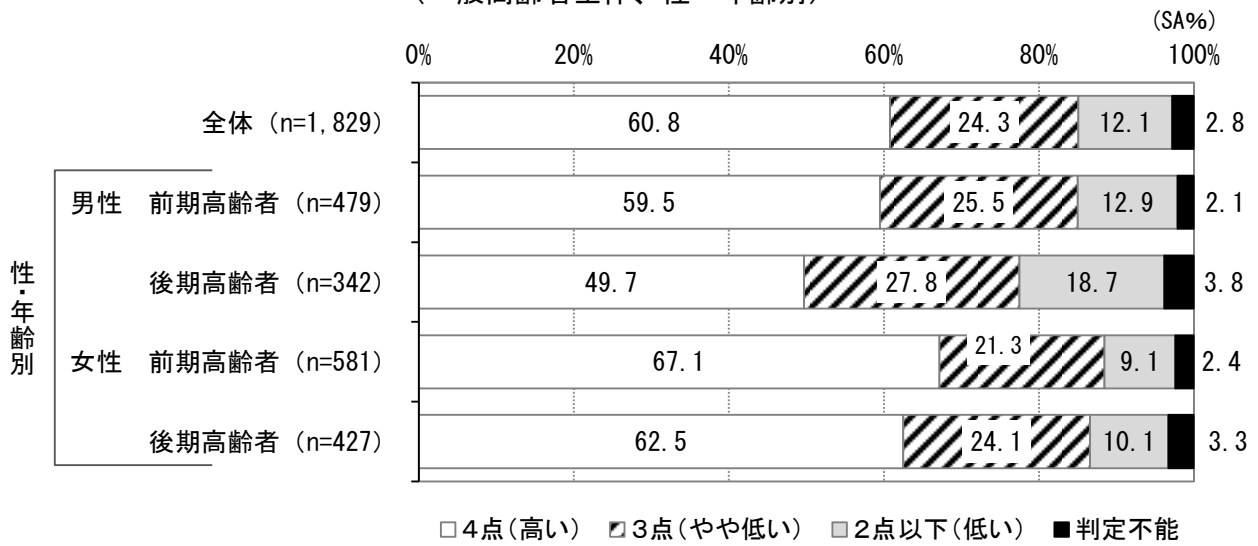
【全体：知的能動性判定結果】

（全体、認定該当状況別）



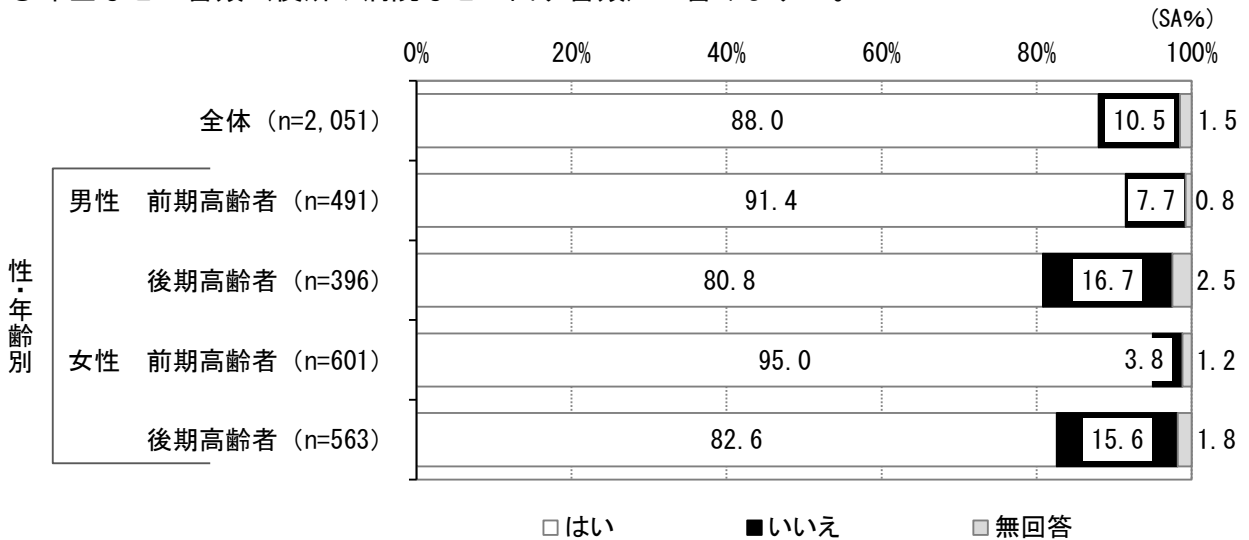
【一般高齢者：知的能動性判定結果】

(一般高齢者全体、性・年齢別)

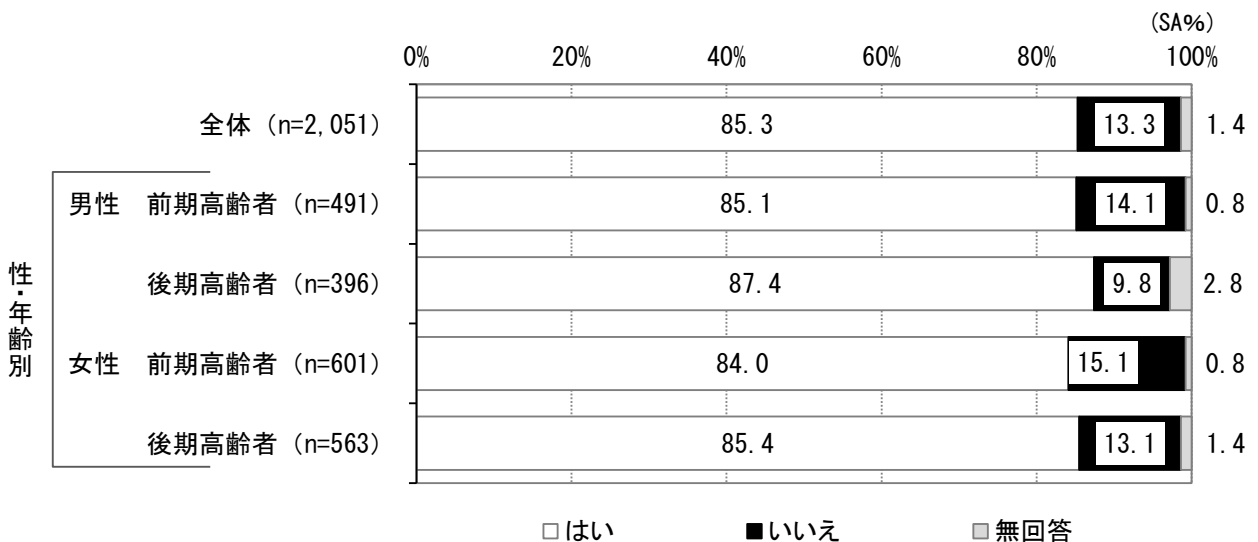


【全体：各設問の回答状況】 (全体、性・年齢別)

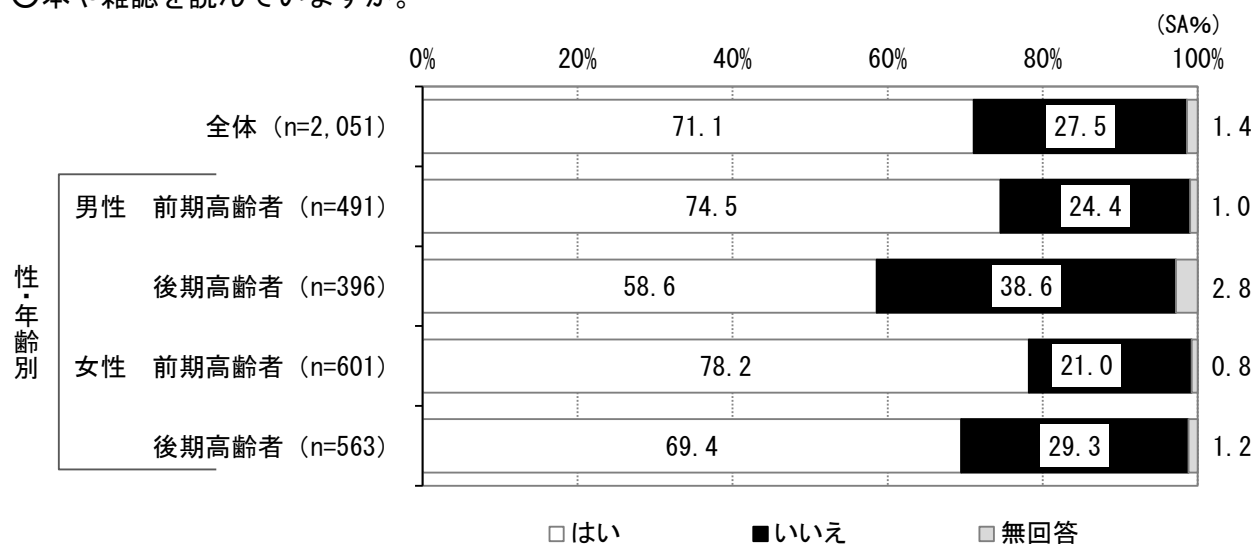
○年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。



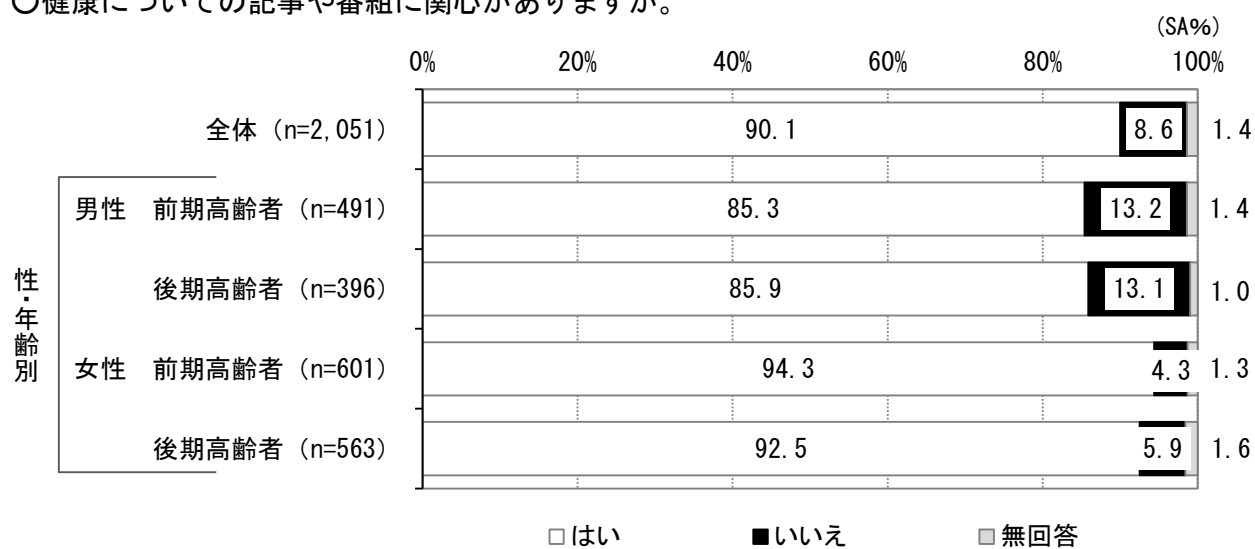
○新聞を読んでいますか。



○本や雑誌を読んでいますか。



○健康についての記事や番組に関心がありますか。



(10) 社会的役割

●社会的役割の判定方法

以下の設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価。

設問	選択肢	配点
友人の家を訪ねていますか	はい	1点
家族や友人の相談にのっていますか	はい	1点
病人を見舞うことができますか	はい	1点
若い人に自分から話しかけることがありますか	はい	1点

【全体】

「4点（高い）」が38.0%で最も多く、次いで「2点以下（低い）」が31.1%、「3点（やや低い）」が27.2%となっています。

【認定該当状況】

「4点（高い）」は、一般高齢者が40.4%に対し、総合事業対象者及び要支援1・2は半分以下となっています。

【性・年齢（一般高齢者）】

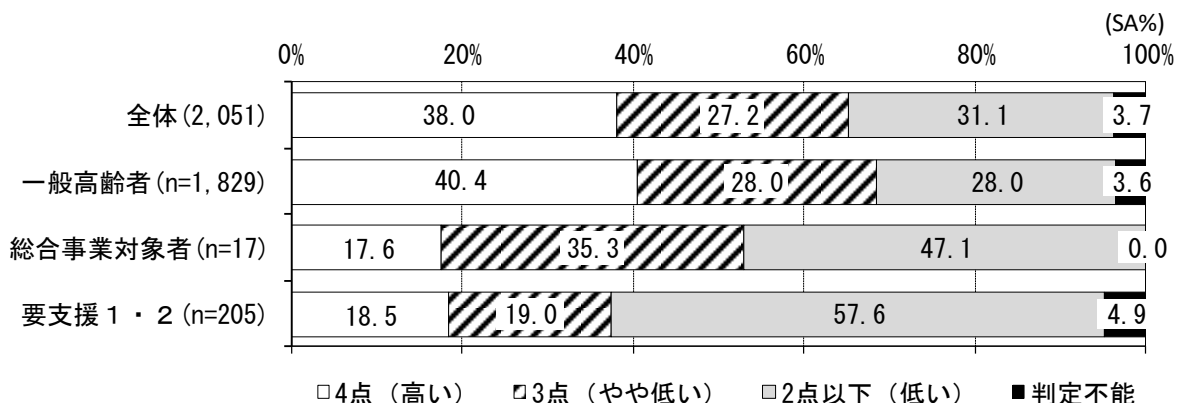
「2点以下（低い）」は、男性が女性より多い傾向が見られ、男性の後期高齢者が41.8%で最も多く、次いで男性の前期高齢者が33.0%となっています。

【各設問の該当状況（全体）】

「病人を見舞うことができますか」では男女差は見られませんでした、その他の設問では女性の方が「はい」と答える割合が多くなっています。

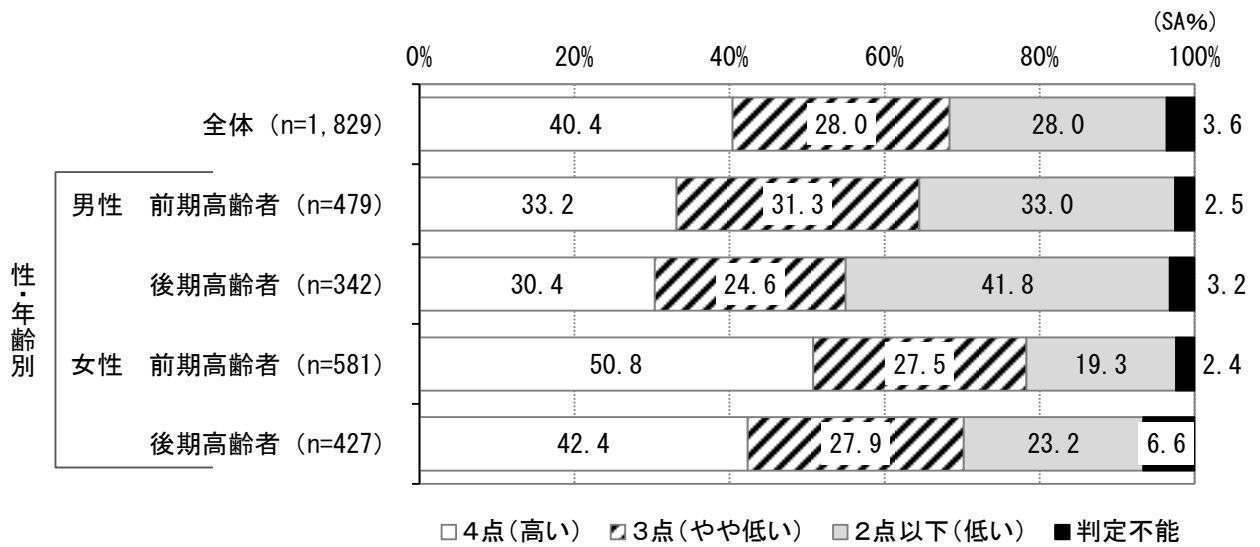
【全体：社会的役割の判定結果】

（全体、認定該当状況別）



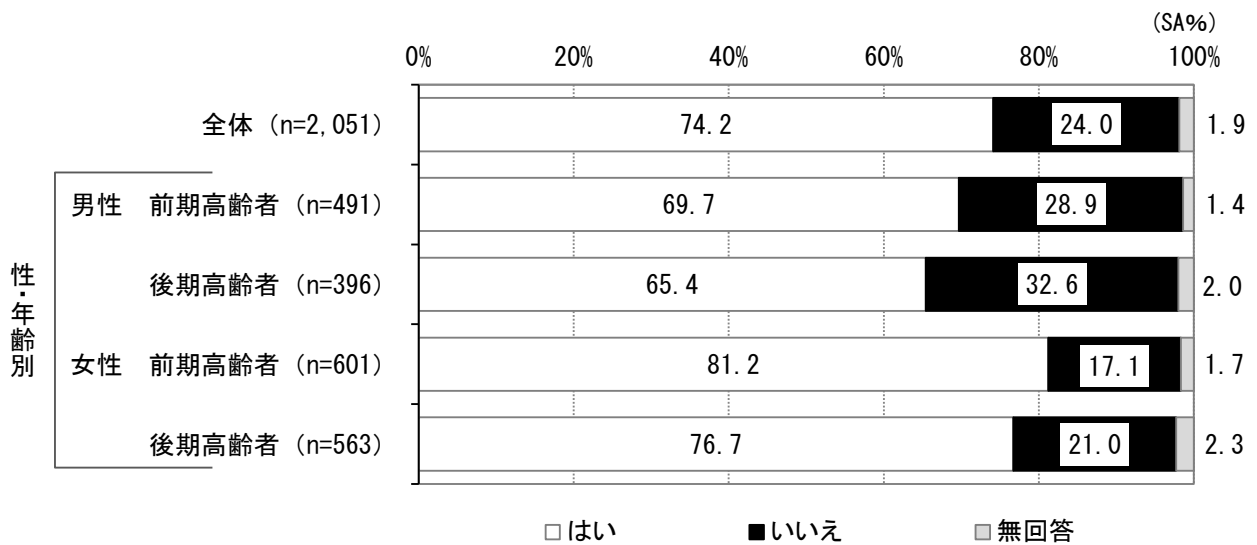
【一般高齢者：社会的役割の判定結果】

(一般高齢者全体、性・年齢別)



【参考結果】

○若い人に自分から話しかけることがありますか。



(11) うつのリスク

● リスク判定方法

以下の設問に対して2問中いずれか1つでも該当する場合は、うつ傾向の高齢者となります。

設問	選択肢
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	はい
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	はい

【全体】

「該当」が44.6%で最も多く、「非該当」が55.4%となっています。

【認定該当状況】

「該当」について、一般高齢者が42.9%であったのに対し、総合事業対象者が58.8%、要支援1・2が58.5%と多くなっています。

【性・年齢（一般高齢者）】

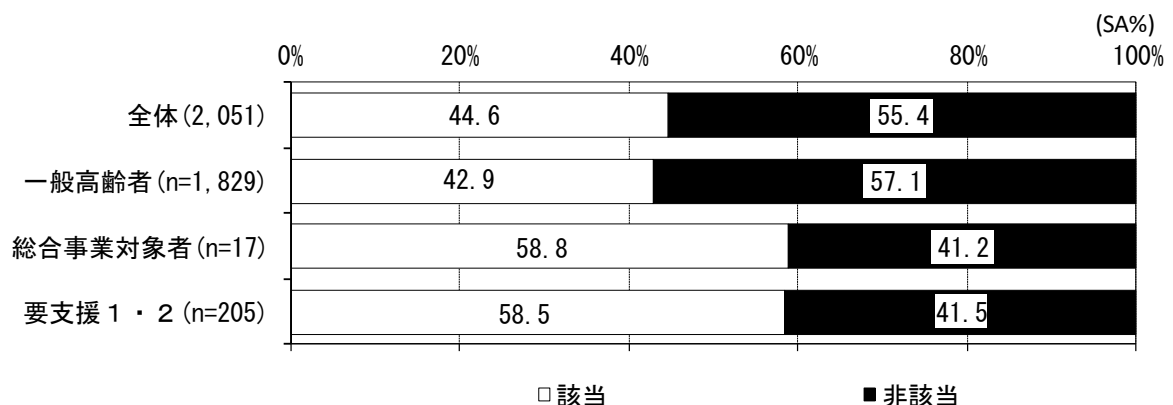
「該当」について、女性が男性よりもやや多くなっているものの、ほとんど差は見られませんでした。

【家族構成（一般高齢者）】

「該当」について、1人暮らしが48.7%と最も多く、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）（40.6%）と比較すると、8.1ポイント多くなっています。

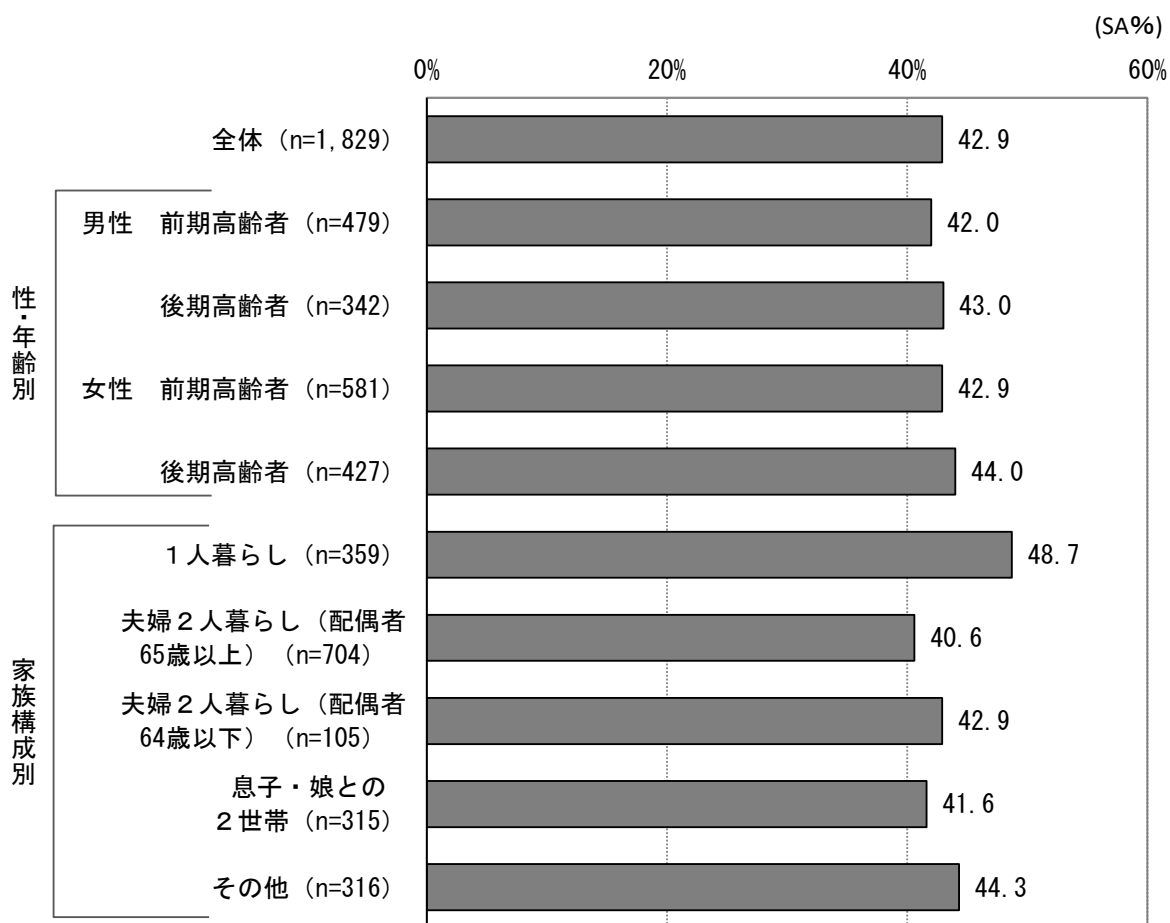
【全体：うつのリスク該当者の割合】

（全体、認定該当状況別）



【一般高齢者：うつのリスク該当者の割合】

(一般高齢者全体、性・年齢別、家族構成別)



【第7期との比較】

	第8期	第7期	増減
リスク該当者の割合	44.6	43.4	1.2

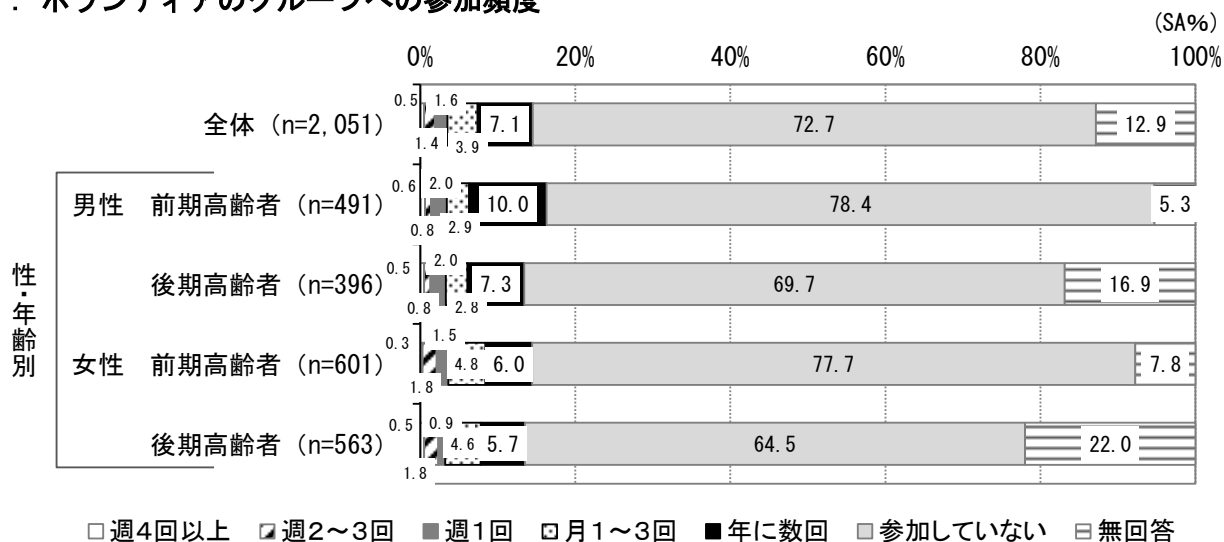
3. 地域での活動について

(1) 地域との関わり

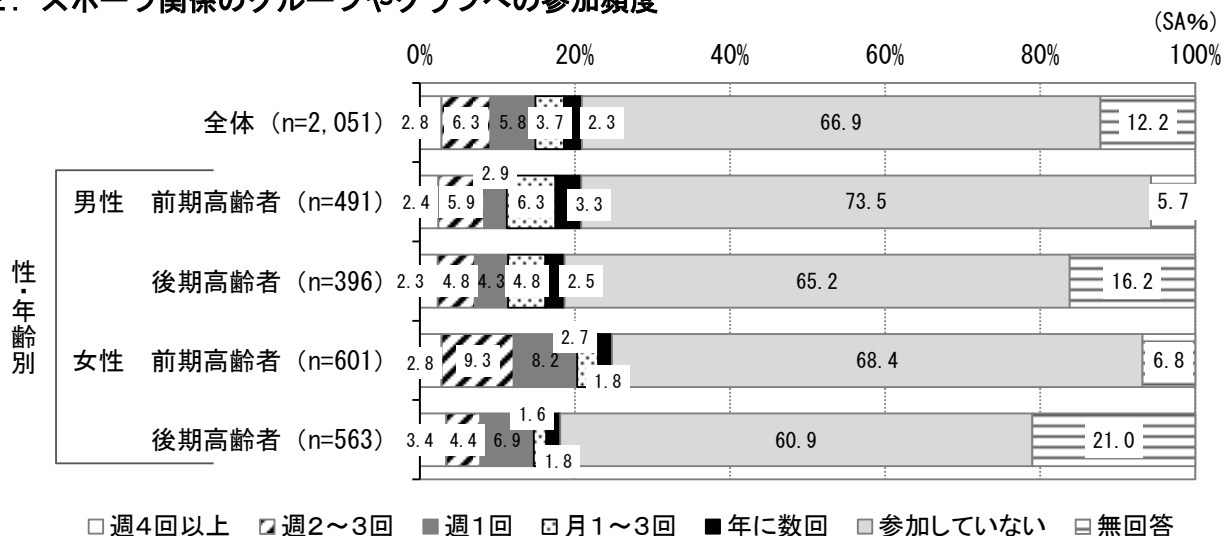
① 地域活動への参加の状況

- 年に数回以上参加している割合が多いのは、「趣味関係のグループ」(29.5%)「町内会・自治会(28.7%)」「収入のある仕事(27.7%)」となっています。
- 「老人クラブへの参加頻度」では、「年に数回」以上参加している人が、女性の後期高齢者が14.7%で最も多くなっています。
- 「収入がある仕事の頻度」で「週に4日以上」と答えた人は、男性の前期高齢者が28.3%で、次いで女性の前期高齢者が22.6%となっています。後期高齢者では、低くなるものの、最も頻度が高い結果となっています。

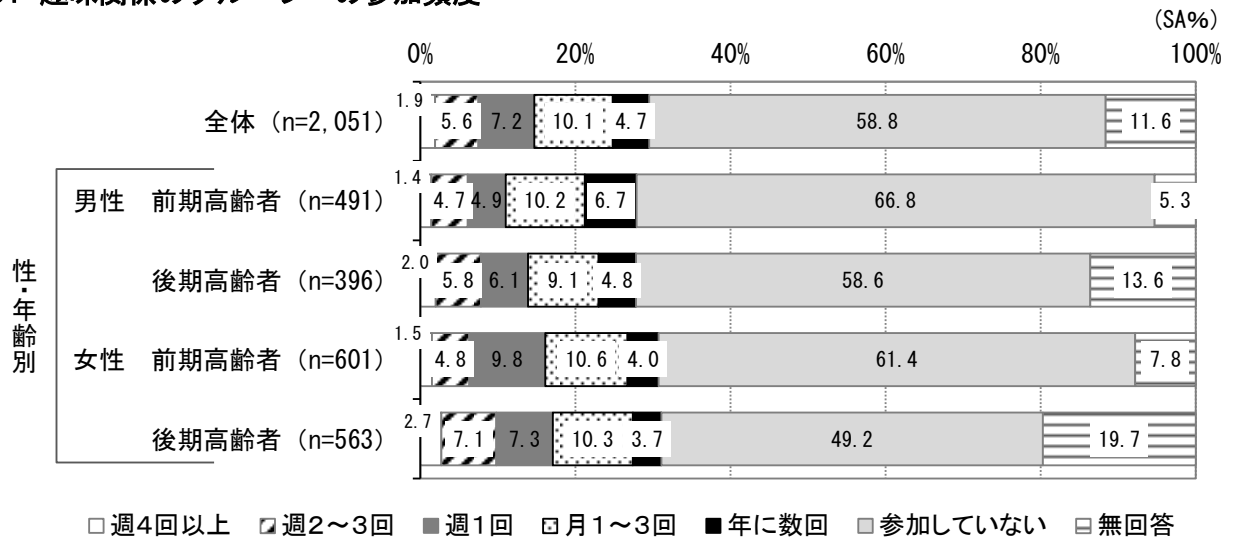
1. ボランティアのグループへの参加頻度



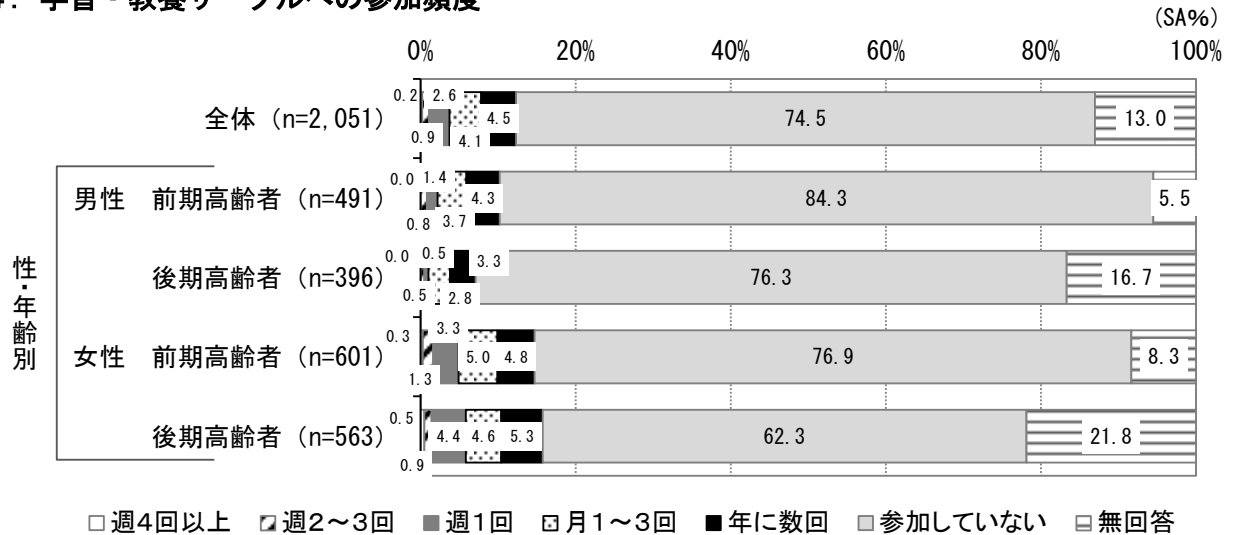
2. スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度



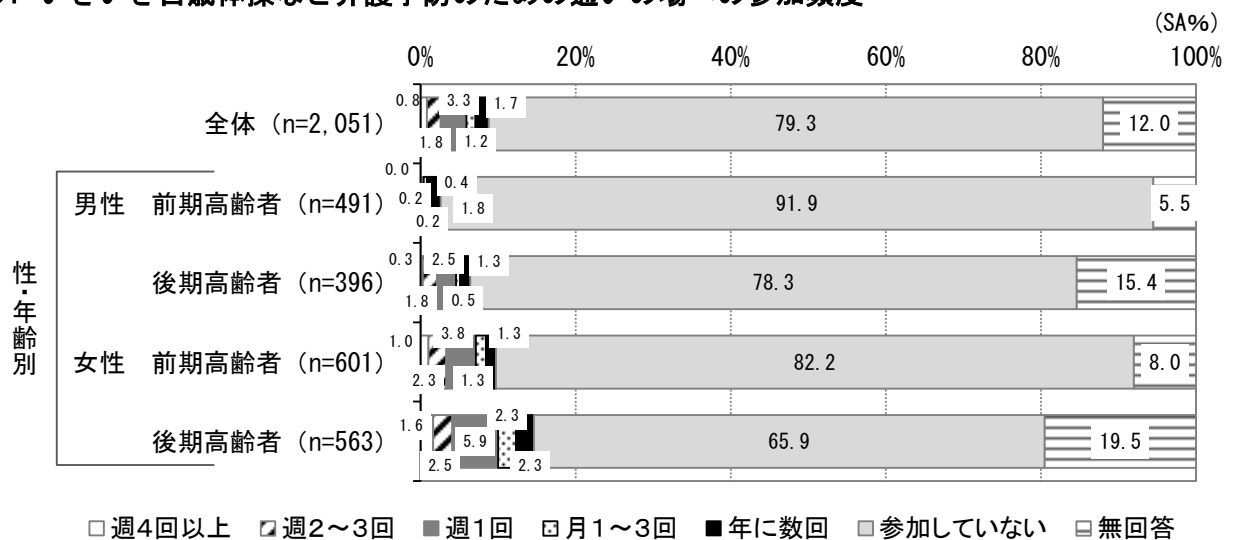
3. 趣味関係のグループへの参加頻度



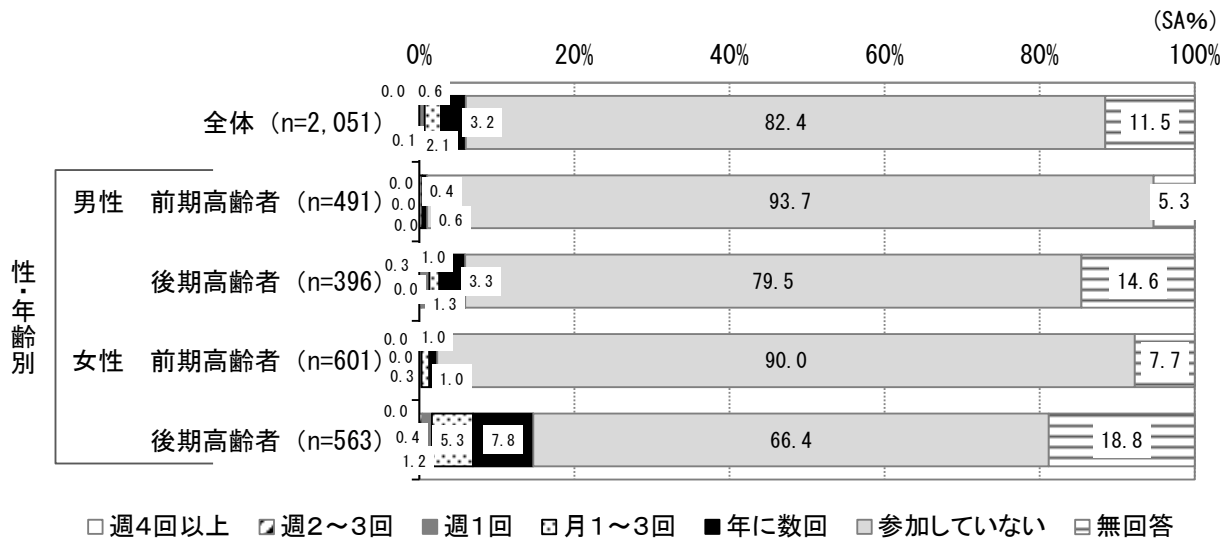
4. 学習・教養サークルへの参加頻度



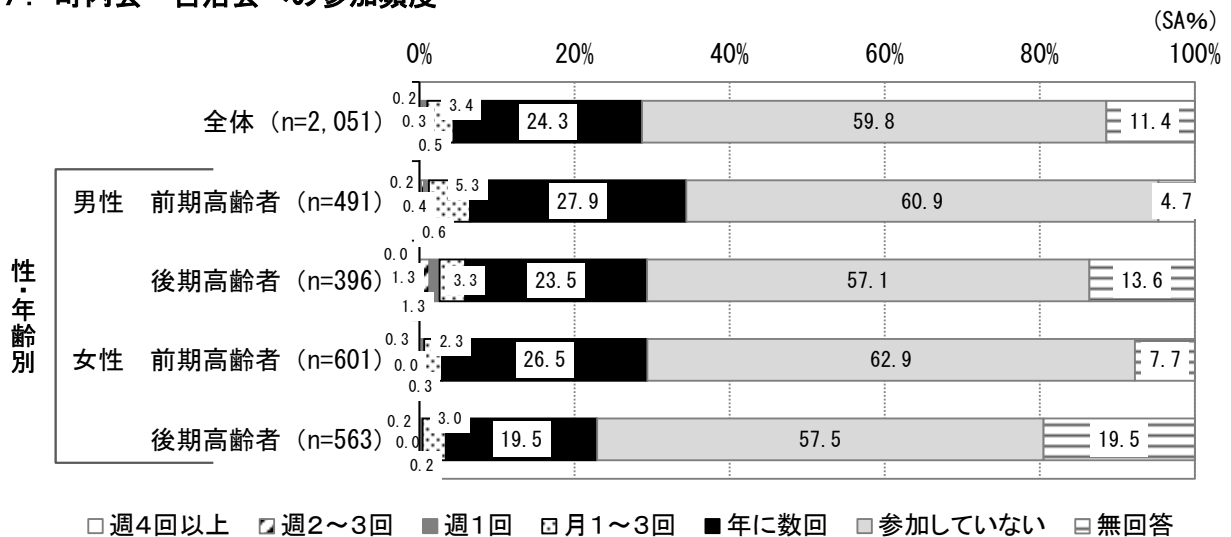
5. いきいき百歳体操など介護予防のための通いの場への参加頻度



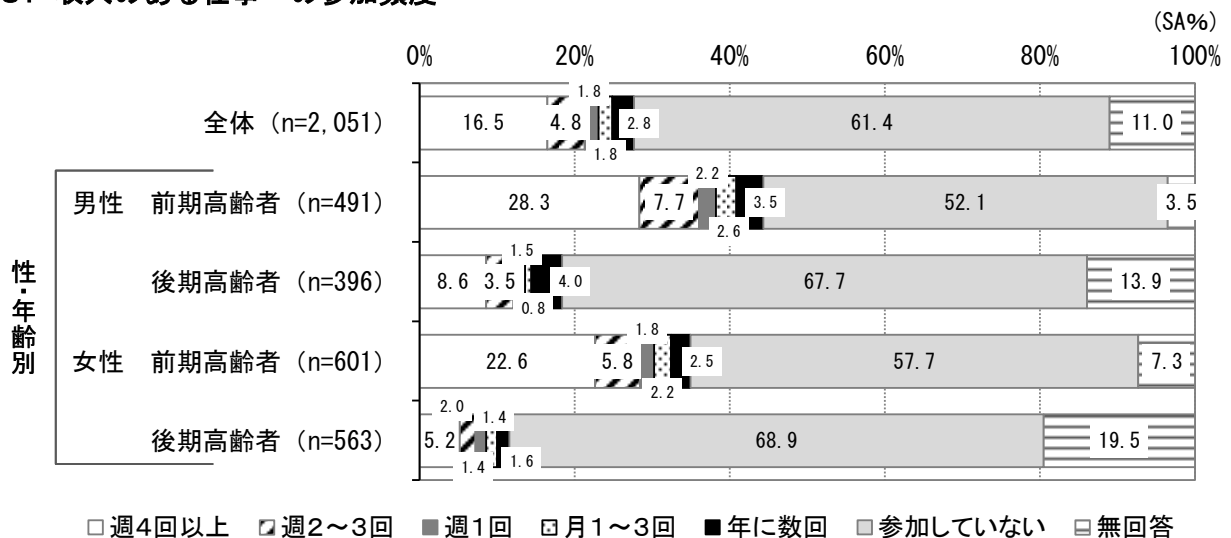
6. 老人クラブへの参加頻度



7. 町内会・自治会への参加頻度



8. 収入のある仕事への参加頻度



②地域活動づくりへの参加意向

- 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

【全体】

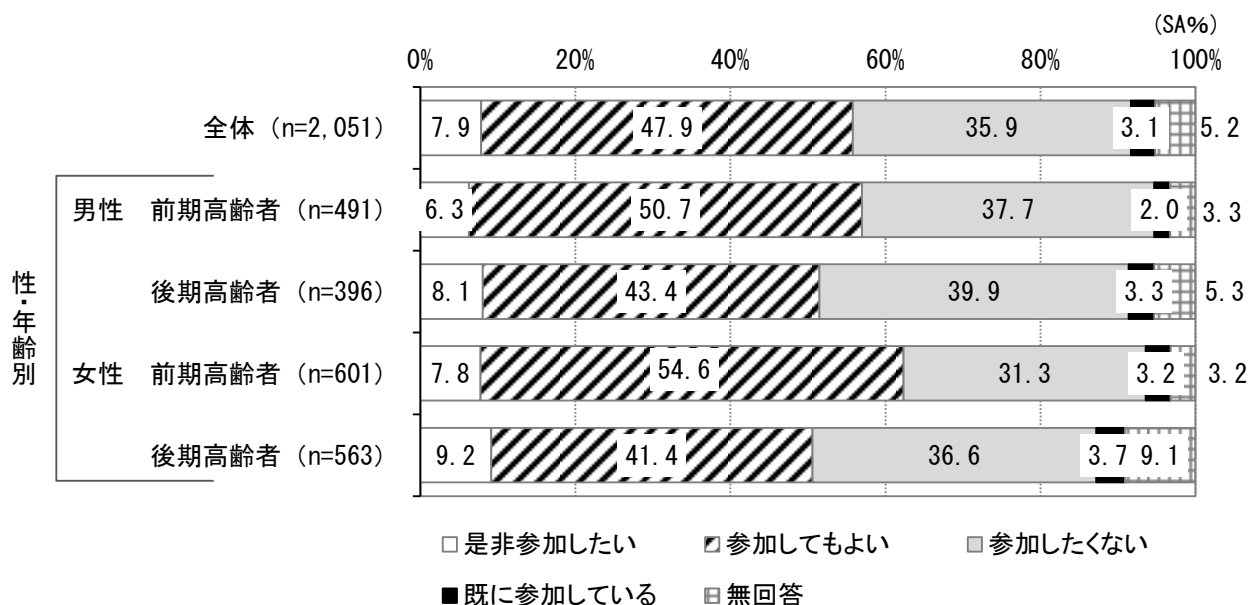
「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計は55.8%で、「参加したくない」の35.9%を上回っています。

【性・年齢別】

男女ともに前期高齢者が後期高齢者より参加意向が多い傾向が見られました。

【地域活動づくりへの参加意向（参加者として）】

（全体、性・年齢別）



- 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

【全体】

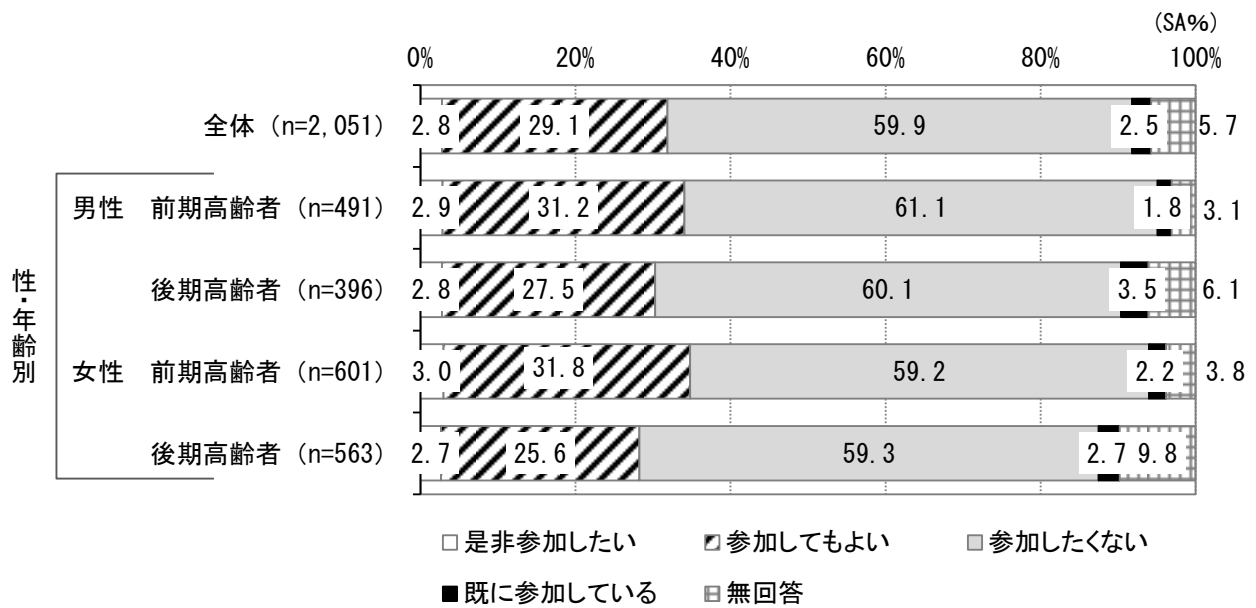
「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計は31.9%で「参加したくない」の59.9%が28.0ポイント上回っています。

【性・年齢別】

性別の差は見られず、男女ともに前期高齢者に参加意向が多い傾向がみられました。

【地域活動づくりへの参加意向（企画・運営として）】

（全体、性・年齢別）



4. たすけあいについて

● たすけあいの合計点

以下の設問に「配偶者」「同居の子ども」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「近隣」「友人」「その他」のいずれかと回答した場合を1点として、4点満点で評価。

設問	配点
あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人	1点
反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人	1点
あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人	1点
反対に、看病や世話をしてあげる人	1点

【全体】

「4点」が75.8%で最も多く、次いで「3点」が11.6%、「2点」が7.1%となっています。

【性・年齢】

「4点」について、女性の前期高齢者が84.0%と最も多く、次いで男性の前期高齢者が80.2%でなり、後期高齢者がいずれも少なくなっています。

【圏域】

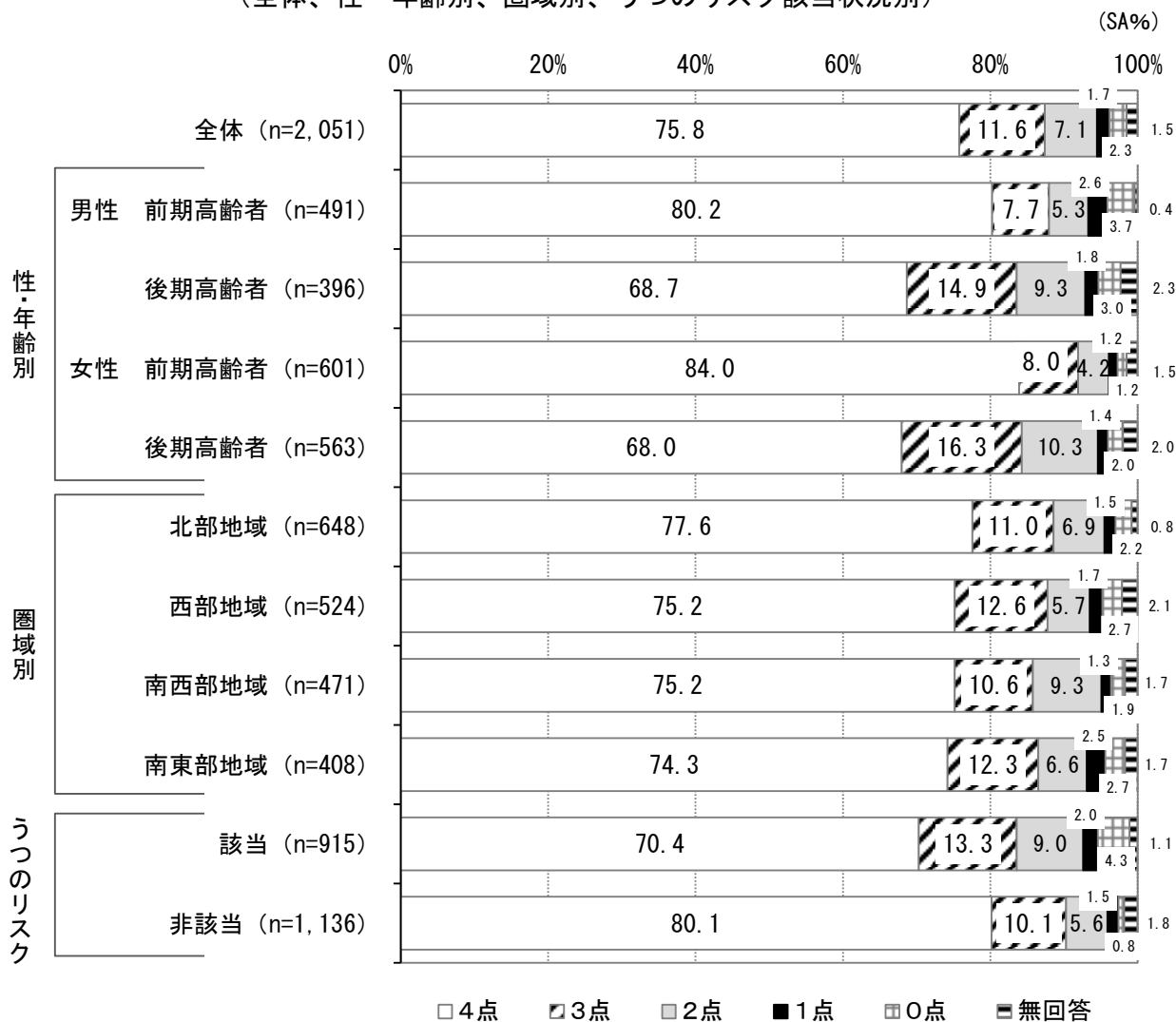
「4点」について、最も多い「北部地域（77.6%）」最も少ない「南東部地域（74.3%）」の差は3.3ポイントとなっています。

【うつリスク】

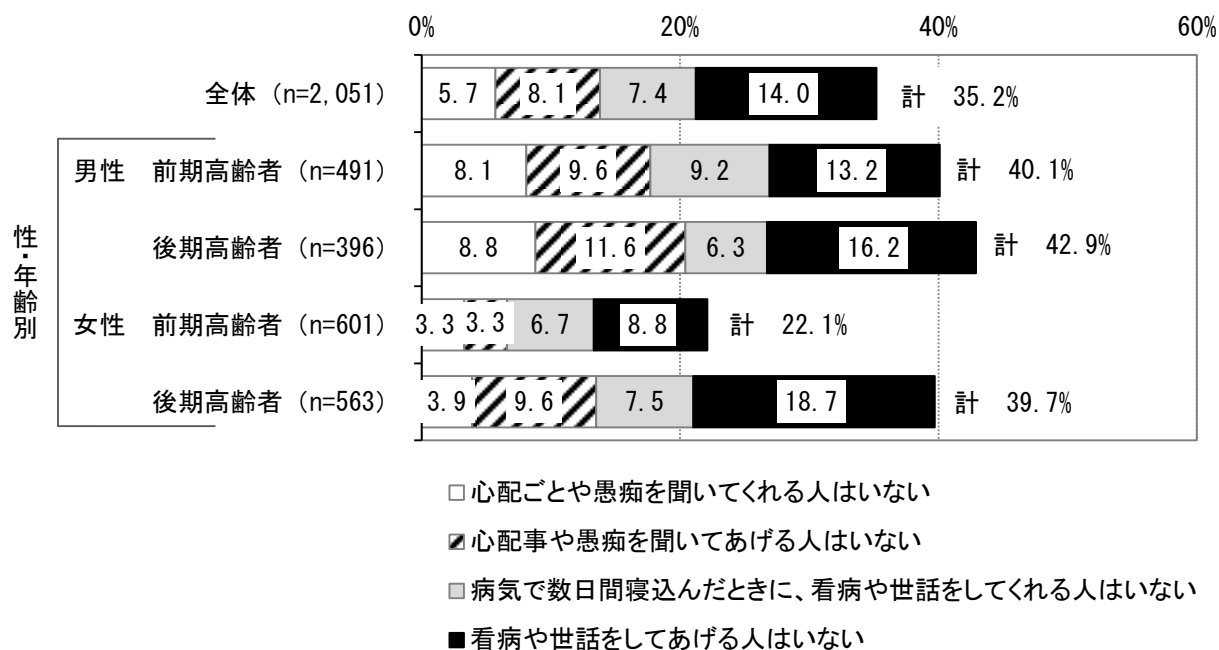
該当では、点数が非該当よりも低くなっています。

【全体：たすけあいの合計点】

(全体、性・年齢別、圏域別、うつリスク該当状況別)



【「そのような人はいない」と回答した割合】 (全体、性・年齢別)



5. 地域での支え合いの体制

- 住民同士による支え合いができる地域づくりができていますか。

【全体】

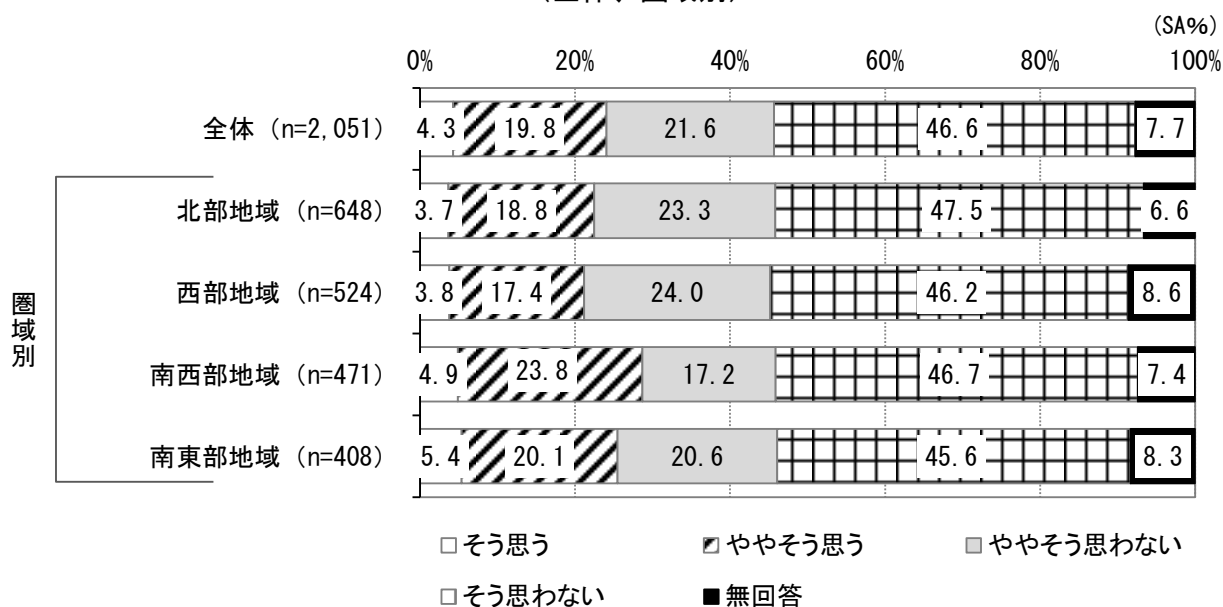
「そう思わない」が46.6%で最も多く、次いで「ややそう思わない」が21.6%、「ややそう思う」が19.8%となっています。

【圏域】

南西部地域では、「そう思わない」が46.7%で最も多く、次いで「ややそう思う」が23.8%、「ややそう思わない」が17.2%となっています。

【支え合いができる地域づくりができていますか】

(全体、圏域別)

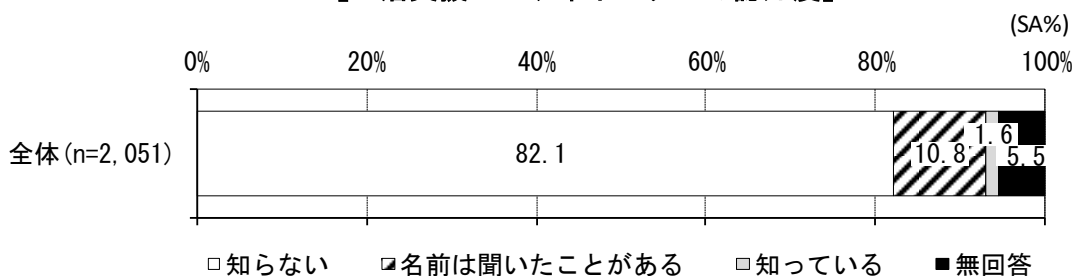


- 地域と連携して、支え合い活動を支援する「生活支援コーディネーター」をご存知ですか。

【全体】

「知らない」が82.1%で最も多く、次いで「名前は聞いたことがある」が10.8%、「知っている」が1.6%となっています。

【生活支援コーディネーターの認知度】



6. 窓口の認知度

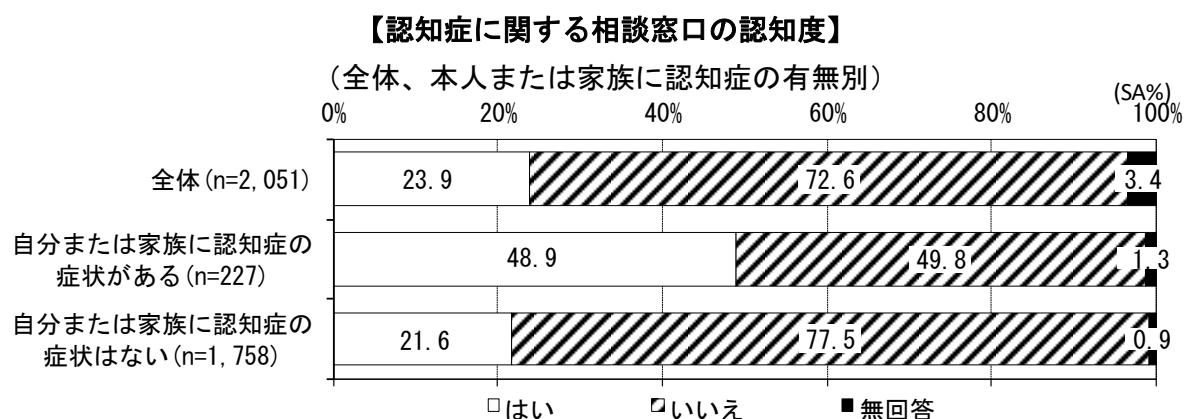
- 認知症に関する相談窓口を知っていますか。

【全体】

「はい」が23.9%、「いいえ」が72.6%となっています。

【本人または家族に認知症の有無】

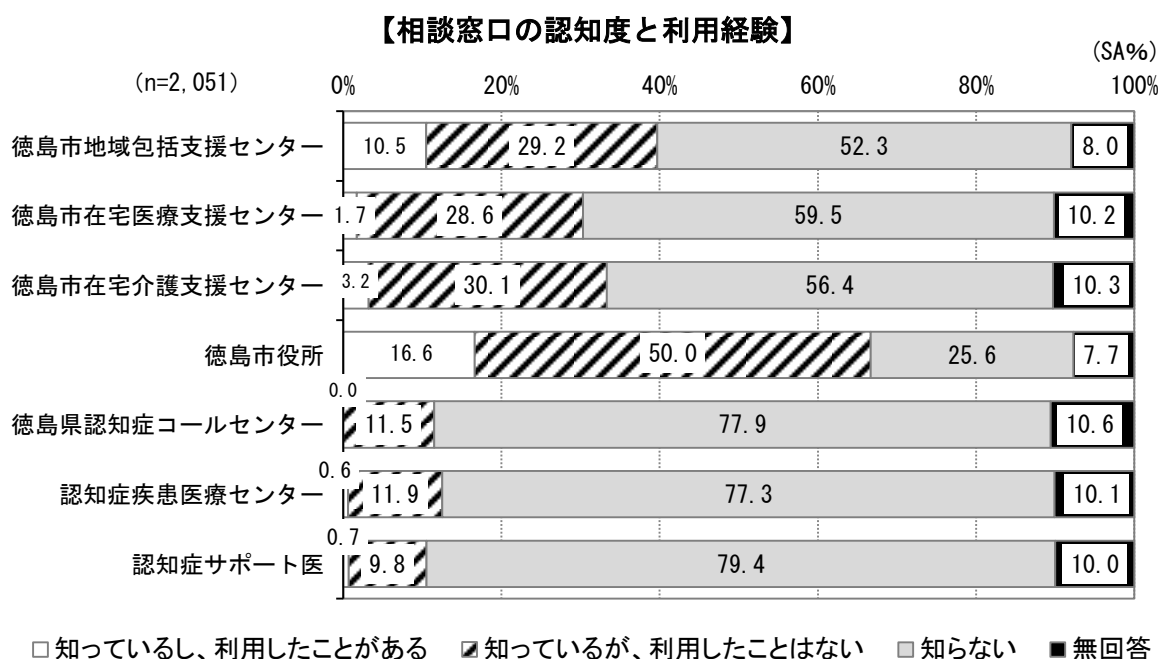
自分または家族に認知症の症状がある人は、「はい」が48.9%となっています。自分または家族に認知症の症状がない人の21.6%を大きく上回っていますが、「いいえ」も49.8%となり、約半数の必要な人に情報が届いていない可能性があります。



- 以下の相談窓口をご存知ですか。また、利用したことはありますか。

【全体】

「知っているし、利用したことがある」「知っているが、利用したことがない」の合計が最も多かったのが徳島市役所 66.6%、徳島市地域包括支援センター39.7%となっています。認知症の専門相談窓口の認知度はいずれも約1割程度となっています。



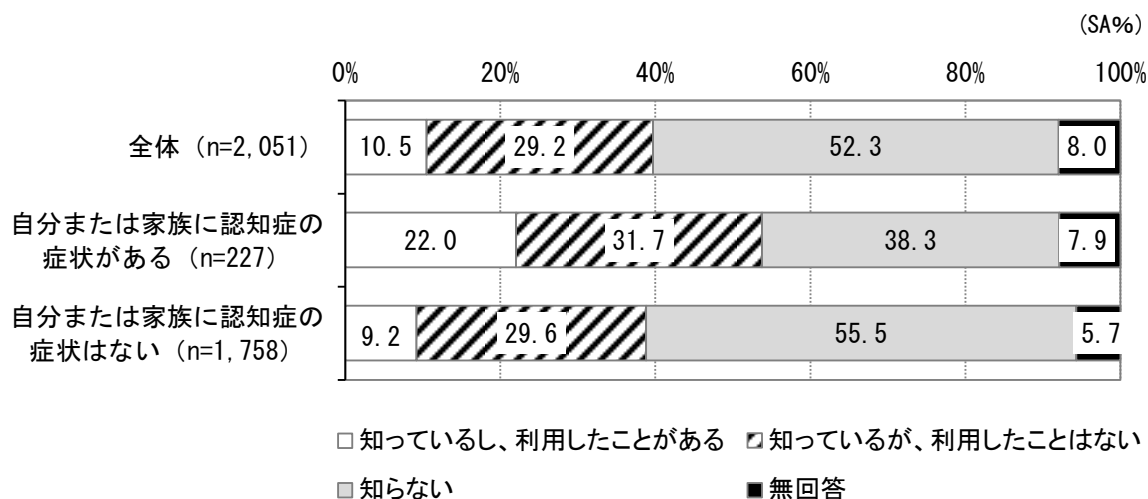
【本人または家族に認知症の有無】

いずれの窓口も、自分または家族に認知症の症状がある人は、同症状ない人に比べて「知っているし、利用したことがある」が多い傾向が見られます。また、「知っているが、利用したことはない」を合わせた認知度でも高い傾向が見られました。

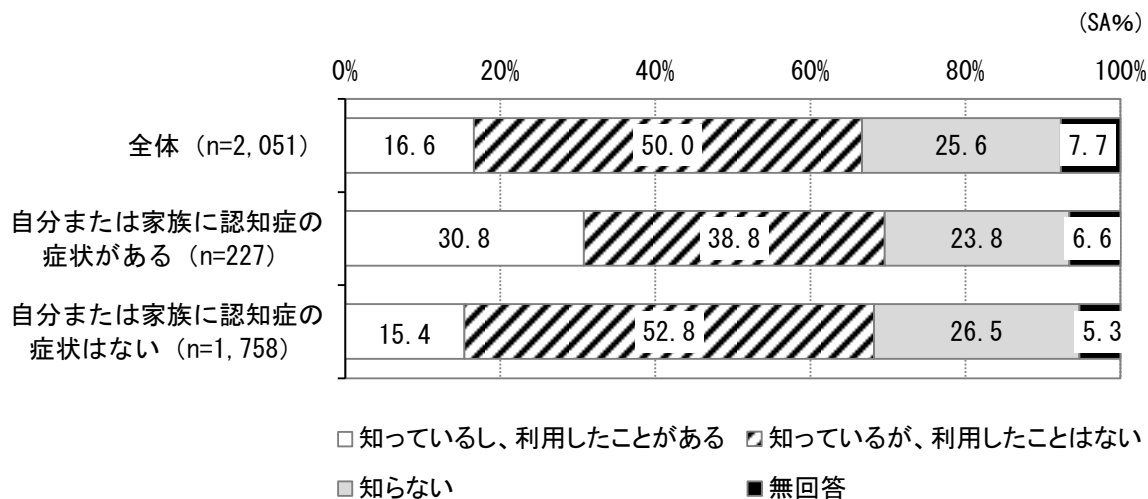
【相談窓口の認知度と利用経験】

(全体、本人または家族に認知症の有無別)

1. 地域包括支援センター



2. 徳島市役所(福祉・介護・保健の窓口)



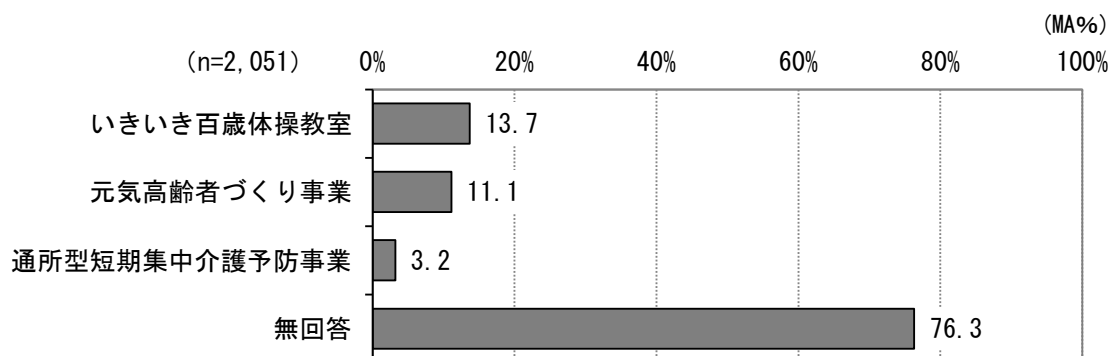
7. 徳島市の介護予防事業について

●徳島市で実施している介護予防事業について、利用したい事業はありますか。(複数回答)

【全体】

「いきいき百歳体操教室」が13.7%で最も多く、次いで「元気高齢者づくり事業」が11.1%、「通所型短期集中介護予防事業」が3.2%となっています。

【徳島市で利用したい介護予防事業】

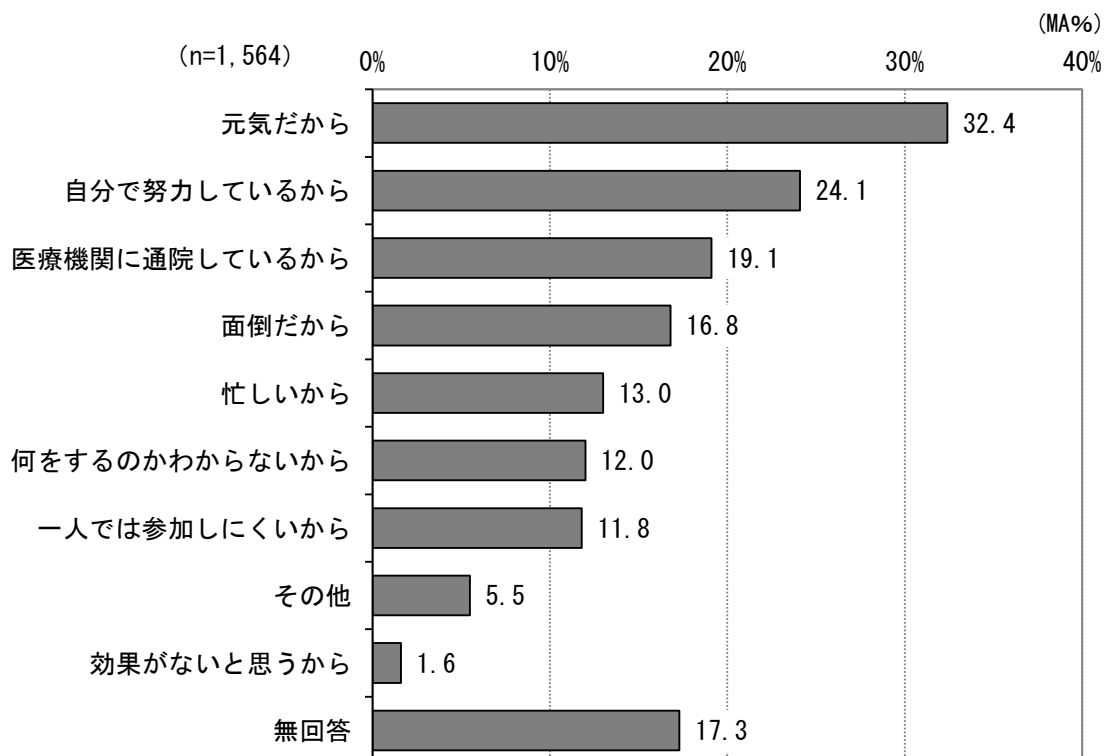


●利用したいと思わない理由は何ですか。(複数回答)

【全体】

「元気だから」が32.4%で最も多く、次いで「自分で努力しているから」が24.1%、「医療機関に通院しているから」が19.1%となっています。

【介護予防事業を利用したいと思わない理由】



《無回答だった（利用したい事業がないと推測される）76.3%の属性》

【男性】

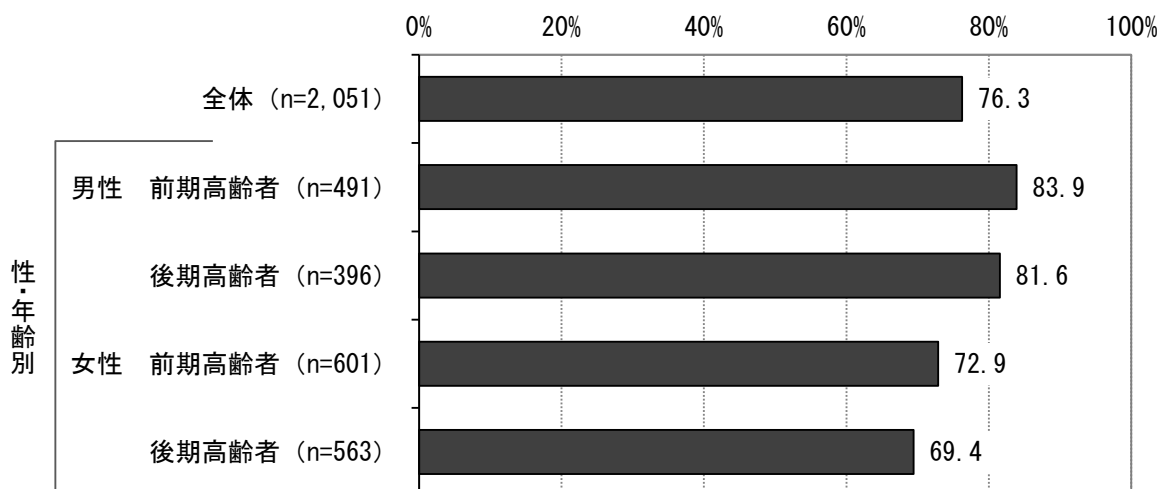
- すべての回答者のうち、無回答だった人は、8割を超えています。
- 介護予防事業を利用したいと思わない理由は、「元気だから（前期44.9%、後期25.7%）」が最も多くなっています。2番目に多いのは、前期高齢者が「面倒だから（21.6%）」だったのに対し、後期高齢者は「医療機関に通院しているから（24.8%）」となっています。
- 前期高齢者が参加したい集まりは、「ウォーキング（22.1%）」が最も多く、次いで「スポーツ（15.0%）」、「趣味の集まり（11.4%）」となっています。
- 後期高齢者が参加したい集まりは「ウォーキング（16.1%）」が最も多く、次いで「食事会（9.9%）」、「スポーツ（9.3%）」「趣味の集まり（9.3%）」となっています。
- 健康についての記事や番組について84.5%は関心があると回答しています。

【女性】

- すべての回答者のうち、無回答だった人は、7割程度となっています。
- 介護予防事業を使用したいと思わない理由は、前期高齢者は「元気だから（36.8%）」が最も多く、次いで「自分で努力しているから（23.7%）」となっています。後期高齢者は「自分で努力しているから（29.7%）」、次いで「医療機関に通院しているから（24.3%）」となっています。
- 前期高齢者が参加したい集まりは、「ウォーキング（26.5%）」が最も多く、次いで「体操教室（25.1%）」、「食事会（13.7%）」となっています。
- 後期高齢者が参加したい集まりは「食事会（17.4%）」が最も多く、次いで「体操教室（12.0%）」「お茶会（11.5%）」となっています。
- 健康についての記事や番組への関心は9割を超える人があると回答しています。

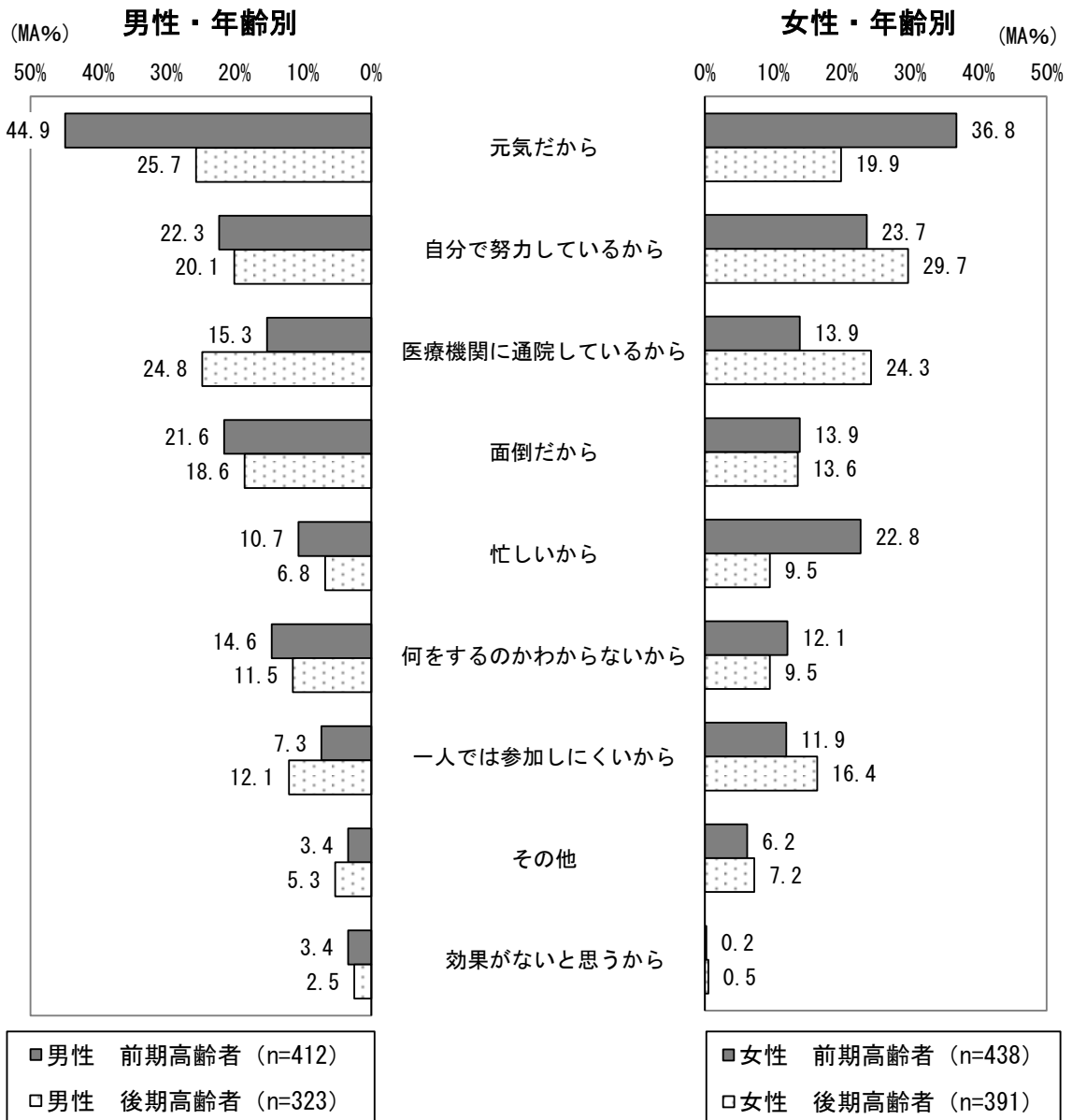
【無回答（利用したい事業がないと推測される人）の割合】

（全体、性・年齢別）



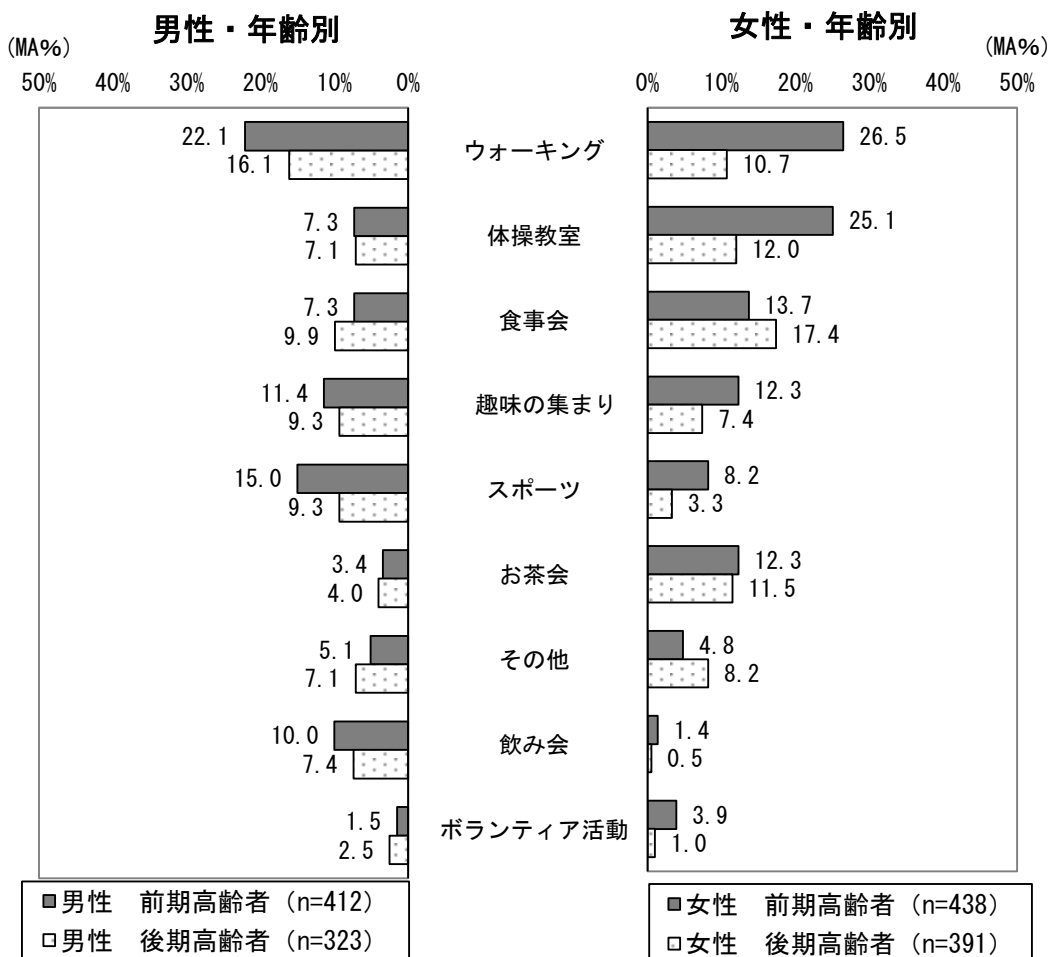
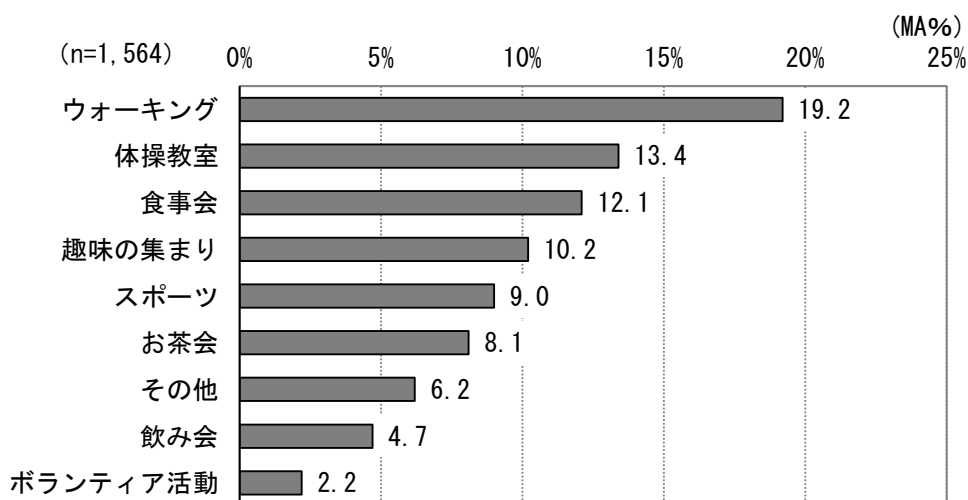
【介護予防事業を利用したいと思わない理由】

(性・年齢別)



【どんな集まりが地域にあれば参加したいか】

(全体<無回答だった人>、性・年齢別)



※「趣味の集まり」

男性前期高齢者=将棋・囲碁各6件、ギター5件、カラオケ4件 他

男性後期高齢者=カラオケ4件、盆栽・園芸・庭木4件、囲碁3件 他

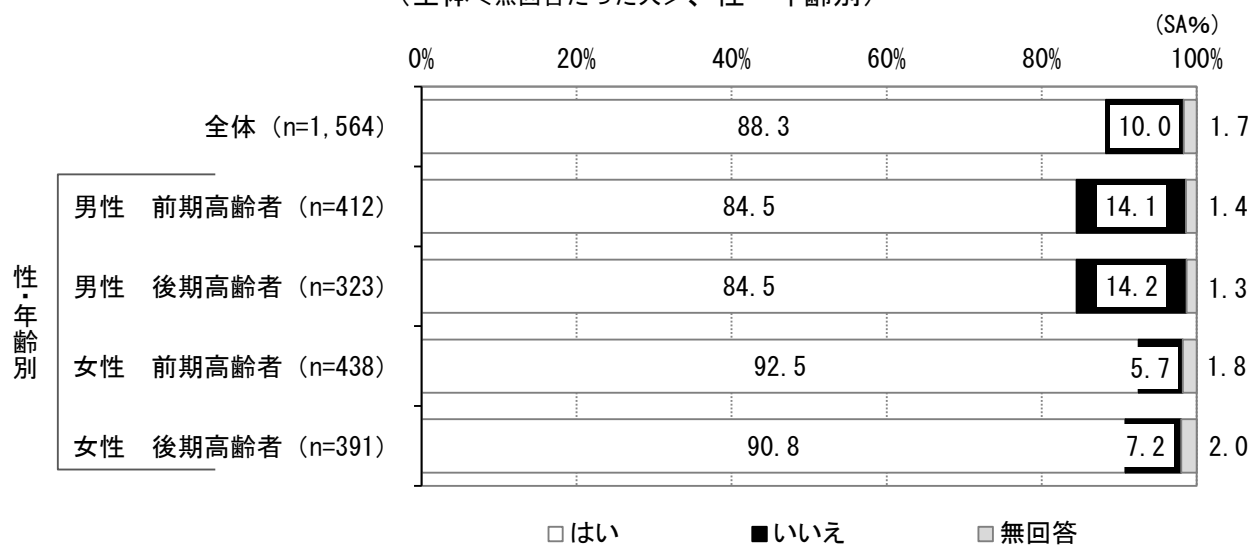
女性前期高齢者=手芸・編み物・パッチワーク等12件、カラオケ7件、絵手紙3件、園芸・ガーデニング3件 他

女性後期高齢者=草花・生花・園芸4件、カラオケ2件、俳句2件、編み物2件 他

※「その他」 どれも参加できない内容が多く見られた

【健康についての記事や番組に関心があるか】

(全体<無回答だった人>、性・年齢別)

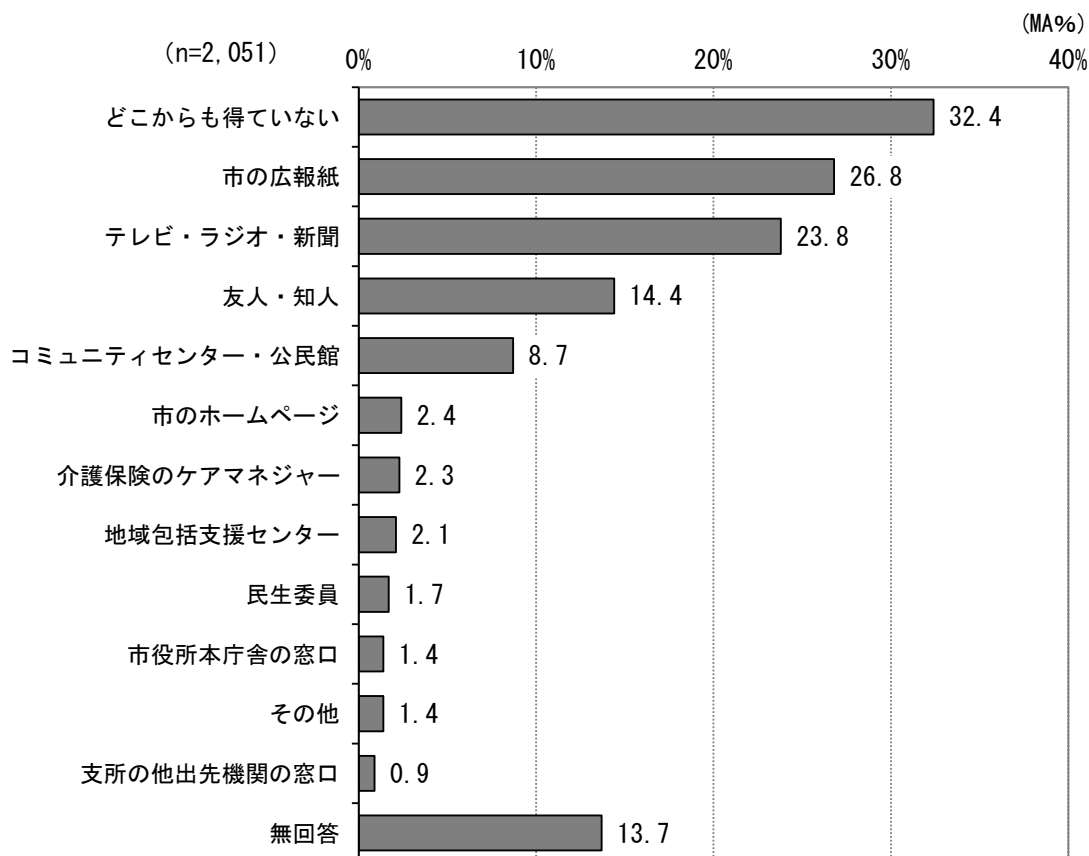


●徳島市の体操教室などの介護予防事業についての情報はどこから入手していますか。(複数回答)

【全体】

「どこからも得ていない」が32.4%で最も多く、次いで「市の広報紙」が26.8%、「テレビ・ラジオ・新聞」が23.8%となっています。

【介護予防事業についての情報の入手先】



《どこからも情報を得ていない人の属性》

【男性】

- 「どこからも得ていない」人は、前期高齢者で多く、年齢とともに少なくなる傾向が見られました。
- 4人に1人が週4日以上「収入のある仕事」をしており、5人に1人が「趣味関係のグループ」に「月1～3」回以上参加し、6.7人に1人が「スポーツ関係のグループやクラブ」に参加しています。
- 地域での活動について活動意向では、参加者として51.5%が、企画・運営として30.4%が「ぜひ参加したい」または「参加してもよい」と答えています。（男性全体では参加者として54.6%、企画・運営として32.3%であったため、大きな差は見られないと言えます。）

【女性】

- 「どこからも得ていない」と答えた人は、65～69歳（30.8%）と85歳以上（29.8%）が多い傾向があり、60歳代と85歳以上では、情報を得ていない背景が違うことが考えられます。
- 6人に1人が週4日以上「収入のある仕事」をしています。5.4人に1人が「趣味関係のグループ」に「月1～3」回以上参加し、7.8人に1人が「スポーツ関係のグループやクラブ」に参加しています。
- 地域での活動について活動意向では、参加者として46.2%が、企画・運営として24.3%が「ぜひ参加したい」「参加してもよい」と答えています。（女性全体では参加者として57.3%、企画・運営として31.6%であったため、全体に比べると活動意向はやや低くなっています）

【利用したい介護予防事業】

無回答が87.8%となり、全体の76.3%と比較すると低くなっています。

【新聞の購読】

男性では83.0%、女性では79.0%の人が新聞を読んでいると回答しています。

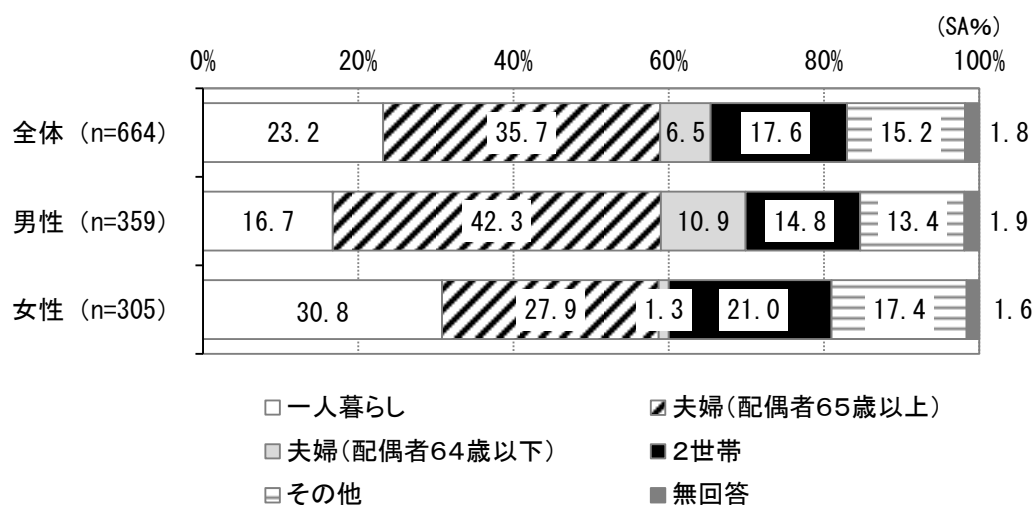
【どこからも情報を得ていない人の人数と割合】

（性・年齢別）

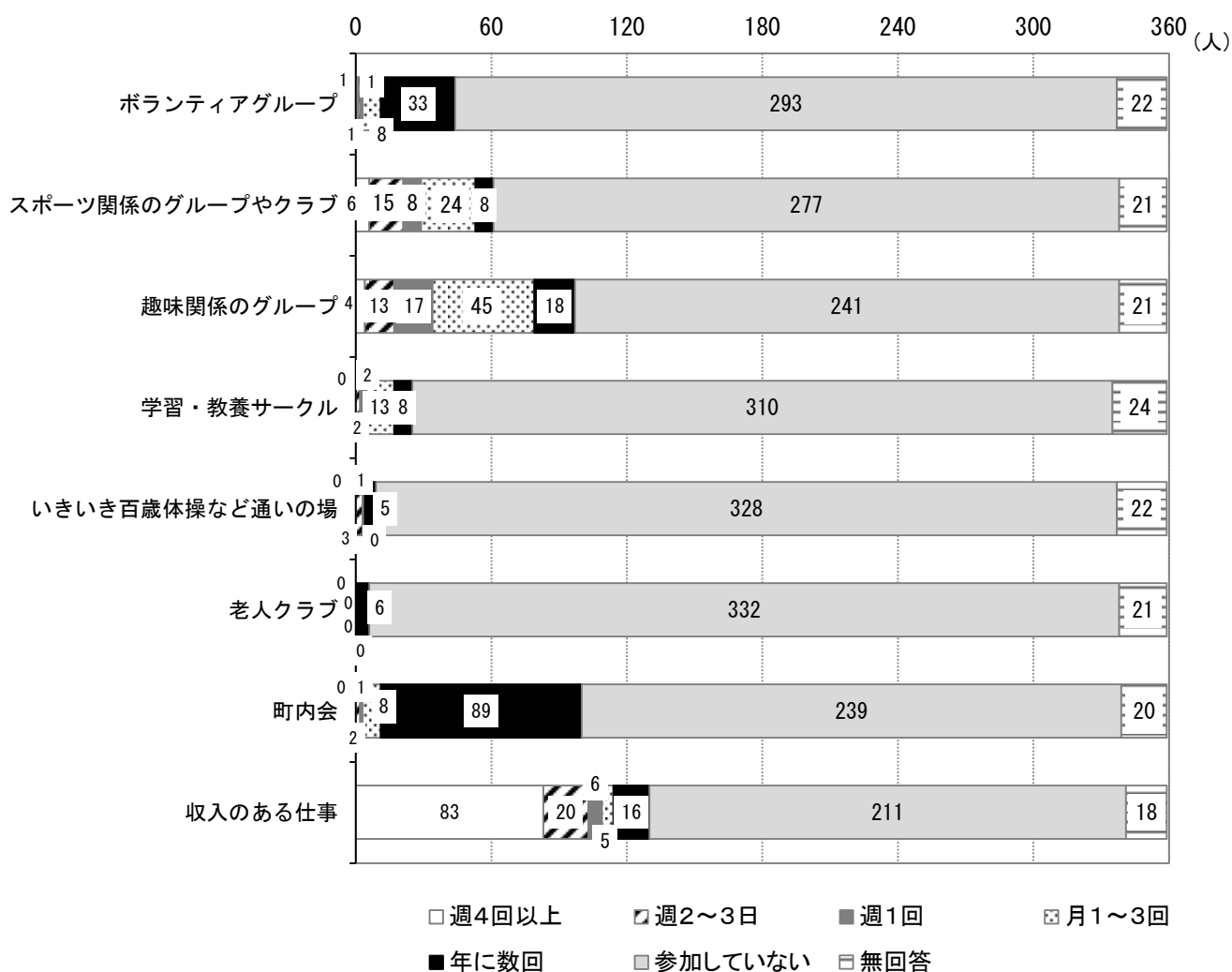
性別	年齢	該当者数（人）	全回答者数（人）	全体に占める割合（%）
男性	65～69	105	241	43.6
	70～74	113	250	45.2
	75～79	68	176	38.6
	80～84	43	124	34.7
	85～	30	96	31.3
	合計	359	887	40.5
女性	65～69	90	292	30.8
	70～74	69	309	22.3
	75～79	64	254	25.2
	80～84	40	168	23.8
	85～	42	141	29.8
	合計	305	1164	26.2

【家族構成】

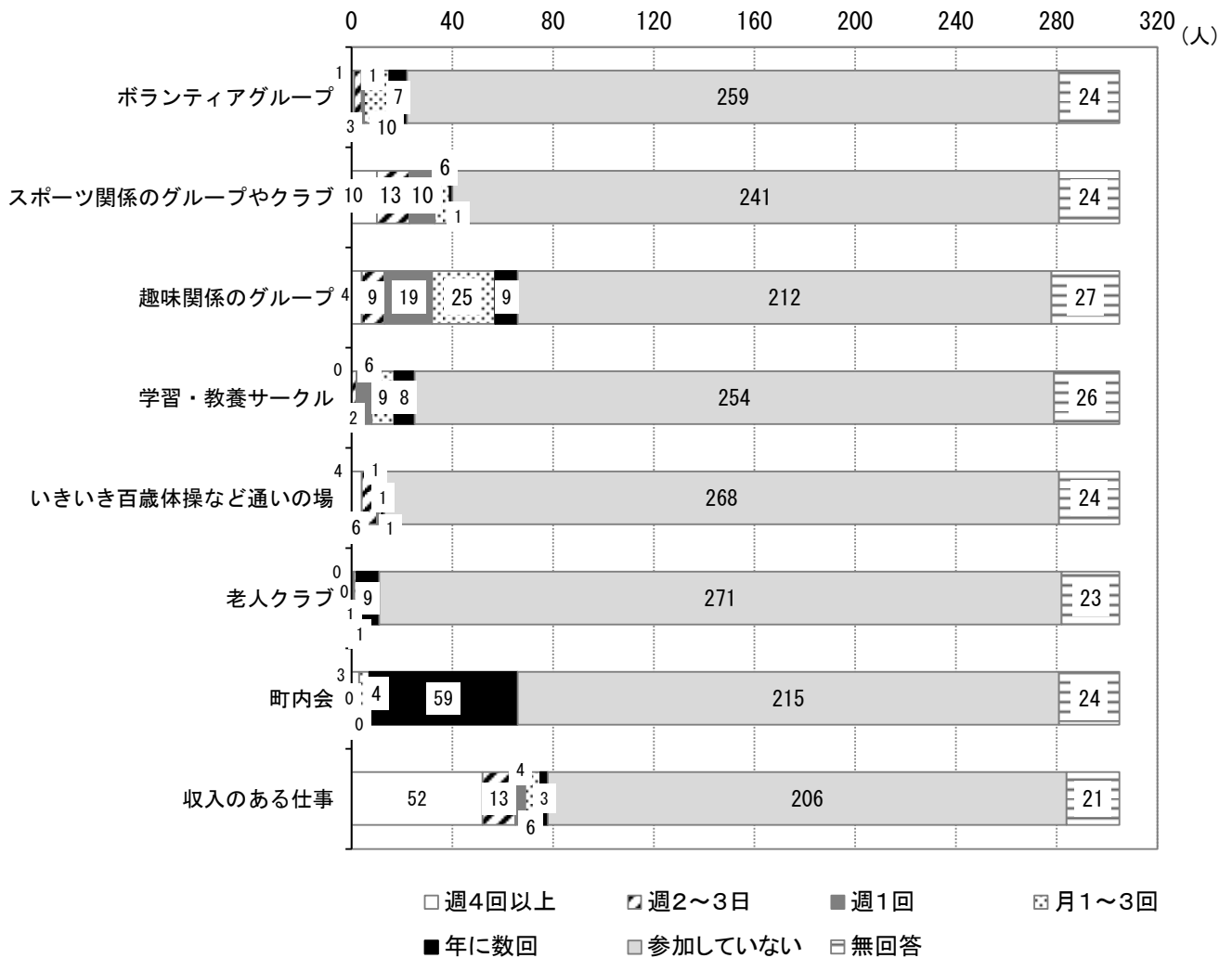
(全体<どこからも情報を得ていない人>、性別)



【地域での活動について：男性 359 人の内訳】

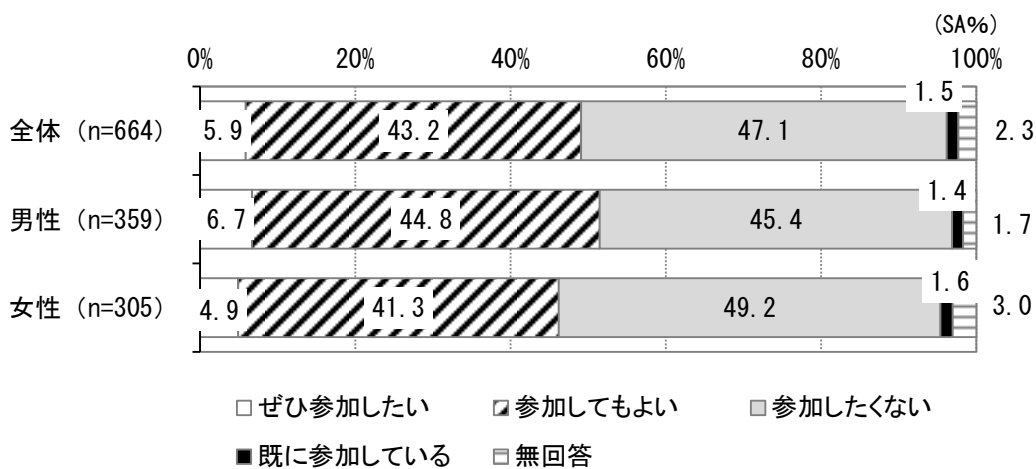


【地域での活動について：女性 305 人の内訳】



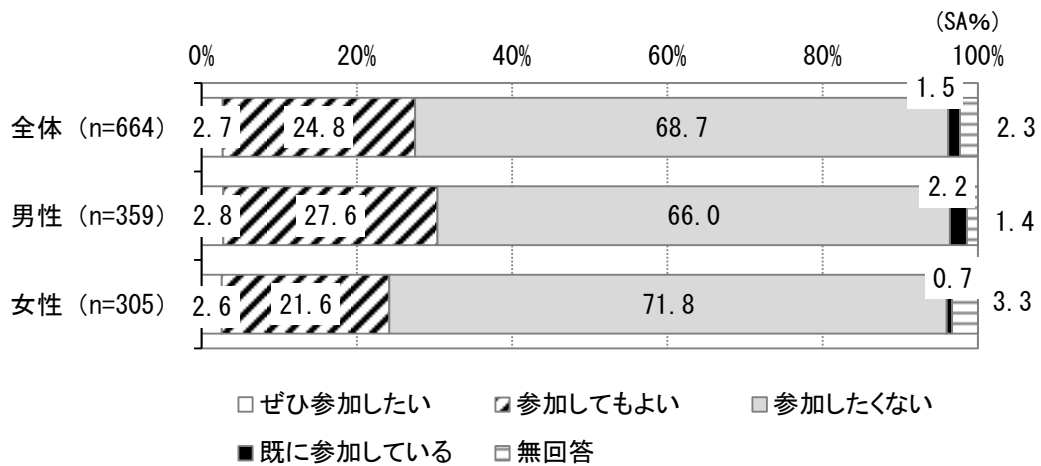
【地域での活動について活動意向（参加者として）】

（全体<どこからも情報を得ていない人>、性別）



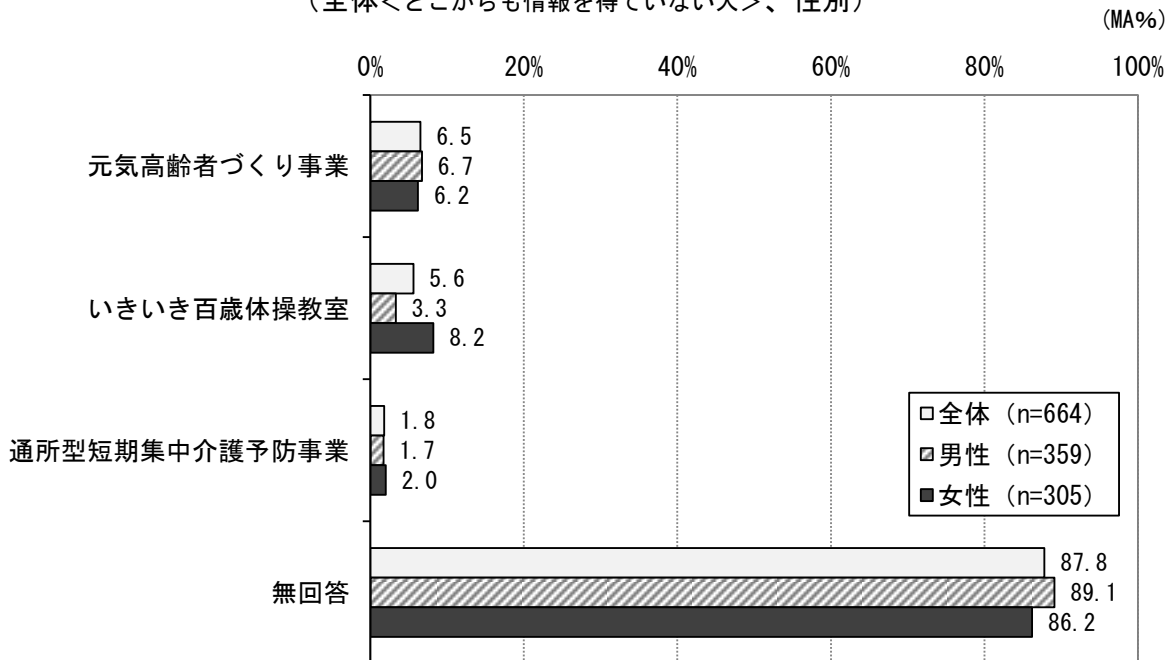
【地域での活動について活動意向（企画・運営として）】

（全体<どこからも情報を得ていない人>、性別）



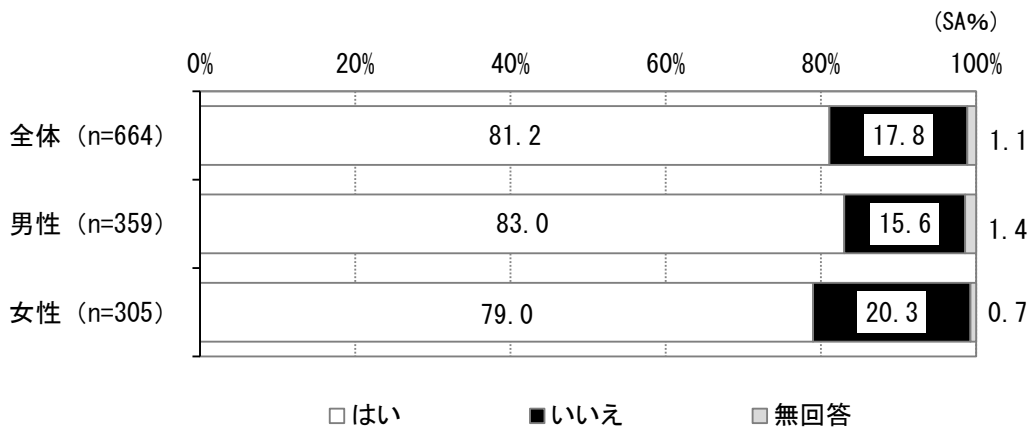
【利用したい介護予防事業】

（全体<どこからも情報を得ていない人>、性別）



【新聞を読んでいるか】

（全体<どこからも情報を得ていない人>、性別）



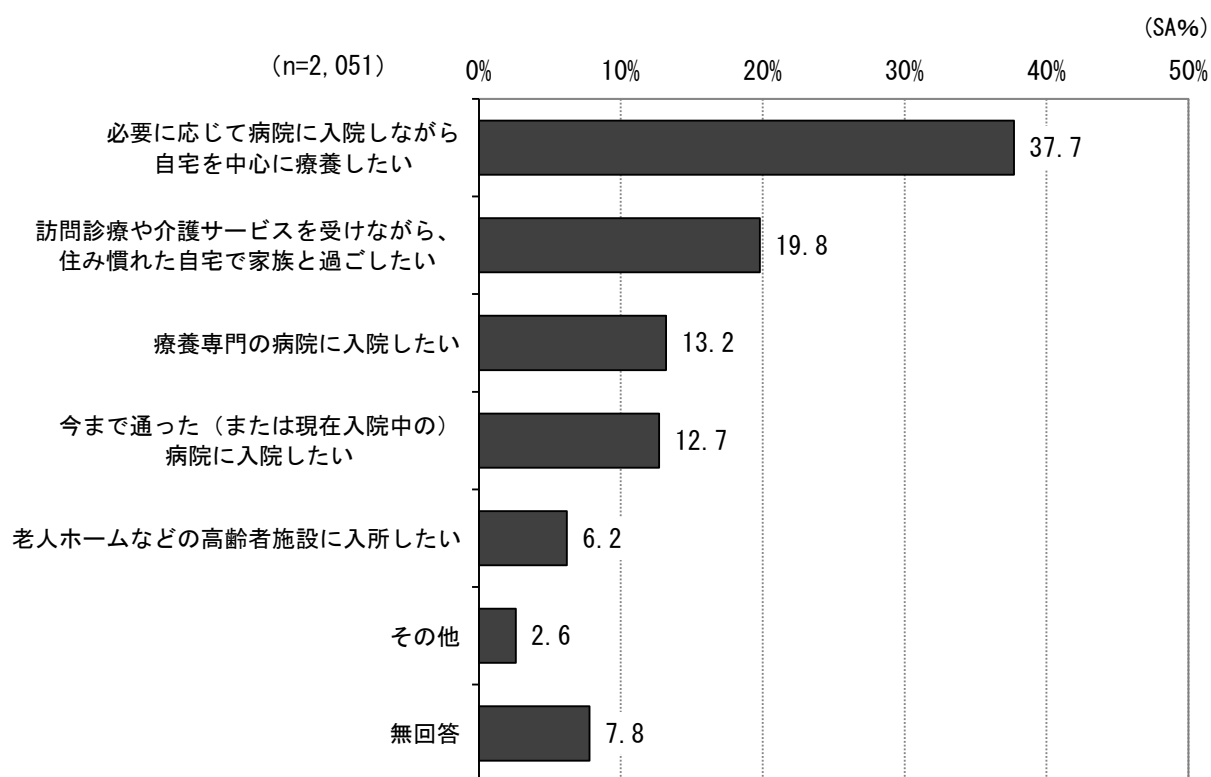
8. 終末期の療養について

- 終末期（治る見込みがなく、死期がおおよそ半年以内に迫っている）の療養はどのような場所を希望しますか。

【全体】

「必要に応じて病院に入院しながら自宅を中心に療養したい」が37.7%で最も多く、次いで「訪問診療や介護サービスを受けながら、住み慣れた自宅で家族と過ごしたい」が19.8%、「療養専門の病院に入院したい」が13.2%となっています。

【終末期の療養場所の希望について】

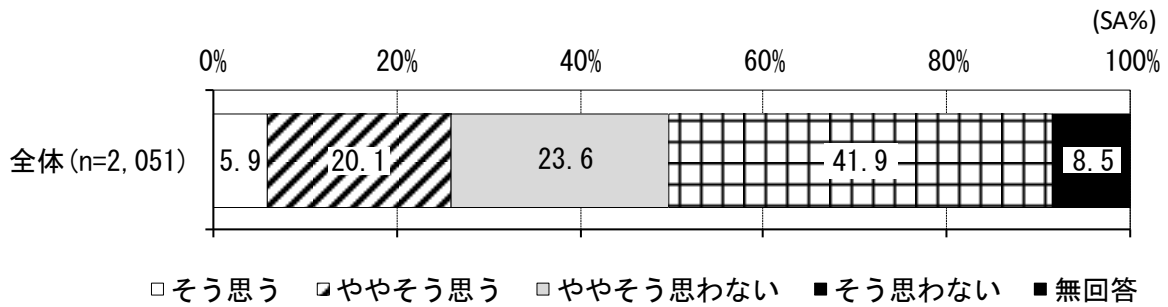


- あなたやあなたの家族が、自宅で最期を迎えたいと願った時に、希望がかなえられる体制が整っていると思いますか。

【全体】

「そう思わない (41.9%) 」と「ややそう思わない (23.6%) 」の合計が 65.5%、「ややそう思う (20.1%) 」 「そう思う (5.9%) 」の合計が 26.0%となっています。

【自宅で最期を迎えられる体制が整っているか】

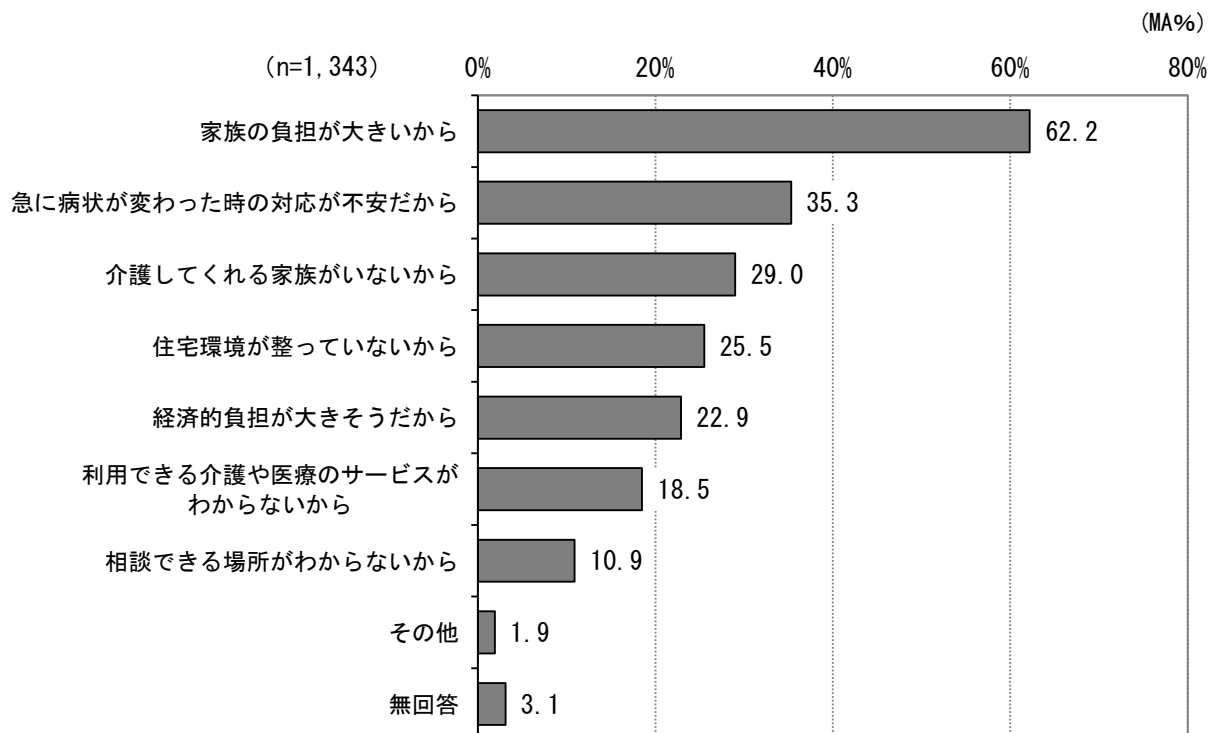


- そう思わない理由はなんですか。(複数回答)

【全体】

「家族の負担が大きいため」が 62.2%で最も多く、次いで「急に病状が変わった時の対応が不安だから」が 35.3%、「介護してくれる家族がいないから」が 29.0%となっています。

【自宅で最期を迎える体制が整っていない理由】



9. 健康について

(1) 健康状態

●現在のあなたの健康状態はいかがですか。

【全体】

「まあよい」が64.1%で最も多く、次いで「あまりよくない」が21.7%、「とてもよい」が7.6%となっています。

【性・年齢】

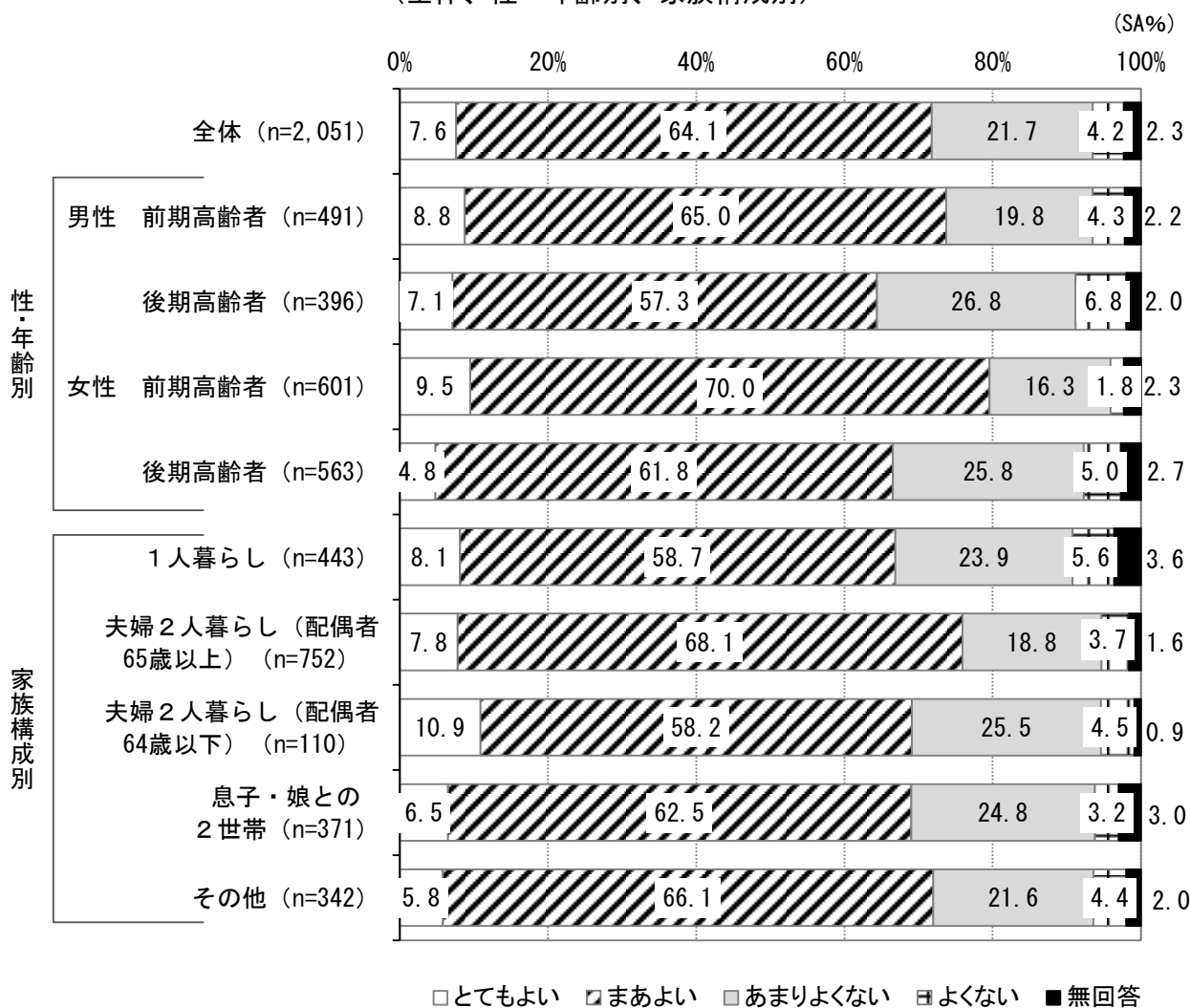
女性の後期高齢者のみ、「とてもよい」よりも「よくない」が多くなっています。

【家族構成】

どの家族構成も「まあよい」が最も多く、次いで「あまりよくない」、「とてもよい」となっています。

【主観的健康感】

(全体、性・年齢別、家族構成別)



(2) 精神面での健康

●あなたは、現在どの程度幸せですか。

【全体】

「幸せ(7～9点)」が46.8%で最も多く、次いで「ふつう(4～6点)」が33.3%、「とても幸せ(10点)」が10.2%となっています。

【性・年齢】

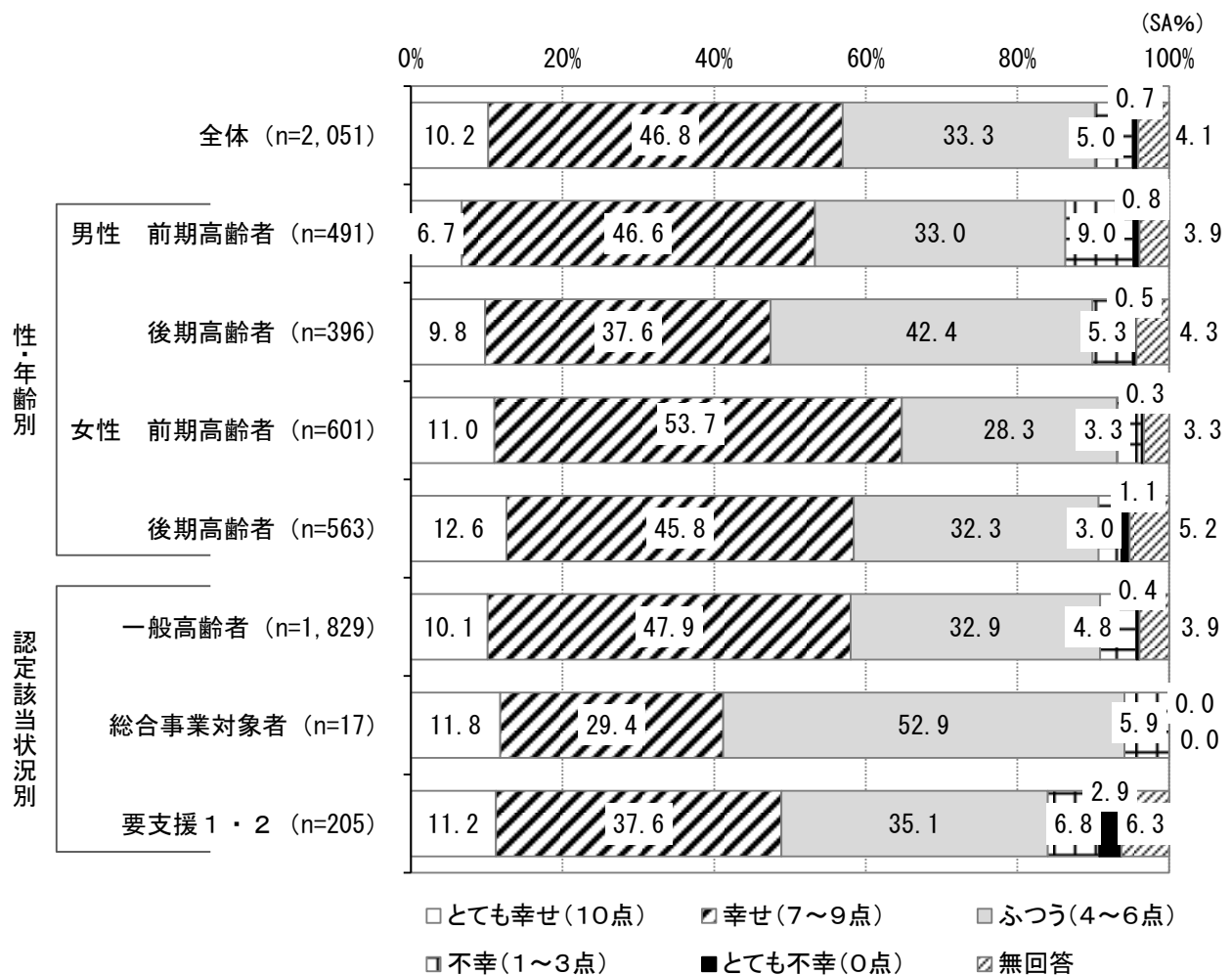
男性の後期高齢者では、「ふつう(4～6点)」が42.4%で最も多く、次いで「幸せ(7～9点)」が37.6%、「とても幸せ(10点)」が9.8%となっています。

【認定該当状況】

総合事業対象者では、「ふつう(4～6点)」が52.9%で最も多く、次いで「幸せ(7～9点)」が29.4%、「とても幸せ(10点)」が11.8%となっています。

【主観的幸福感】

(全体、性・年齢別、認定該当状況別)



【外出の頻度】

外出頻度が高い人ほど、幸福度が高くなっています。

【趣味】

趣味がある方は、幸福度が高くなっています。

【生きがい】

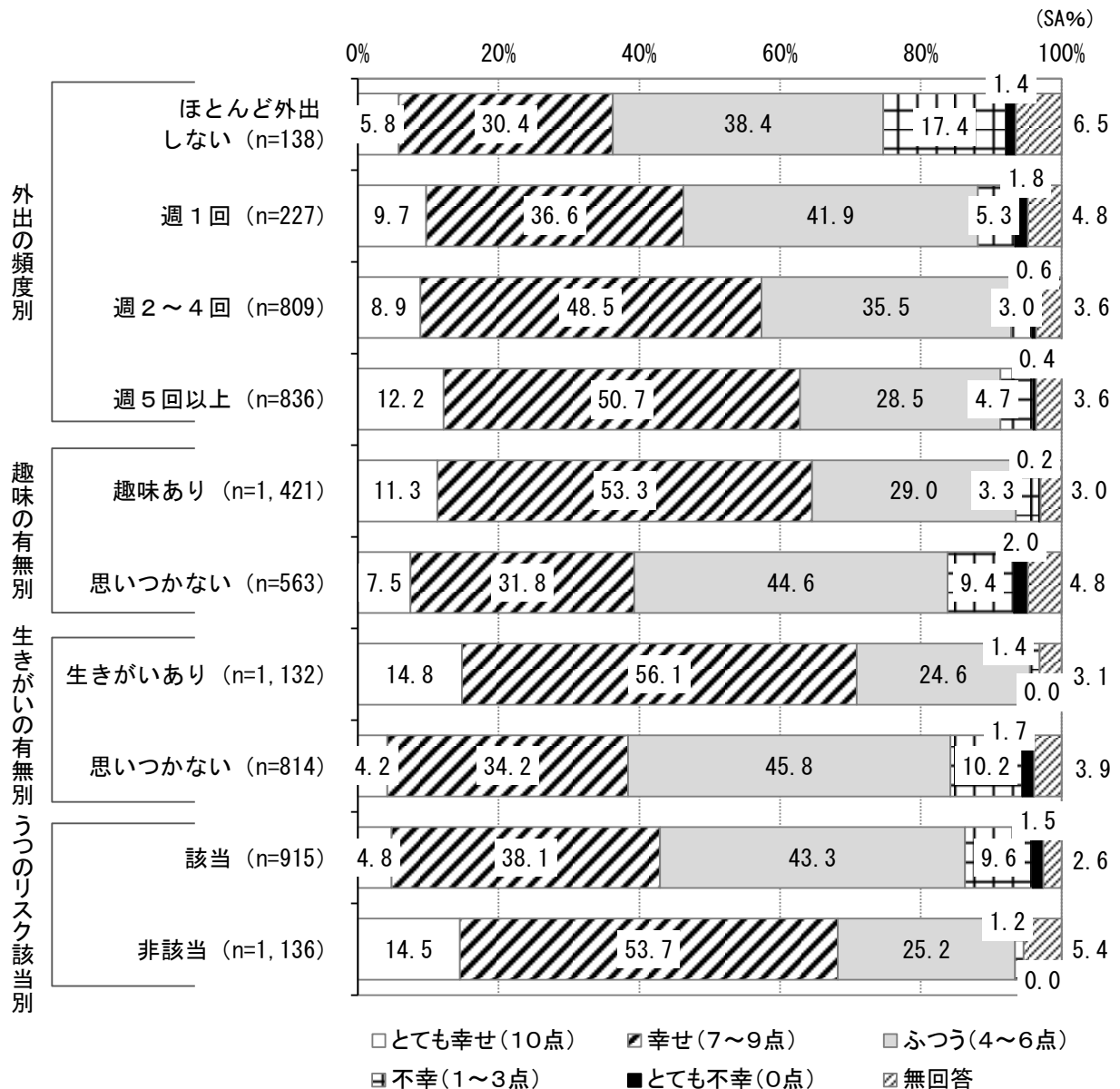
生きがいがある方は、幸福度が高くなっています。

【うつリスク】

うつのリスク該当の方は「ふつう」が最も多く、幸福度が低くなっています。

【主観的幸福感】

(外出の頻度別、趣味の有無別、生きがいの有無別、うつリスク別)



10. 福祉・介護予防などに関する名称、用語について

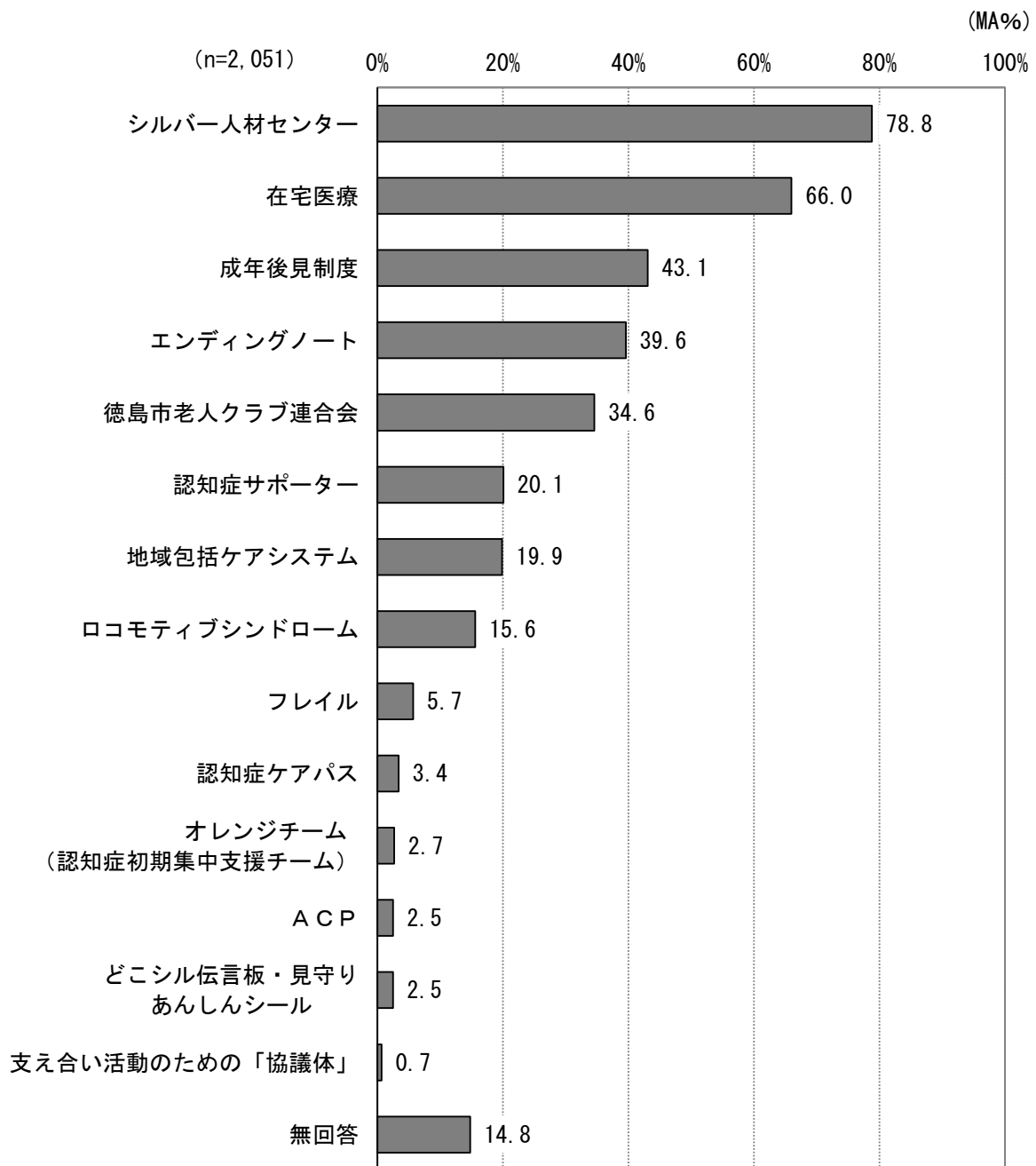
(1) 名称や用語の認知状況

●次の名称や用語について、知っているものを教えてください。（複数回答）

【全体】

「シルバー人材センター」が78.8%で最も多く、次いで「在宅医療」が66.0%、「成年後見制度」が43.1%となっています。

【福祉・介護予防用語の認知度】



【2】在宅介護実態調査

「高齢者の在宅生活の継続」と「介護者の就労継続」に向けた介護サービスの在り方を検討するため、アンケート調査を実施しました。

【回収状況】

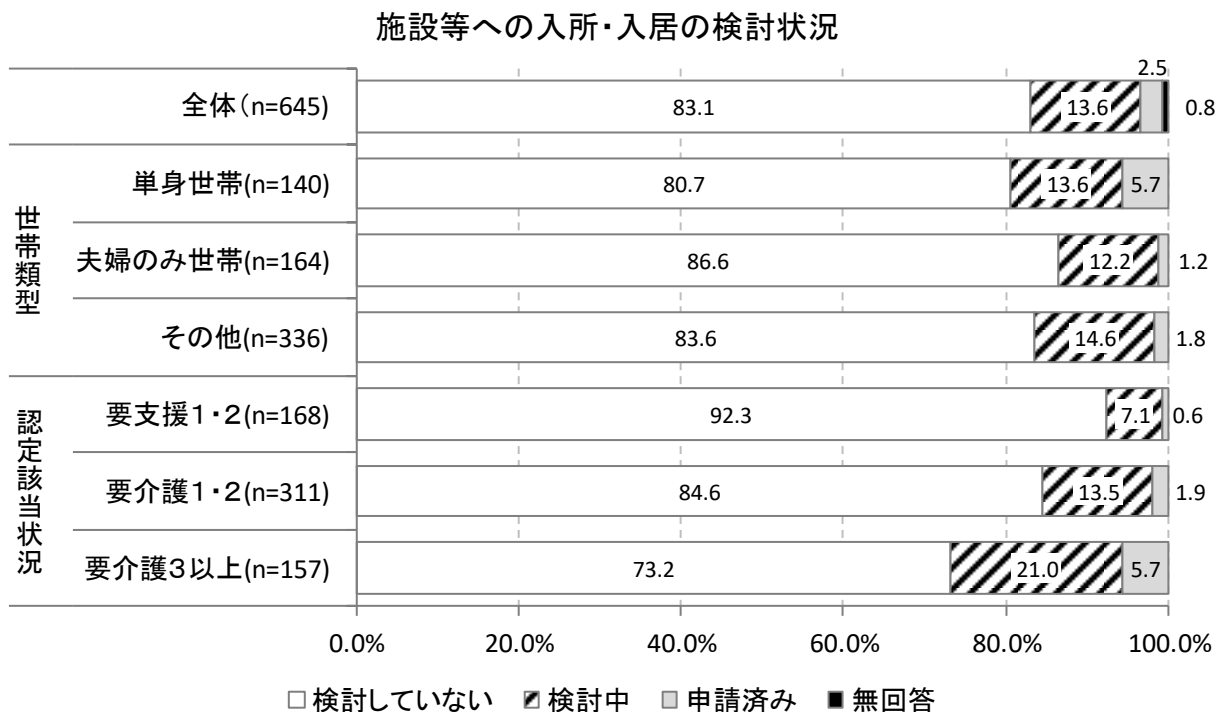
配布数	回収数		有効回収率
	全体	有効	
645 件	645 件	645 件	100.0%

【調査結果】

(1) 要介護者の在宅生活の継続

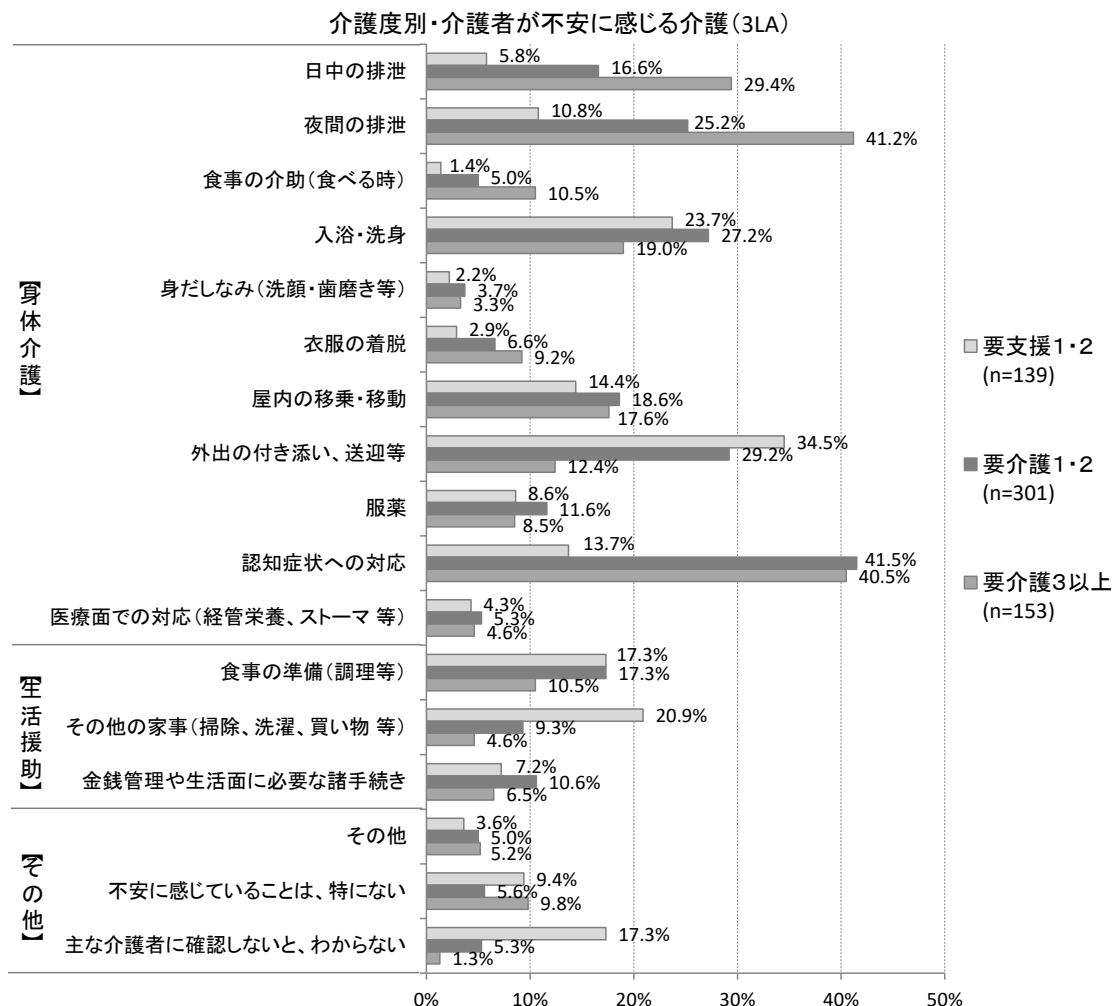
現時点での施設等への入所・入居の検討状況を尋ねると、全体では「検討していない」が 83.1% を占めていますが、世帯類型別では「検討中」または「申請済み」と回答した方は「単身世帯」「その他」「夫婦のみ世帯」の順に多くなっています。

また、認定該当状況別では「検討中」または「申請済み」と回答した方は、介護度の重度化に伴って多くなっています。



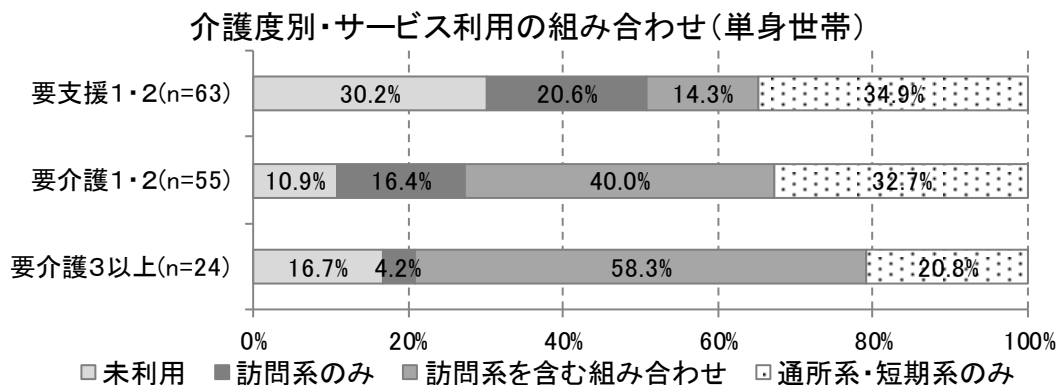
(2) 介護者が不安に感じる介護等

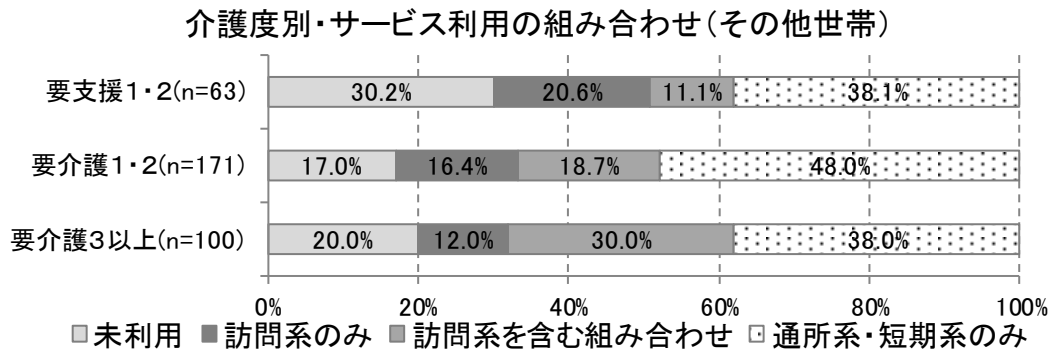
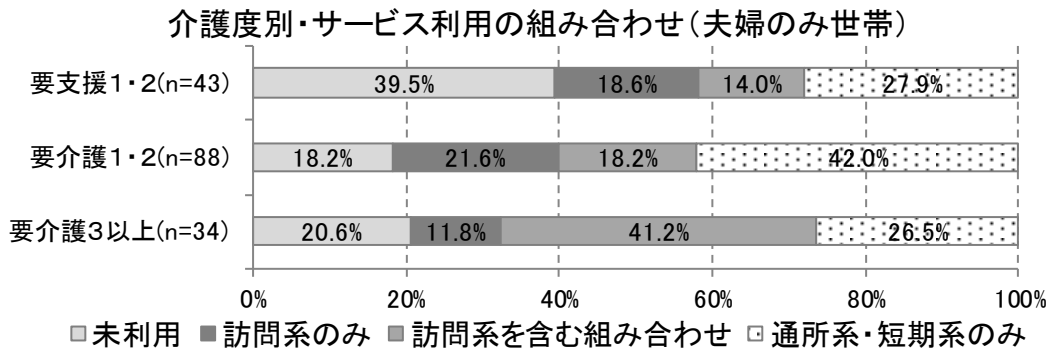
認定該当状況別の現在の生活を続けていくにあたって主な介護者が不安に感じる介護等は、「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」、「要介護1・2」では「認知症状への対応」、「要介護3以上」では「夜間の排泄」が最も多くなっています。



(3) 介護度別サービス利用の組み合わせ

該当介護度別にサービス利用の組み合わせを見ると、全ての世帯類型での共通点として、介護度が上がるにつれて「訪問系を含む組み合わせ」のサービス利用の割合が高くなり、「未利用」の割合は「要支援1・2」「要介護3以上」「要介護1・2」の順に低くなっています。

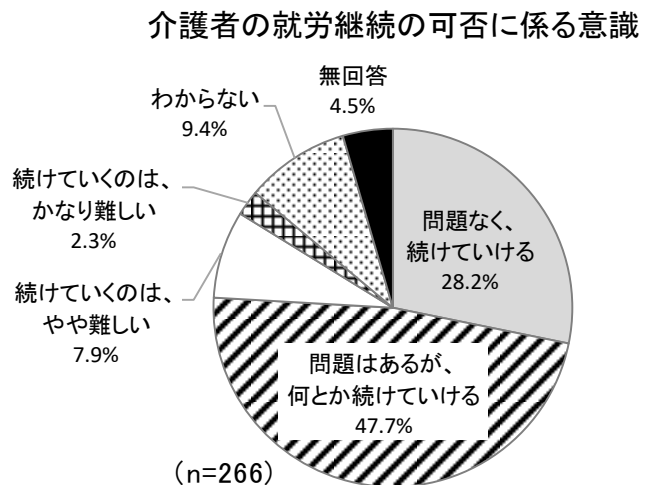
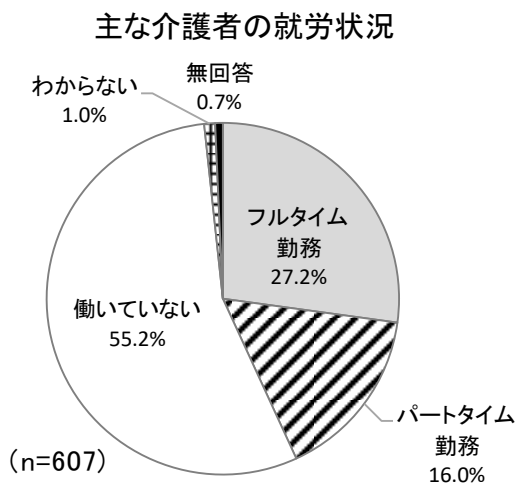




(4) 家族等介護者が就労を継続できるか

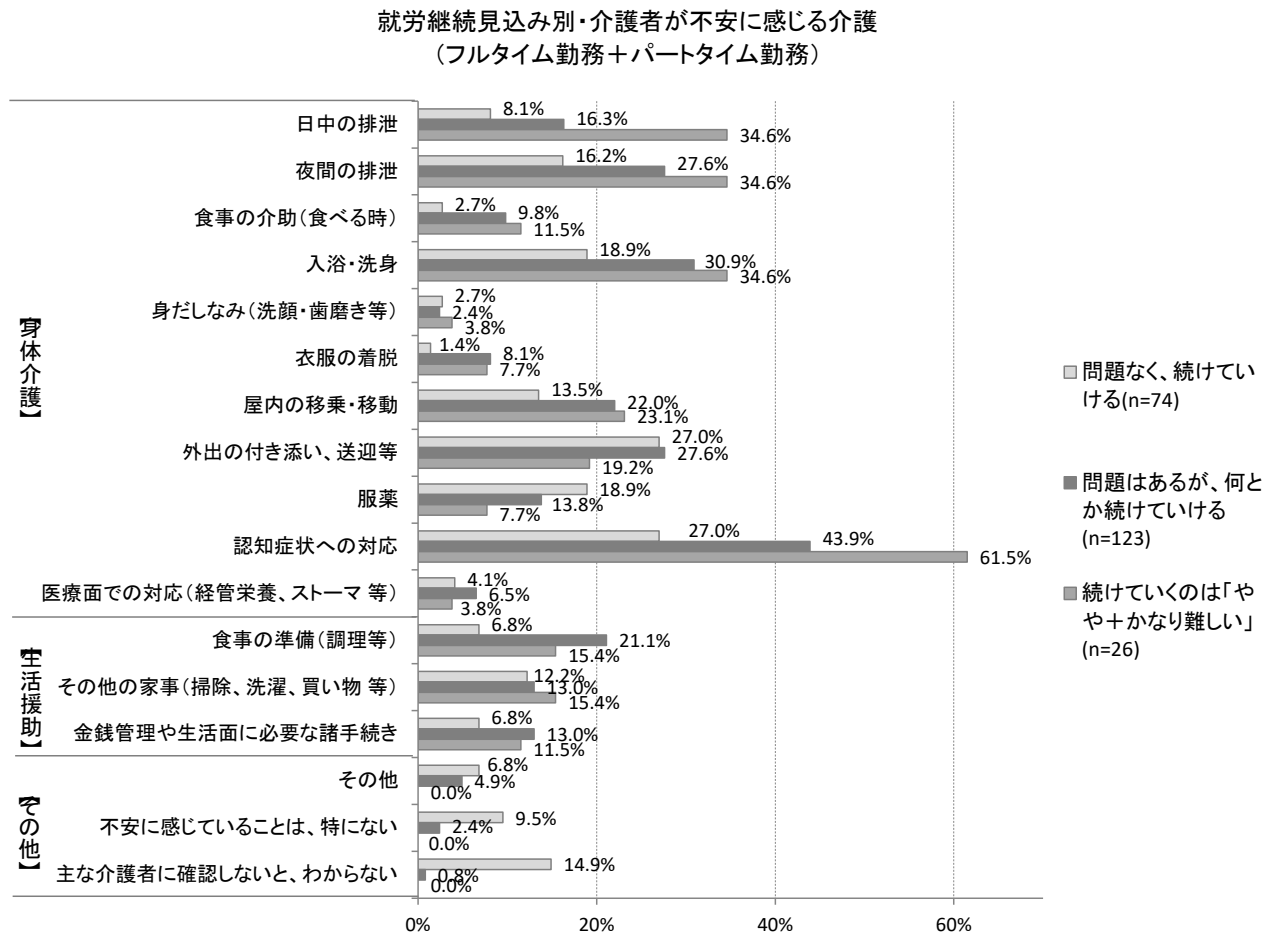
就労状況は「働いていない」が半数を占めており、次いで、「フルタイム勤務」27.2%、「パートタイム勤務」16.0%となっています。

現在就労している方(「フルタイム勤務」及び「パートタイム勤務」と回答)に、今後も働きながら介護を続けていけるかを尋ねると、「問題はあるが、何とか続けていける」47.7%が最も多く、「問題なく、続けていける」とあわせると75.9%の方が「続けていける」と回答しています。「続けていくのは、やや難しい」または「続けていくのは、かなり難しい」と回答した方は10.2%となっています。



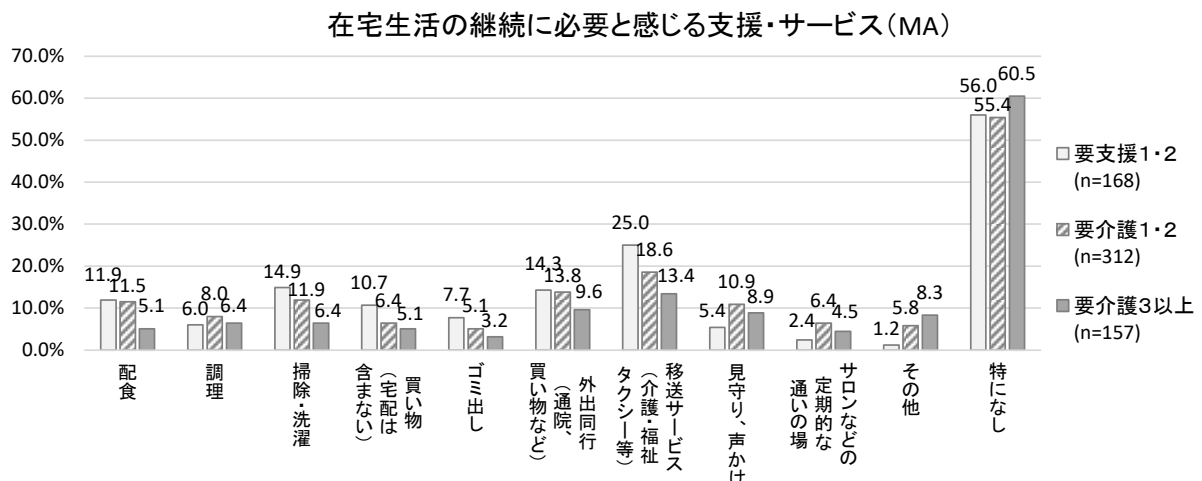
(5) 就労している家族等介護者が不安に感じていること

就労している介護者が不安に感じる介護は、全体で見ると「認知症状への対応」「入浴・洗身」「夜間の排泄」の割合が高くなっています。



(6) 地域支援の整備

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、要支援1・2及び要介護1・2では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」「掃除・洗濯」「外出同行(通院、買い物など)」が多くなっています。要介護3以上では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が最も多く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」「見守り、声かけ」となっています。



【3】介護サービス事業所実態調査

【回収状況】

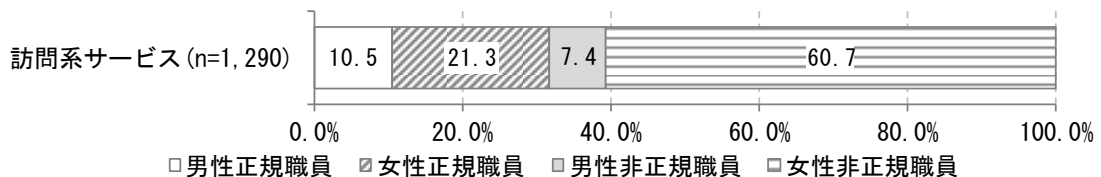
事業所種別		配布数	有効回収数	有効回収率
訪問系	訪問介護	144件	114件	79.2%
	訪問入浴介護	4件	2件	50.0%
	訪問看護	52件	43件	82.7%
	訪問リハビリテーション	38件	34件	89.5%
通所系	通所介護	76件	63件	82.9%
	通所リハビリテーション	48件	43件	89.6%
	地域密着型通所介護	32件	26件	81.3%
	認知症対応型通所介護	10件	8件	80.0%
居住系	特定施設入居者生活介護	3件	3件	100.0%
	認知症対応型共同生活介護	45件	37件	82.2%
施設系	介護老人福祉施設	13件	7件	53.8%
	介護老人保健施設	15件	14件	93.3%
	介護医療院	4件	4件	100.0%
	介護療養型医療施設	11件	11件	100.0%
	短期入所生活介護	30件	15件	50.0%
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	4件	3件	75.0%
その他	小規模多機能型居宅介護	10件	8件	80.0%
	看護小規模多機能型居宅介護	1件	1件	100.0%
合計		540件	436件	80.7%

【調査結果】

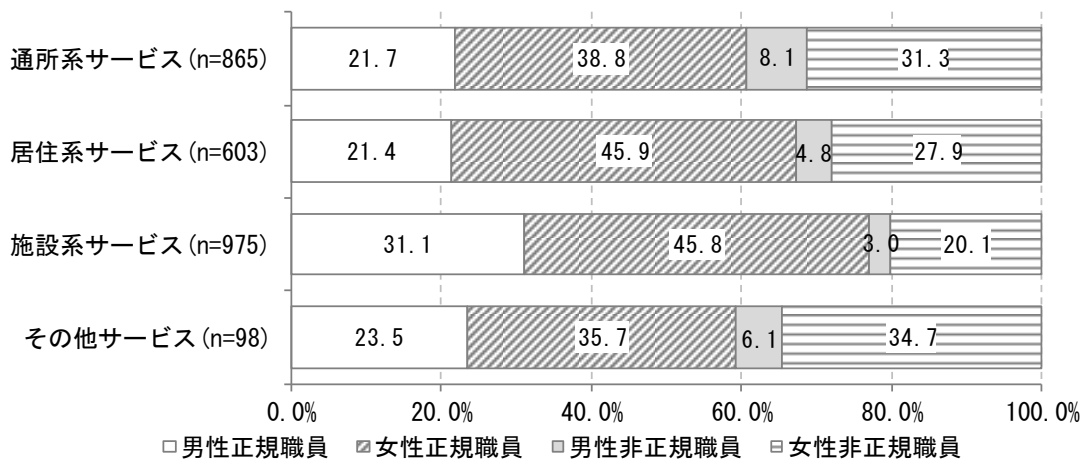
(1) 就労形態と資格保有の状況

正規職員の割合が最も多いのは「施設系サービス」で76.9%、非正規職員の割合が最も多いのは「訪問介護サービス」で68.1%となっています。

訪問介護員の就労形態

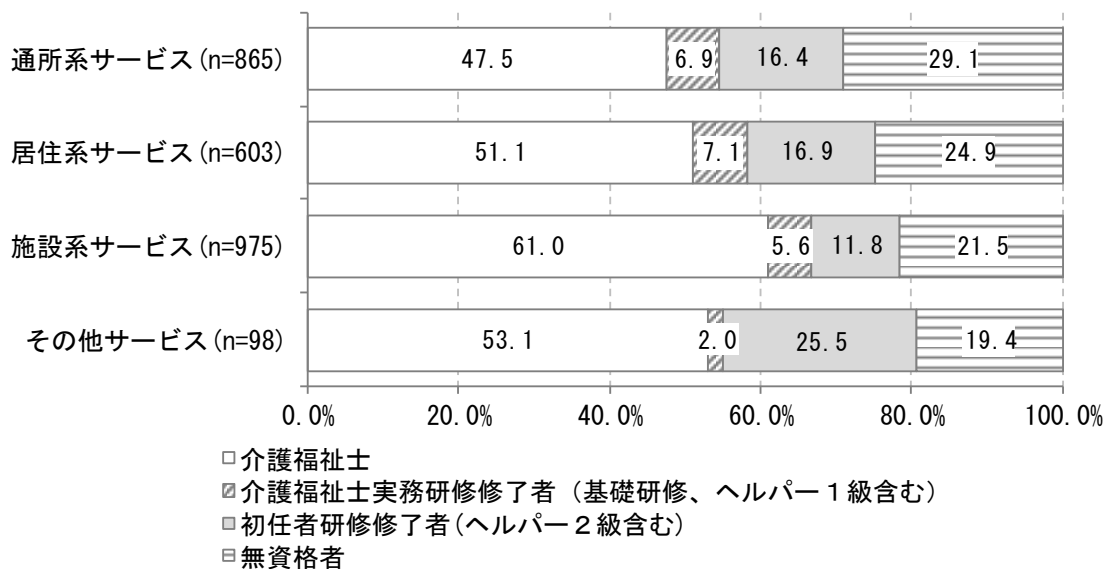


介護職員の就労形態



介護職員の資格保有状況をサービス類型別に見ると、「介護福祉士」の割合が最も多いのは「施設系サービス」で61.0%となっています。また、「無資格者」が最も多いのは「通所系サービス」で29.1%となっています。

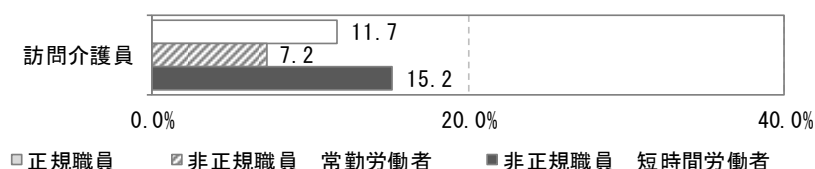
介護職員の資格保有状況



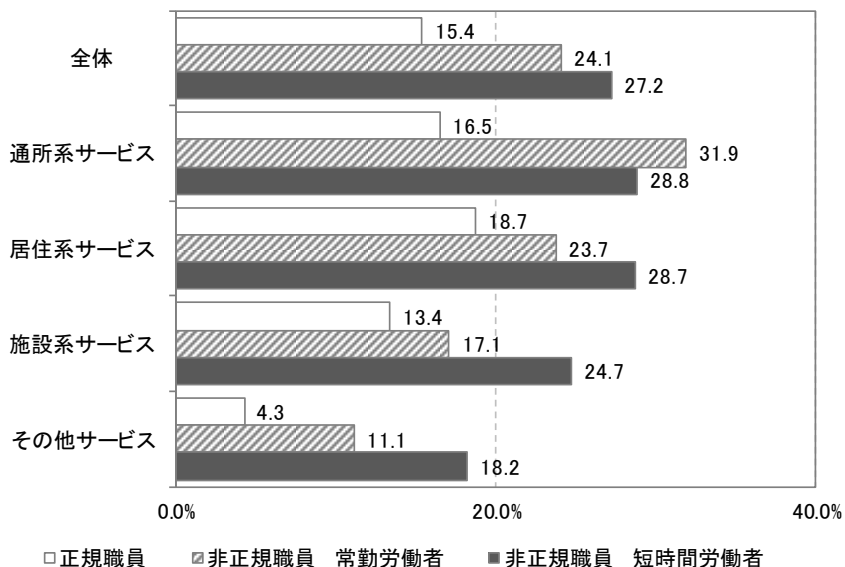
(2) 離職率

介護職員の離職率をサービス類型別にみると、正規職員は「居住系サービス」の離職率が高く、非正規職員は「通所系サービス」の離職率が高くなっています。

訪問介護員の離職率

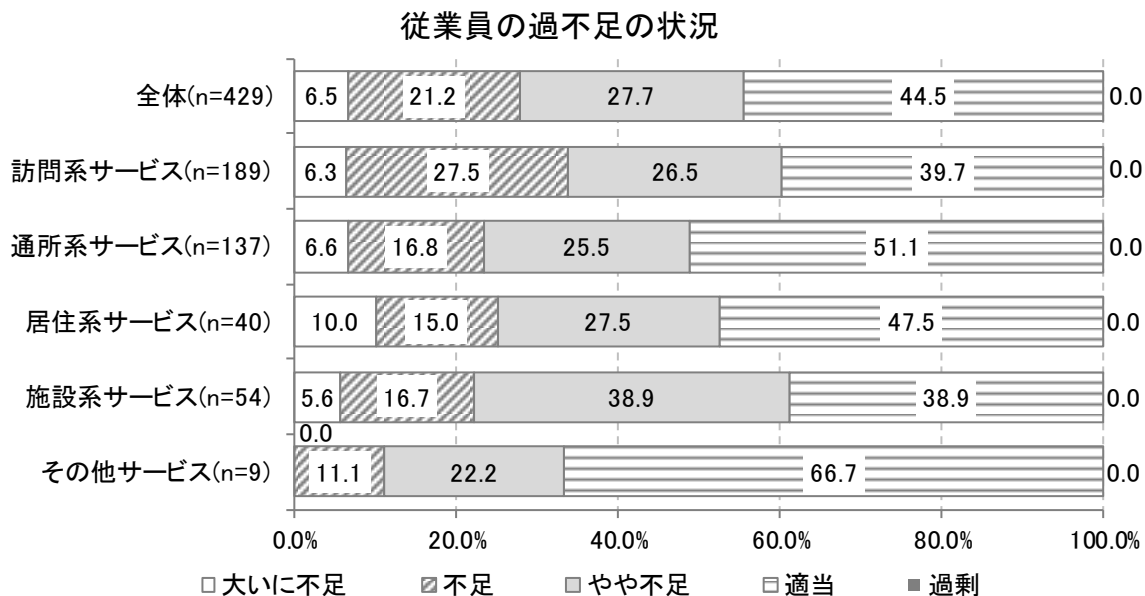


介護職員の離職率

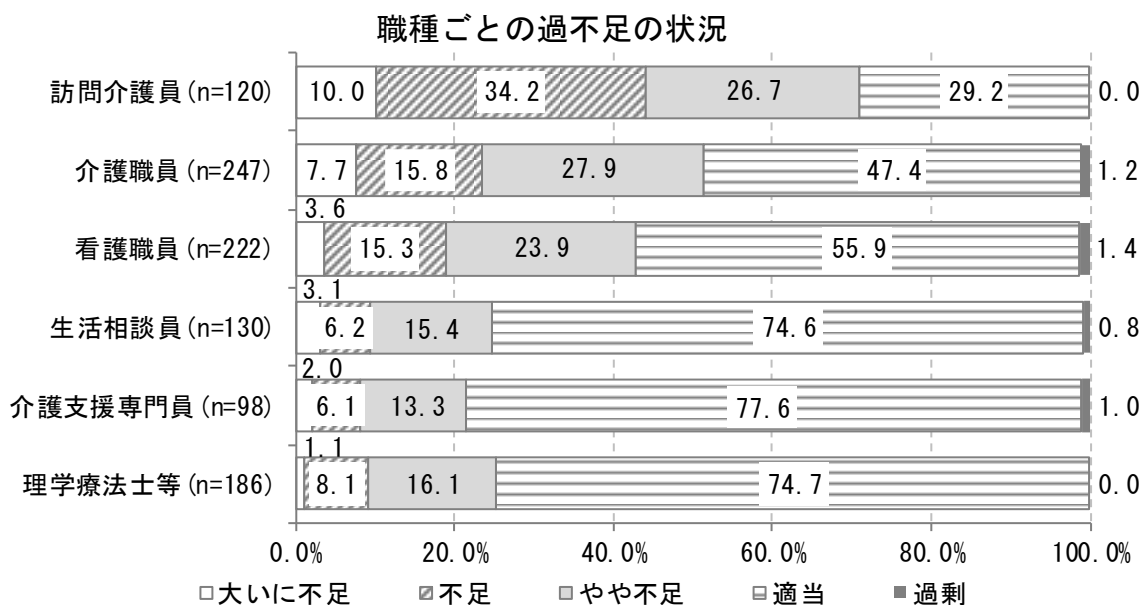


(3) 過不足の状況

過不足の状況をサービス類型別に見ると、“不足”（「大いに不足」「不足」「やや不足」を合わせた）が最も多いのは「施設系サービス」で61.2%、次いで「訪問系サービス」で60.3%となっています。



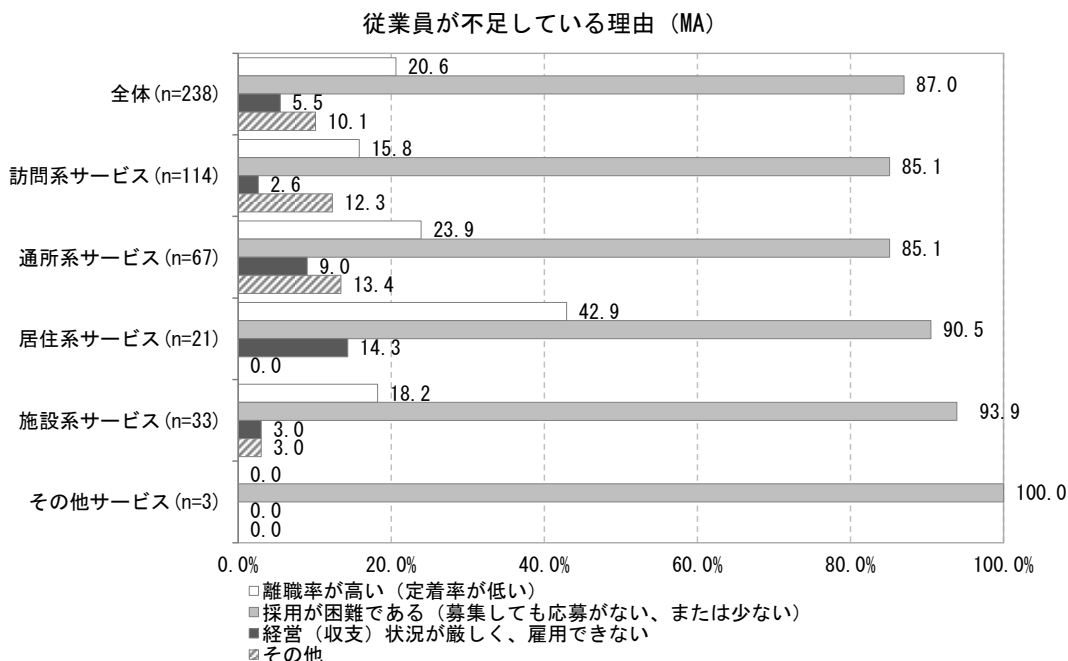
過不足の状況を職種ごとに見ると、“不足”（「大いに不足」「不足」「やや不足」を合わせた）が最も多いのは「訪問介護員」で70.9%、次いで「介護職員」51.4%となっています。



(4) 従業員が不足している理由

従業員が不足している理由は、「採用が困難である（募集しても応募がない、または少ない）」が87.0%で最も多く、次いで「離職率が高い（定着率が低い）」20.6%、「経営（収支）状況が厳しく、雇用できない」5.5%となっています。

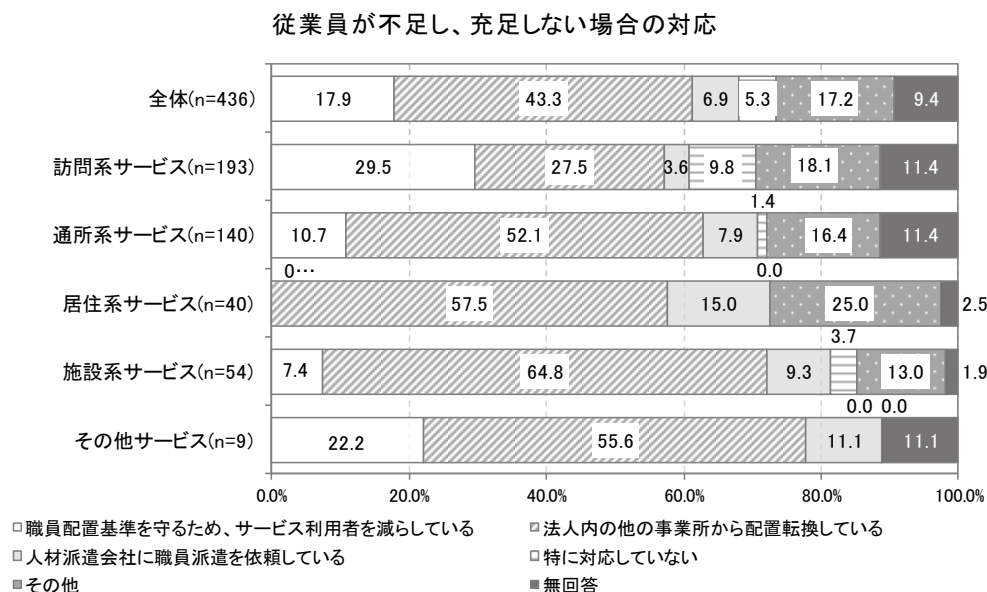
サービス類型別にみると、居住系サービスで「離職率が高い（定着率が低い）」が他を2倍ほど上回っています。



※従業員の過不足の状況において、「大いに不足」、「不足」、「やや不足」を選択した事業所が回答

(5) 職員が不足した場合の対応

従業員が不足し、充足しない場合の対応は「法人内の他の事業所から配置転換している」が43.3%で最も多く、次いで「職員配置基準を守るため、サービス利用者を減らしている」17.9%、「人材派遣会社に職員派遣を依頼している」6.9%となっています。



(6) 採用が困難である原因

採用が困難である原因は、「介護を志す若者が減少している」が58.9%で最も多く、次いで「介護業界のマイナスイメージがある」43.0%、「賃金が低い」39.1%となっています。

サービス類型別にみると、その他サービスを除くすべてのサービス類型で「介護を志す若者が減少している」が最も多くなっています。

採用が困難である原因

単位:件
%

	全体	賃金が低い	労働時間が長い	夜勤が多い (シフト勤務等の不規則な勤務)	年休がとりにくい	産休・育休がとりにくい	仕事がかついで (肉体的、精神的)	雇用が不安定	研修・教育体制が不十分	キャリアアップの機会が不十分	介護業界のマイナスイメージがある	地域内に介護施設や事業所が増加している	介護を志す若者が減少している	その他	わからない	無回答
全体	207	81	4	14	30	5	75	21	6	6	89	67	122	37	10	2
	100.0	39.1	1.9	6.8	14.5	2.4	36.2	10.1	2.9	2.9	43.0	32.4	58.9	17.9	4.8	1.0
訪問系サービス	97	36	2	5	16	2	34	15	3	2	40	24	53	22	5	0
	100.0	37.1	2.1	5.2	16.5	2.1	35.1	15.5	3.1	2.1	41.2	24.7	54.6	22.7	5.2	0.0
通所系サービス	57	23	1	0	7	2	22	4	2	2	19	20	26	8	3	2
	100.0	40.4	1.8	0.0	12.3	3.5	38.6	7.0	3.5	3.5	33.3	35.1	45.6	14.0	5.3	3.5
居住系サービス	19	9	0	2	5	1	6	1	0	0	11	8	15	2	1	0
	100.0	47.4	0.0	10.5	26.3	5.3	31.6	5.3	0.0	0.0	57.9	42.1	78.9	10.5	5.3	0.0
施設系サービス	31	10	0	6	2	0	12	1	1	2	18	14	27	5	1	0
	100.0	32.3	0.0	19.4	6.5	0.0	38.7	3.2	3.2	6.5	58.1	45.2	87.1	16.1	3.2	0.0
その他サービス	3	3	1	1	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0
	100.0	100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0

※従業員の過不足の状況において、「大いに不足」、「不足」、「やや不足」を選択し、従業員が不足している理由について「採用が困難である」を選択した事業所が回答

【4】 居所変更実態調査報告書

【回収状況】

事業所種別	配布数	有効回収数	有効回収率
住宅型有料老人ホーム	26 件	17 件	65.4%
軽費老人ホーム	11 件	7 件	63.6%
サービス付き高齢者向け住宅	33 件	25 件	75.8%
グループホーム(認知症対応型共同生活介護)	44 件	36 件	81.8%
特定施設入居者生活介護	3 件	3 件	100.0%
介護老人保健施設	15 件	13 件	86.7%
介護療養型医療施設	11 件	8 件	72.7%
介護医療院	4 件	2 件	50.0%
介護老人福祉施設	13 件	12 件	92.3%
地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護	4 件	4 件	100.0%
合 計	164 件	127 件	77.4%

【調査結果】

(1) 過去 1 年間の施設等の入居・入所及び退去・退所の流れ

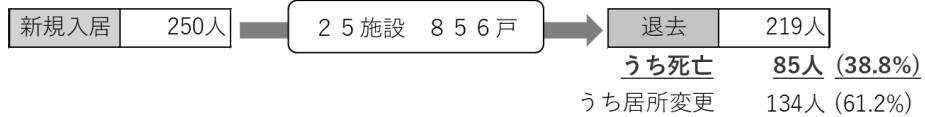
【住宅型有料老人ホーム】

新規入居	188人	17施設 586室	退去	180人
			うち死亡	70人 (38.9%)
			うち居所変更	110人 (61.1%)

入居前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	61人 32.4%	11人 5.9%	72人 38.3%
住宅型有料	6人 3.2%	1人 0.5%	7人 3.7%
軽費	0人 0.0%	3人 1.6%	3人 1.6%
サ高住	4人 2.1%	0人 0.0%	4人 2.1%
GH	4人 2.1%	0人 0.0%	4人 2.1%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	32人 17.0%	5人 2.7%	37人 19.7%
療養型	1人 0.5%	0人 0.0%	1人 0.5%
介護医療院	9人 4.8%	0人 0.0%	9人 4.8%
その他の医療機関	42人 22.3%	7人 3.7%	49人 26.1%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	1人 0.5%	0人 0.0%	1人 0.5%
把握していない			1人 0.5%
合計	160人 85.1%	27人 14.4%	188人 100.0%

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	9人 8.2%	5人 4.5%	14人 12.7%
住宅型有料	9人 8.2%	0人 0.0%	9人 8.2%
軽費	2人 1.8%	0人 0.0%	2人 1.8%
サ高住	4人 3.6%	0人 0.0%	4人 3.6%
GH	8人 7.3%	0人 0.0%	8人 7.3%
特定	1人 0.9%	0人 0.0%	1人 0.9%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	24人 21.8%	13人 11.8%	37人 33.6%
療養型	1人 0.9%	0人 0.0%	1人 0.9%
介護医療院	1人 0.9%	0人 0.0%	1人 0.9%
その他の医療機関	27人 24.5%	0人 0.0%	27人 24.5%
特養	2人 1.8%	2人 1.8%	4人 3.6%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	1人 0.9%	0人 0.0%	1人 0.9%
把握していない			1人 0.9%
合計	89人 80.9%	20人 18.2%	110人 100.0%

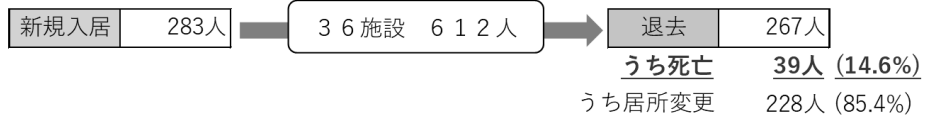
【サービス付き高齢者向け住宅】



入居前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	72人 28.8%	24人 9.6%	96人 38.4%
住宅型有料	9人 3.6%	0人 0.0%	9人 3.6%
軽費	3人 1.2%	0人 0.0%	3人 1.2%
サ高住	15人 6.0%	7人 2.8%	22人 8.8%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	9人 3.6%	4人 1.6%	13人 5.2%
療養型	0人 0.0%	1人 0.4%	1人 0.4%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他の医療機関	75人 30.0%	22人 8.8%	97人 38.8%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	6人 2.4%	1人 0.4%	7人 2.8%
把握していない			2人 0.8%
合計	189人 75.6%	59人 23.6%	250人 100.0%

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	11人 8.2%	5人 3.7%	16人 11.9%
住宅型有料	6人 4.5%	1人 0.7%	7人 5.2%
軽費	4人 3.0%	0人 0.0%	4人 3.0%
サ高住	11人 8.2%	2人 1.5%	13人 9.7%
GH	16人 11.9%	4人 3.0%	20人 14.9%
特定	3人 2.2%	0人 0.0%	3人 2.2%
地密特定	2人 1.5%	0人 0.0%	2人 1.5%
老健	6人 4.5%	5人 3.7%	11人 8.2%
療養型	1人 0.7%	0人 0.0%	1人 0.7%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他の医療機関	37人 27.6%	10人 7.5%	47人 35.1%
特養	2人 1.5%	1人 0.7%	3人 2.2%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	2人 1.5%	1人 0.7%	3人 2.2%
把握していない			4人 3.0%
合計	101人 75.4%	29人 21.6%	134人 100.0%

【グループホーム（認知症対応型共同生活介護）】



入居前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	70人 24.7%	1人 0.4%	71人 25.1%
住宅型有料	12人 4.2%	0人 0.0%	12人 4.2%
軽費	5人 1.8%	0人 0.0%	5人 1.8%
サ高住	11人 3.9%	1人 0.4%	12人 4.2%
GH	15人 5.3%	0人 0.0%	15人 5.3%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	80人 28.3%	2人 0.7%	82人 29.0%
療養型	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他の医療機関	80人 28.3%	0人 0.0%	80人 28.3%
特養	2人 0.7%	0人 0.0%	2人 0.7%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	4人 1.4%	0人 0.0%	4人 1.4%
把握していない			0人 0.0%
合計	279人 98.6%	4人 1.4%	283人 100.0%

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	8人 3.5%	0人 0.0%	8人 3.5%
住宅型有料	1人 0.4%	1人 0.4%	2人 0.9%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	8人 3.5%	0人 0.0%	8人 3.5%
GH	5人 2.2%	0人 0.0%	5人 2.2%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	52人 22.8%	1人 0.4%	53人 23.2%
療養型	7人 3.1%	0人 0.0%	7人 3.1%
介護医療院	4人 1.8%	0人 0.0%	4人 1.8%
その他の医療機関	116人 50.9%	4人 1.8%	120人 52.6%
特養	9人 3.9%	0人 0.0%	9人 3.9%
地密特養	7人 3.1%	0人 0.0%	7人 3.1%
その他	5人 2.2%	0人 0.0%	5人 2.2%
把握していない			0人 0.0%
合計	222人 97.4%	6人 2.6%	228人 100.0%

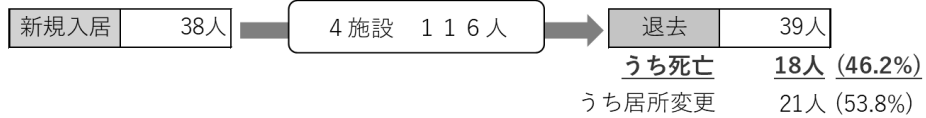
【介護老人福祉施設】



入居前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	23人 15.5%	4人 2.7%	27人 18.2%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	6人 4.1%	2人 1.4%	8人 5.4%
特定	1人 0.7%	0人 0.0%	1人 0.7%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	9人 6.1%	5人 3.4%	14人 9.5%
療養型	3人 2.0%	1人 0.7%	4人 2.7%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他の医療機関	40人 27.0%	4人 2.7%	44人 29.7%
特養	7人 4.7%	3人 2.0%	10人 6.8%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	26人 17.6%	11人 7.4%	37人 25.0%
把握していない			3人 2.0%
合計	115人 77.7%	30人 20.3%	148人 100.0%

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	1人 1.6%	0人 0.0%	1人 1.6%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	1人 1.6%	0人 0.0%	1人 1.6%
療養型	1人 1.6%	0人 0.0%	1人 1.6%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他の医療機関	43人 69.4%	10人 16.1%	53人 85.5%
特養	1人 1.6%	1人 1.6%	2人 3.2%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	4人 6.5%	0人 0.0%	4人 6.5%
把握していない			0人 0.0%
合計	51人 82.3%	11人 17.7%	62人 100.0%

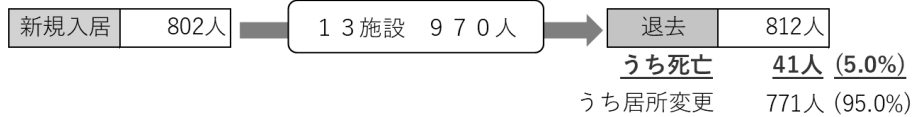
【地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護】



入居前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	15人 39.5%	0人 0.0%	15人 39.5%
住宅型有料	1人 2.6%	0人 0.0%	1人 2.6%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	4人 10.5%	0人 0.0%	4人 10.5%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	1人 2.6%	1人 2.6%	2人 5.3%
療養型	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他の医療機関	8人 21.1%	0人 0.0%	8人 21.1%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	6人 15.8%	2人 5.3%	8人 21.1%
把握していない			0人 0.0%
合計	35人 92.1%	3人 7.9%	38人 100.0%

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
療養型	1人 4.8%	0人 0.0%	1人 4.8%
介護医療院	1人 4.8%	0人 0.0%	1人 4.8%
その他の医療機関	18人 85.7%	0人 0.0%	18人 85.7%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			1人 4.8%
合計	20人 95.2%	0人 0.0%	21人 100.0%

【介護老人保健施設】



入居前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	84人 10.5%	13人 1.6%	97人 12.1%
住宅型有料	85人 10.6%	9人 1.1%	94人 11.7%
軽費	2人 0.2%	0人 0.0%	2人 0.2%
サ高住	9人 1.1%	0人 0.0%	9人 1.1%
GH	54人 6.7%	0人 0.0%	54人 6.7%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	2人 0.2%	0人 0.0%	2人 0.2%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
療養型	5人 0.6%	2人 0.2%	7人 0.9%
介護医療院	1人 0.1%	23人 2.9%	24人 3.0%
その他の医療機関	400人 49.9%	46人 5.7%	446人 55.6%
特養	30人 3.7%	3人 0.4%	33人 4.1%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	29人 3.6%	5人 0.6%	34人 4.2%
把握していない			0人 0.0%
合計	701人 87.4%	101人 12.6%	802人 100.0%

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	86人 11.2%	15人 1.9%	101人 13.1%
住宅型有料	18人 2.3%	10人 1.3%	28人 3.6%
軽費	2人 0.3%	1人 0.1%	3人 0.4%
サ高住	14人 1.8%	4人 0.5%	18人 2.3%
GH	68人 8.8%	0人 0.0%	68人 8.8%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	1人 0.1%	0人 0.0%	1人 0.1%
老健	4人 0.5%	3人 0.4%	7人 0.9%
療養型	0人 0.0%	1人 0.1%	1人 0.1%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他の医療機関	456人 59.1%	47人 6.1%	503人 65.2%
特養	13人 1.7%	15人 1.9%	28人 3.6%
地密特養	1人 0.1%	0人 0.0%	1人 0.1%
その他	11人 1.4%	1人 0.1%	12人 1.6%
把握していない			0人 0.0%
合計	674人 87.4%	97人 12.6%	771人 100.0%

(2) 居所別の居所を変更した要介護度の構成

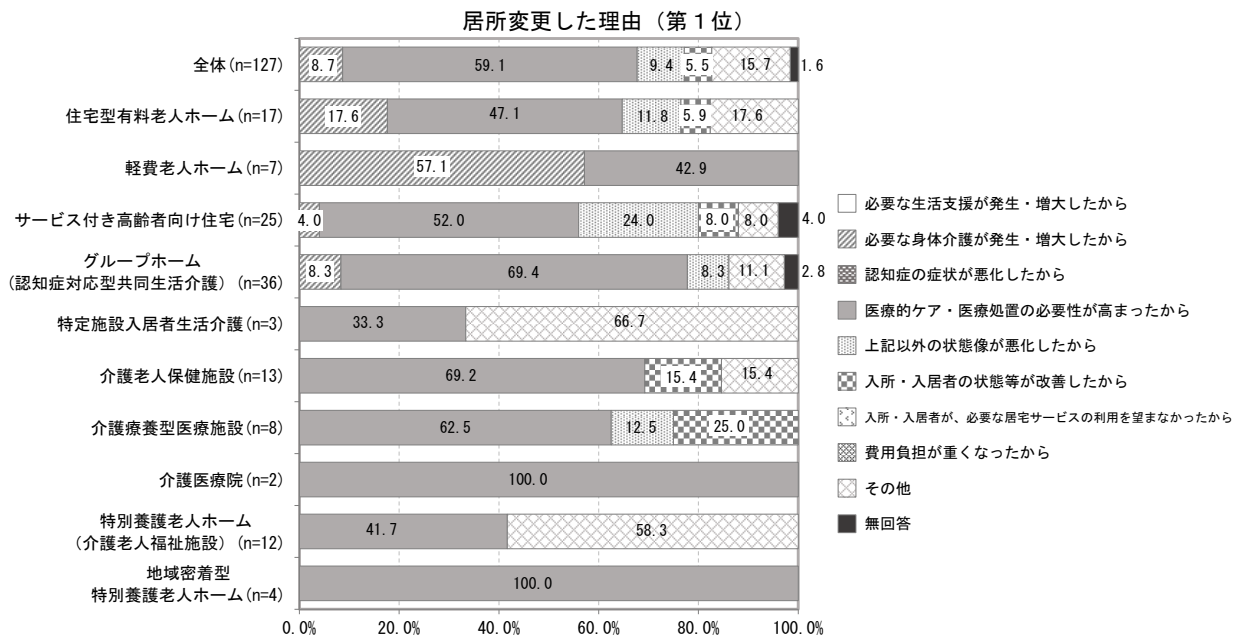
退去者の介護度は、「要介護4」が最も多く、次いで「要介護3」となっています。

退去者の要介護度

	単位: 人 %									
	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	新規
全体	7	11	14	167	210	314	440	277	2	1,442
	0.5	0.8	1.0	11.6	14.6	21.8	30.5	19.2	0.1	100.0
住宅型有料老人ホーム	1	4	3	24	25	19	22	11	1	110
	0.9	3.6	2.7	21.8	22.7	17.3	20.0	10.0	0.9	100.0
軽費老人ホーム	3	1	3	16	13	4	3	0	0	43
	7.0	2.3	7.0	37.2	30.2	9.3	7.0	0.0	0.0	100.0
サービス付き高齢者向け住宅	2	6	8	25	32	30	20	10	1	134
	1.5	4.5	6.0	18.7	23.9	22.4	14.9	7.5	0.7	100.0
グループホーム(認知症対応型 共同生活介護)	0	0	0	31	28	65	61	43	0	228
	0.0	0.0	0.0	13.6	12.3	28.5	26.8	18.9	0.0	100.0
特定施設入居者生活介護	1	0	0	2	1	3	1	0	0	8
	12.5	0.0	0.0	25.0	12.5	37.5	12.5	0.0	0.0	100.0
介護老人保健施設	0	0	0	63	101	165	274	168	0	771
	0.0	0.0	0.0	8.2	13.1	21.4	35.5	21.8	0.0	100.0
介護療養型医療施設	0	0	0	5	7	11	29	8	0	60
	0.0	0.0	0.0	8.3	11.7	18.3	48.3	13.3	0.0	100.0
介護医療院	0	0	0	0	0	1	4	0	0	5
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0	100.0
特別養護老人ホーム(介護老人 福祉施設)	0	0	0	1	3	12	19	27	0	62
	0.0	0.0	0.0	1.6	4.8	19.4	30.6	43.5	0.0	100.0
地域密着型特別養護老人ホーム	0	0	0	0	0	4	7	10	0	21
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.0	33.3	47.6	0.0	100.0

(3) 居所を変更した理由

居所変更の理由の第1位を見ると、全体では「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」が59.1%と最も多くなっています。



(4) 居所別の医療処置を受けている人数

入所・入居者の医療処置を受けている状況は、全体では「経管栄養」が最も多く、次いで「喀痰吸引」、「カテーテル」となっています。

事業所別にみると、入所・入居者の介護度が比較的高かった「介護老人保健施設」「介護療養型医療施設」「介護医療院」「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）」で「経管栄養」が最も多くなっています。

入所・入居者の医療処置を受けている状況

単位: 人 %

	点滴の管理	中心静脈栄養	透析	ストーマの処置	酸素療法	レスビレーター	気管切開の処置	疼痛の看護	経管栄養	モニター測定	褥瘡の処置	カテーテル	喀痰吸引	インスリン注射
全体(n=127)	121	14	60	32	113	0	5	40	313	13	103	183	221	93
	2.9	0.3	1.4	0.8	2.7	0.0	0.1	1.0	7.5	0.3	2.5	4.4	5.3	2.2
住宅型有料老人ホーム(n=17)	6	2	8	3	27	0	0	5	7	0	7	16	5	17
	1.1	0.4	1.5	0.6	5.1	0.0	0.0	0.9	1.3	0.0	1.3	3.0	0.9	3.2
軽費老人ホーム(n=7)	0	0	28	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	0.0	0.0	9.1	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
サービス付き高齢者向け住宅(n=25)	12	1	16	6	28	0	0	12	9	0	14	25	8	17
	1.5	0.1	2.1	0.8	3.6	0.0	0.0	1.5	1.2	0.0	1.8	3.2	1.0	2.2
グループホーム (認知症対応型共同生活介護)(n=36)	1	0	2	3	9	0	0	0	1	0	2	4	7	6
	0.2	0.0	0.3	0.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.3	0.7	1.2	1.0
特定施設入居者生活介護(n=3)	11	8	4	2	21	0	0	5	15	0	4	18	22	3
	6.5	4.8	2.4	1.2	12.5	0.0	0.0	3.0	8.9	0.0	2.4	10.7	13.1	1.8
介護老人保健施設(n=13)	33	0	2	10	11	0	2	8	139	2	32	61	87	29
	3.7	0.0	0.2	1.1	1.2	0.0	0.2	0.9	15.6	0.2	3.6	6.8	9.8	3.3
介護療養型医療施設(n=8)	25	3	0	2	8	0	3	4	83	11	11	34	51	7
	10.9	1.3	0.0	0.9	3.5	0.0	1.3	1.7	36.2	4.8	4.8	14.8	22.3	3.1
介護医療院(n=2)	4	0	0	0	1	0	0	0	10	0	3	3	8	4
	11.1	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	27.8	0.0	8.3	8.3	22.2	11.1
特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設)(n=12)	22	0	0	2	6	0	0	6	48	0	27	22	30	6
	4.2	0.0	0.0	0.4	1.1	0.0	0.0	1.1	9.1	0.0	5.1	4.2	5.7	1.1
地域密着型特別養護老人ホーム(n=4)	7	0	0	4	1	0	0	0	1	0	3	0	3	1
	6.1	0.0	0.0	3.5	0.9	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	2.6	0.0	2.6	0.9